

平成5年度教授要目

平成5年度

教授要目

小樽商科大学

平成5年度 1993/1994 CALENDAR

4月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3							1	2
	4	5	6	7	8	9	10		3	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16	17		⑩	11	12	13	14	15	16
月	18	19	20	21	22	23	24	月	17	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	⑳	30			24 31	25	26	27	28	29	30
5月	日	月	火	水	木	金	土	11月	日	月	火	水	木	金	土
							1				1	2	③	4	5
	2	③	④	⑤	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20
月	16	17	18	19	20	21	22	月	21	22	⑳	24	25	26	27
	23 30	24 31	25	26	27	28	29		28	29	30				
6月	日	月	火	水	木	金	土	12月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5					1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11	12		5	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18
月	20	21	22	23	24	25	26	月	19	20	21	22	⑳	24	25
	27	28	29	30					26	27	28	29	30	31	
7月	日	月	火	水	木	金	土	1月(6年)	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3								①
	4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8
	11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	⑮
月	18	19	20	21	22	23	24	1月(6年)	16	17	18	19	20	21	22
	25	26	27	28	29	30	31		23 30	24 31	25	26	27	28	29
8月	日	月	火	水	木	金	土	2月(6年)	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4	5
	8	9	10	11	12	13	14		6	7	8	9	10	⑪	12
	15	16	17	18	19	20	21		13	14	15	16	17	18	19
月	22	23	24	25	26	27	28	2月(6年)	20	21	22	23	24	25	26
	29	30	31						27	28					
9月	日	月	火	水	木	金	土	3月(6年)	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4				1	2	3	4	5
	5	6	7	8	9	10	11		6	7	8	9	10	11	12
	12	13	14	⑮	16	17	18		13	14	15	16	17	18	19
月	19	20	21	22	⑳	24	25	3月(6年)	⑳	21	22	23	24	25	26
	26	27	28	29	30				27	28	29	30	31		

太数字は休業日、○印は祝日及び休日

平成5年度 行事予定

期	日	間	内	容
前	4月12日(月)		入学式	
	4月12日(月)～4月14日(水)		新入生オリエンテーション	
	4月13日(火)		2～4年次生授業開始及び成績票交付	
	4月15日(木)		新入生授業開始	
	4月30日(金)		履修届締切日	
	5月下旬		定期健康診断	
	5月24日(月)～5月28日(金)		履修確認期間	
	6月10日(木)～6月11日(金)	}	半期制科目中間試験期間	
	6月14日(月)～6月15日(火)			
	7月7日(水)		創立記念日	
7月19日(月)～7月26日(月)		履修科目取消期間(通年及び前期開講科目)		
7月23日(金)～7月29日(木)		夏季集中講義		
7月23日(金)～8月31日(火)		夏季休業		
9月14日(火)		前期授業終了		
9月16日(木)～9月30日(木)		前期定期試験		
後	10月1日(金)		後期授業開始	
	11月4日(木)		研究指導オリエンテーション	
	11月8日(月)～11月30日(火)		研究指導募集選考期間	
	11月25日(木)～11月26日(金)	}	半期制科目中間試験期間	
	11月29日(月)～11月30日(火)			
	12月2日(木)		研究指導内定者発表	
	12月16日(木)～12月22日(水)		履修科目取消期間(後期開講科目)	
	12月23日(木)～1月16日(日)		冬季休業	
	1月7日(金)～1月10日(月)		履修科目取消期間(冬季集中講義科目)	
	1月7日(金)～1月13日(木)		冬季集中講義	
	1月24日(月)		学科・課程所属オリエンテーション	
	1月25日(火)～1月28日(金)		学科・課程所属指導期間	
	1月31日(月)		卒業論文提出締切日	
	2月1日(火)～2月4日(金)		学科・課程所属募集期間	
	2月12日(土)		臨時休業	
2月13日(日)		後期授業終了		
2月14日(月)～3月2日(水)		後期定期試験		
3月14日(月)		卒業判定会議(予定)		
3月18日(金)		卒業式		

目次	
I	平成5年度開講科目..... 1
II	卒業に必要な単位一覧表..... 12
III	科目履修と単位修得..... 14
1	一般教育科目の履修方法..... 14
2	外国語科目の履修方法..... 14
3	保健体育科目の履修方法..... 22
4	基礎教育科目の履修方法..... 22
5	専門教育科目の履修方法..... 22
6	研究指導の履修方法..... 23
7	教職科目の履修方法..... 23
8	単位の互換制度..... 29
9	平成4年度以前入学者の履修上の注意事項..... 30
10	進級に必要な単位..... 31
IV	科目試験受験に際しての注意事項..... 33
V	卒業論文執筆要領..... 34
VI	平成5年度開講科目(昼間コース)の講義要目..... 39
VII	平成5年度開講科目(夜間主コース)の講義要目..... 161
VIII	平成5年度ゼミ教室配置図..... 183

昼間コース

I 平成5年度開講科目

〔一般教育科目等〕

区分	授業科目	単位数	必修科目		配当年次	実施期間	担当教官	備考		
			平成4年度以前入学者	平成3年度以前入学者						
一般教育科目	人文科学系	哲学	4		I	通年	渡辺	41		
		倫理学	4		II	通年	渡辺	41		
		心理学	4		I	後期	和田	41		
		歴史学	4		I	通年	荻野	41 A・B2クラス		
		日本文学	4		I	A通年・B前期	村山	42 A・B2クラス		
		外国文学	4		II	通年	豊国	43		
		ドイツ文学	4		I	通年	中川	43		
		フランス文学							非開講	
		中国文学							非開講	
		ロシア文学							非開講	
社会科学系	社会学	4			I	通年	宝福	43		
	社会思想史	4			I	通年	倉田	44 A・B2クラス		
	教育学	4			I	通年	上野・土屋	44		
	政治学	4			I	通年	坪井	45		
	*社会科学特別講義I								非開講	
	*社会科学特別講義II	2			I・II	夏季集中	トラン	45		
自然科学系	物理学	4			I	通年	原田	46		
	化学	4			I	通年	片岡	46 A・B2クラス		
	生物学	4			I	通年	金沢	47 A・B2クラス		
	自然科学概論								非開講	
外国語科目	英語	(講読A)	2	○	◎	I	通年	P.16別表参照	48	
		英語I(講読B)	2	○	◎	I	通年			
		(会話・作文)	2	○	◎	I	通年			
		英語II(講読)	2	○	◎	II	通年	P.16別表参照		
		(講読)	2		◎	II	通年			
	英語III	2		◎	III	通年	P.16別表参照	58		
	英語以外の外国語	ドイツ語	I	2	○	○	I	通年	ドイツ語 P.18別表参照 フランス語 P.20別表参照 中国語 裴・萩原・高 スペイン語 山田 ロシア語 匹田・ スベヴァコフスキー・松本	61 69
		フランス語	I	2	○	○	I	通年		
		中国語	II	2	○	○	II	通年		
		スペイン語	II	2		○	II	通年		
ロシア語		III	2			III	通年			
保健体育	*保健体育理論	2	◎			I	前期	浅沼・田野・中川	70 A・B2クラス	
	体育実技	2	◎	◎		I	通年	田野・花輪・中川・杉山 藤江・中島・山本・大沼 山田	71 前期・後期のいずれかを履修	
基礎科目	経済学概論	4	○	○		I	通年	佐竹・和田	74 経済学科 所属者必修	
	商学概論	4	○	○		I	通年	A 片桐・篠崎・渡辺 B 山本・片桐・鶴野	75 商学科 所属者必修 商業学科(商学コース)	
	法学概論	4	○	○		I	通年	町村・清水	79 企業法学科 所属者必修 商業学科(経営法学科コース) 商業教員養成課程	
	*社会情報概論	4	○	○		I	通年	A 杉本・中村・沼田 B 中村・杉本・沼田	80 社会情報学科 所属者必修 管理科学科	
	数学	4	○	○		I	通年	兼岩・池田	82 4クラス	

(注) 1. 授業科目名の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
 2. 必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目を示す。
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

〔専門教育科目〕
経済学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目					配当年次	実施期間	担当教官	備考	
			平成4年度以降入学者	平成3年度以前入学者	E	C	L					M
基礎	*マクロ経済学	4	○	○	△	△	△	△	II	前期	加藤・山本	83
	*ミクロ経済学	4	○	○					II	後期	山本	83
	マルクス経済学											非開講
	現代経済理論											非開講
	統計学	4	○	○	△	△	△		II	通年	西山	84
	数理統計学	4							III	通年	西山	84
	経済統計学	4							III・IV	後期	本間	85
	計量経済学	4							III	通年	遠藤	85
	経済データ解析論											非開講
	経済学史	4							III	後期	栗田	86
経済学	*経済学史	4	○	○	△	△			II	通年	井上	86
	日本経済史	4							III	前期	今西	87
	西洋経済史											非開講
	国際経済史											非開講
応用	経済政策	4	○	○	△	△			III	前期	板谷	87
	社会政策	4							III	通年	中村	88
	*産業組織論											非開講
	農業経済学	4							III・IV	通年	長南	88
	財政学	4	○	○					III・IV	後期	角野	89
	地域経済学											非開講
	金融経済論	4	○	○					III	前期	和田	89
	金融政策											非開講
	国際経済論	4	○	○	△	△			II・III	通年	佐竹	90
	国際経済政策											非開講
経済学	国際政治経済学											非開講
	国際金融論	4	○						III・IV	通年	渋谷	91
	*経済学特別講義I	4							III・IV	前期	クライン	92
	経済学特別講義II											非開講
	経済学特別講義III											非開講
	経済原論III	4							III	通年	花田	92
	貿易政策	4							III・IV	後期	船津	93
	研究指導	12							III・IV	2年継続		131~137

- (注) 1. 授業科目の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。
Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。
3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

商 学 科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目					配当年次	実施期間	担当教官	備考		
			平成4年度以降入学者	平成3年度以前入学者	E	C	L					M	K
商学	流通組織論	4	○		○	△	△		II	通年	片桐・伊藤	93	
	マーケティング	4							III	前期	高宮城	94	
	流通政策	4							III・IV	後期	伊藤・黄	94	
	消費者行動論											非開講	
	国際マーケティング	4							III・IV	通年	李(性)	95	
	貿易論											非開講	
	保険論	4							III・IV	前期	中浜	95	
	交通論	4							III・IV	後期	山本(純)	96	
	証券市場論	4	○		○	△	△		III・IV	前期	井村	96	
	銀行論											非開講	
経営学	商学特講I											非開講	
	商学特講II											非開講	
	経営学原理	4	○		△	○	△	△	△	II	通年	篠崎	97
	経営学説史	4								III・IV	通年	大月	98
	企業形態論	4								III・IV	通年	小田	98
	経営管理論	4	○		○	△	△		II	後期	鶴野	98	
	労務管理論	4				△			III・IV	通年	高木	99	
	財務管理論	4							III・IV	前期	中村	99	
	産業心理学											非開講	
	経営史	4	○		○				III	前期	市原	100	
会計学	比較経営学	2							III・IV	夏季集中	榊原	100	
	国際企業論	4							III・IV	通年	牛丸	100	
	経営学特講I											非開講	
	経営学特講II											非開講	
	*簿記論	4	○		○			△	II	前期	A松本B山本(真)	101	
	財務会計論		○		△	○	△	△				非開講	
	監査論	2							III・IV	夏季集中	津田	102	
	国際会計論	4							III・IV	後期	松本	102	
	原価計算論	4	○		○				III	後期	福島	103	
	管理会計論		○									非開講	
社会学	経営分析論											非開講	
	会計学特講I											非開講	
	会計学特講II											非開講	
	商品学											非開講	
	商業英語	4							III	通年	相川	104	
	証券金融論											非開講	
	国際資本移動論											非開講	
	会計学	4			△	○	△	△	△	III	通年	久野	104
	外国人特殊講義											非開講	
	研究指導	12							III・IV	2年継続		138~145	

- (注) 1. 授業科目の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。
Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。
3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

企業法学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目					配当年次	実施期間	担当教官	備考
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者						
			E	C	L	M	K				
基礎法	*憲法総論	4	○		○			II	通年	結城	105
	統治機構論	4						II	通年	猪股	105
	行政法総論		○								非開講
	行政機構法										非開講
	租税法										非開講
	*民法総論	4	○	△△	○	△△		II	前期	渡辺	105
	*契約法	4	○	△△	○			II	後期	藤原	106
	担保法										非開講
	*刑法	4	○		○			II	通年	白木	106
	*国際法	4	○		○			III	後期	中村	106
企業法	国際機構論										非開講
	*比較法	4					III・IV	前期	伊藤	107	
	基礎法特講										非開講
	会社法	4	○	△△	○	△	III	前期	青竹	107	
	商取引法	4	○	△△			III	通年	田辺・青竹	107	
	有価証券法	4					III	後期	田辺	108	
	民事手続法		○								非開講
	倒産処理法										非開講
	経済法	4			○		III	後期	和田	108	
	知的財産権法										非開講
法	労働法	4			○		III	通年	島田	108	
	社会保障法	2					III・IV	夏季集中	江口	109	
	環境法	4					III	通年	畠山・神田	109	
	国際経済法	4			△		III・IV	通年	清水	110	
	国際取引法	4					III・IV	通年	桑原	110	
	企業法特講										非開講
	行政法 I	4					III	通年	秋山	111	
	行政法 II	4					III・IV	通年	畠山・猪股	111	
	民事訴訟法	4					III・IV	前期	町村	112	
	無体財産法	4					III・IV	通年	久々湊	113	
研究指導	12					III・IV	2年継続		146~151		

- (注) 1. 授業科目の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
 2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。
 Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

社会情報学科

講座	授業科目	単位数	選択必修科目					配当年次	実施期間	担当教官	備考
			平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者						
			E	C	L	M	K				
計画	*管理科学	4	○	△△	○			II	通年	奥田	113
	計画科学 I		○								非開講
	計画科学 II										非開講
	社会計画 I										非開講
	社会計画 II										非開講
	*計画数学 I	4	○	△		○		II	通年	行方・沼田	113
	*計画数学 II	4	○			○		II	通年	行方	114
	応用統計 I										非開講
	応用統計 II										非開講
	計画科学特講 I										非開講
組織と情報	計画科学特講 II										非開講
	組織と情報総論	4	○					II	通年	山本・持田	115
	経営情報論						△				非開講
	会計情報論	6	○	△	○			III	通年	山本	116
	行政情報論										非開講
	システムセキュリティ論										非開講
	組織と情報特講 I										非開講
	組織と情報特講 II										非開講
	社会と情報	4						II	通年	沼田	117
	*ソフトウェア科学 I	4	○	△		○△		II	前期	中村	117
社会	ソフトウェア科学 II	4						II	後期	杉本	118
	ソフトウェア科学 III										非開講
	知識情報論		○								非開講
	情報システム I		○								非開講
	情報システム II										非開講
	情報教育論 I										非開講
	情報教育論 II										非開講
	情報科学特講 I										非開講
	情報科学特講 II										非開講
	管理科学 I	6				○		III	通年	若林	118
情報	管理科学 II	6				○		III	通年	加藤	119
	管理科学 III	6				○		III・IV	通年	戸島・中村	120
	管理科学特講 II	3						III・IV	前期	浅利	120
	応用数学(統計 I)	6						III	通年	清水川	120
	応用数学(統計 II)	6						III・IV	通年	清水川	121
	応用数学特講										非開講
	情報処理 II	6						III	通年	杉本	121
	情報処理 III	6						III・IV	通年	戸島	121
	情報処理特講	3						III・IV	前期	若林	122
	研究指導	12						III・IV	2年継続		152~157

- (注) 1. 授業科目の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
 2. 選択必修科目欄の○は所属学科選択必修科目、△は他学科選択必修科目。
 Eは経済学科、Cは商学科(商業学科商学コース)、Lは企業法学科(商業学科経営法学コース)、Mは社会情報学科(管理科学科)、Kは商業教員養成課程を示す。
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

夜間主コース

〔一般教育科目等〕

区分	授業科目	単位数	必修科目	配当年次	実施期間	担当教官	備考		
一般教育科目	哲学						非開講		
	心理学						非開講		
	歴史学	4		II	通年	荻野	163		
	日本文学						非開講		
	英文学						非開講		
	外国文学	ドイツ文学						非開講	
		フランス文学	4		II	通年	高橋	163	
		中国文学						非開講	
		ロシア文学						非開講	
	社会科学系	社会学	4		I	通年	宝福	163	
		社会思想史						非開講	
		教育学						非開講	
		政治学	4		I	通年	坪井	164	
	自然科学系	物理学						非開講	
		化学	4		I	通年	片岡	164	
		生物学						非開講	
	外国語科目	英語 I (I-A)	2	◎	I	通年	P.17別表参照	165	
			2	◎	I	通年			
		英語 II (講読) (会話・作文)	2	◎	II	通年		165	
2			◎	II	通年				
英語以外の外国語		ドイツ語 I	4	○	I	通年		副島	167
		フランス語 I	4	○	I	通年		江口・尾形	167
	中国語 I	4	○	I	通年	萩原・斐	168		
保健体育科目	保健体育理論	2	◎		前期		非開講		
	体育実技	2	◎		I 通年 II 前期	田野・花輪・中川	169 A・B2クラス		
基育基礎科目	経済学概論	4	○	I	通年	板谷・角野	171 経済学科 所属者必修		
	商学概論	4	○	I	通年	小田・山本・高宮城	172 商学科 所属者必修		
	法学概論	4	○	I	通年	藤原・臼木	173 企業法学科 所属者必修		
	*社会情報概論	4	○	I	通年	奥田・若林	173 社会情報学科 所属者必修		
	数学	4	○	I	通年	兼岩	174		

- (注) 1. 授業科目の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、31頁の注意事項を参照すること。
 2. 必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目を示す。
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

〔専門教育科目〕

経済学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
基礎経済学	マクロ経済学	4	II	通年	加藤	175
	ミクロ経済学					非開講
	マルクス経済学					非開講
	統計学	4	II	通年	本間	175
	経済統計学					非開講
	経済学史					非開講
	日本経済史					非開講
	西洋経済史					非開講
	応用経済学	経済政策				
産業組織論						非開講
財政学						非開講
金融経済論						非開講
国際経済論						非開講
国際金融論						非開講
経済学特別講義 I						非開講
経済学特別講義 II						非開講
研究指導		I				
	II					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

商 学 科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
商学	流通組織論	4	Ⅱ	通年	片桐・伊藤	175
	マーケティング					非開講
	貿易論					非開講
	保険論					非開講
	証券市場論					非開講
	商学特講Ⅰ					非開講
経営学	経営学原理	4	Ⅱ	通年	篠崎	176
	経営管理論					非開講
	労務管理論					非開講
	財務管理論					非開講
	国際企業論					非開講
	経営学特講Ⅰ					非開講
会計学	簿記論	4	Ⅱ	通年	渡辺	176
	財務会計論					非開講
	監査論					非開講
	原価計算論					非開講
	管理会計論					非開講
	会計学特講Ⅰ					非開講
研究指導	Ⅰ					非開講
	Ⅱ					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

企業法学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官	備考
基礎法	憲法総論	4	Ⅱ	通年	結城	176
	行政法総論					非開講
	民法総論	4	Ⅱ	通年	神田	177
	契約法					非開講
	刑法					非開講
	国際法	4	Ⅱ	通年	中村	178
企業法	会社法					非開講
	商取引法					非開講
	民事手続法					非開講
	経済法					非開講
	労働法					非開講
	国際経済法					非開講
	国際取引法					非開講
研究指導	Ⅰ					非開講
	Ⅱ					非開講

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

社会情報学科

講座	授業科目	単位数	配当年次	実施期間	担当教官		備考
計 画 科 学	管理科学	4	II	通年	加藤・奥田	178	
	計画科学 I						非開講
	計画科学 II						非開講
	社会計画 I						非開講
	社会計画 II						非開講
	計画数学 I	2	II	前期	行方	179	
	計画数学 II	2	II	後期	加藤	179	
	応用統計 I						非開講
	応用統計 II						非開講
	計画科学特講 I						非開講
計画科学特講 II						非開講	
組 織 と 情 報	組織と情報総論	4	II	通年	山本・持田	180	
	経営情報論						非開講
	会計情報論						非開講
	行政情報論						非開講
	システムセキュリティ論						非開講
	組織と情報特講 I						非開講
	組織と情報特講 II						非開講
社 会 と 情 報	社会と情報						非開講
	ソフトウェア科学 I	2	II	前期	中村	181	
	ソフトウェア科学 II	2	II	後期	若林	181	
	ソフトウェア科学 III						非開講
	知識情報論						非開講
	情報システム I						非開講
	情報システム II						非開講
	情報教育論 I						非開講
	情報教育論 II						非開講
	情報科学特講 I						非開講
情報科学特講 II						非開講	
研究指導 II						非開講	

(注) 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。

共通科目

〔教職科目〕

区分	授業科目	単位数	商業教員養成課程所属者必修科目		配当年次	実施期間	担当教官		備考	平成6年度		
			平成2年度以降入学者	平成元年度以前入学者			開講予定	配当年次		単位数		
教 科 目 に 関 する 科 目	*教育基礎論 I	4	◎	◎	II	通年	上野	123		○	II	4
					II	通年	上野	123		×	II	4
	*教育基礎論 II A	2	◎	◎	II	前期	湯浅	123		×		
									非開講	○	II	2
	*教育基礎論 II B	2	◎	◎	III	後期	上野	124		○	III	2
									非開講	○	III	2
	*教育方法学	2	◎	○	III	後期	土屋	124		○	III	2
									非開講	○	III	2
	商業科教育法	2	◎	◎	III	前期	小山	124		×		
									非開講	○	III	2
	英語科教育法	4			III・IV	通年	高井	125		○	III・IV	4
	道德教育の研究	2							非開講	○	III	2
	*教育実践論 I	2	◎	○	II	前期	土屋	126		○		
					II	前期	土屋	126		×		
	*教育実践論 II	2	◎	○	II	後期	土屋	126		○		
				II	後期	土屋	126		×			
教育実習	3	◎	◎	III・IV		上野・高井・土屋			○	IV	3	
教 科 目 に 関 する 科 目	職業指導	4	◎	◎	III	通年	松田	126		×		
									非開講	○		
	言語学概論	4			II~IV	通年	津曲・大島	127		×		
	英語学概論	4							非開講	○	II~IV	4
	*英語学 I	4			II~IV	通年	下村	128		×		
	*英語学 II	4							非開講	○	II~IV	4
	英語学 III	4			II~IV	通年	山本	129		×		
	英文学史	4			I・II	通年	永原	129		×		
	英文学概論	4							非開講	○	II~IV	4
	*英文学 I	4			II~IV	通年	君羅	129		×		
	*英文学 II	4							非開講	○	II~IV	4
	英文学 III	4							非開講	○	II~IV	4
	英会話・英作文	4			II~IV	通年	Carr	129		○	II~IV	4
	英語コミュニケーション	2			II~IV	前期	坪谷	129		×		
	比較文化	2			II~IV	後期	坪谷	130		×		
研究指導	12			III・IV	2年継続	永原・君羅・山本	157 158		○	(III) IV	12	

- (注) 1. 授業科目名の前に*印が付いている科目を修得した場合、入学年度によって科目名を読み替えることになるので、30頁の注意事項を参照すること。
 2. 商業教員養成課程所属者必修科目欄の◎は必修科目、○は選択必修科目(2科目以上)。
 3. 担当教官欄の数字は講義要目記載ページを示す。
 4. 配当年次等の欄で上下二段に分かれている科目に関しては、上段は昼間開講、下段は夜間開講を表す。

昼間コース II 卒業に必要な単位一覧表

〔一般教育科目等〕

区分	平成4年度以降入学者		平成3年度以前入学者		
	単位数	備考	単位数	備考	
一般教育科目	人文科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	社会科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	自然科学系	4以上	1科目以上	4以上	1科目以上
	計	24	6科目以上	24	6科目以上
外国語科目	20	6科目中から2科目選択 各々I全クラス(6単位)、 IIのうち1クラス(2単位) は必修	18	英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目) のうちいずれか1科目 選択必修	
保健体育科目	4	理論・実技共必修	4	講義・実技共必修	
基礎教育科目	12	*必修科目を含め3科目 以上	12	*必修科目を含め3科目 以上	
合計	60		58		

(注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。
2. *印を記してある必修科目については、平成5年度開講科目表の備考欄を参照すること。

〔専門教育科目等〕

所属	経済学科、商学科(商業学科商学 コース)、企業法学科(商業学科 経営法学コース)、社会情報学科 (管理科学科)		商業教員養成課程			
	単位数	備考	平成2年度以降入学者		平成元年度以前入学者	
区分	単位数	備考	単位数	備考	単位数	備考
所属学科(コース)・課程科目	40	所属学科(コース) *選択必修4科目	41	*選択必修6科目 (24単位)		
他学科(コース)科目	24	(注)1参照			44	*選択必修6科目 (24単位)
教職科目			23	*必修8科目	20	*必修6科目
研究指導	12	原則として所属学 科(コース)から履修 履修しない者は所属 学科(コース)科目 12単位を充足履修	12	教職以外の研究指 導全て履修可能 履修しない者は専 門教育科目12単位 を充足履修	12	他学科(コース)履修 履修しない者は他 学科(コース)科目 12単位を充足履修
合計	76		76		76	

(注) 1. 平成3年度以前入学の商業教員養成課程以外に所属する学生は、他学科(コース)選択必修科目から2科目(管理科学科所属者の場合は1科目)の修得を要する。
2. 平成4年度以降入学生の教職科目は単位数の変更はないが、必修科目数は9科目になる。
3. 教科に関する科目(英語専修)の研究指導の履修は、平成3年度以前入学者のうち商業教員養成課程に所属する学生で英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限る。
4. *印を記してある必修、選択必修科目については、平成5年度開講科目表の選択必修科目欄を参照すること。

夜間主コース

〔一般教育科目等〕

区分	単位数	備考	
一般教育科目	人文科学系	4以上	1科目以上
	社会科学系	4以上	1科目以上
	自然科学系	4以上	1科目以上
	計	24	6科目以上
外国語科目	12	英語(I・II)必修 英語以外の外国語(3科目)のうち いずれか1科目選択必修	
保健体育科目	4	理論・実技共必修	
基礎教育科目	12	*必修科目を含め3科目以上	
合計	52		

(注) 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。
2. *印を記してある必修科目については、平成5年度開講科目表の備考欄を参照すること。

〔専門教育科目〕

区分	単位数	備考
所属学科科目	32	
他学科科目	40	
研究指導	4	所属学科から履修 履修しない者は所属学科科目4単位を 充足履修
合計	76	

(注) 社会情報学科以外の学生で研究指導を4単位を超えて修得した場合、超えた単位については所属学科専門教育科目の単位に算入する。

Ⅲ 科目履修と単位修得

本学の全課程を修了するためには、4年間以上在学し、次の事項に示された科目を履修し、単位を修得することによって全課程修了が認定され、卒業資格が与えられます。

卒業所要単位数は昼間コースが136単位（平成3年度以前入学生は134単位）、また、夜間主コースは128単位となっており、その履修方法については授業科目区分、学科毎に定められていますが、各入学年度及び各自が所属している学科（コース）・課程によって異なりますので十分注意を要します。

本学の教育課程は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目、専門教育科目及び教職科目の区分で構成されていますので、それぞれの履修方法に従って履修計画を立ててください。

1. 一般教育科目の履修方法

一般教育科目は、人文、社会、自然科学の三分野に分かれており、これらの科目はそれぞれの配当基準年次に沿って履修すればよいことになっている。

また、当該年次に修得しておかないと、翌年以降に履修を希望しても、専門教育科目と時間が重なったりして履修のできない場合が起こるので、配当年次どおり履修することが望ましい。

卒業要件は各分野から最低1科目4単位を含め合計24単位を修得しなければならない。

2. 外国語科目の履修方法

【昼間コース】

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語及びロシア語の6か国語が開設されている。

外国語の授業は毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする（学則第14条の2参照）。

外国語（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は各外国語ともそれぞれ1年次に毎週6時間6単位、2年次に毎週4時間4単位、3年次に毎週2時間2単位、合計12単位が開設される。そのうちから2外国語20単位を選択必修とする。1年次に上記6外国語のうちから2か国語を選びそれぞれ6単位ずつ12単位を履修し、2、3年次にすでに修得した外国語の中から8単位を選択履修することとする。配当年次及び履修方法は次のとおりである。

配当年次	外国語①	外国語②	履修方法
Ⅰ	6	6	1年次に2外国語各6単位計12単位必修 2年次に2外国語各2単位計4単位必修
Ⅱ	4	4	
Ⅲ	2	2	
計	12	12	20単位必修

ただし、いずれの外国語とも、Ⅲの2単位を履修するためにはⅡから2単位以上を履修しなければならないものとする。したがって、1、2年次の2外国語について10単位ずつ、計20単位を修得するか、あるいは1外国語につき12単位、他の外国語を8単位、計20単位を修得するかのいずれかになる。

なお、英語以外の5外国語は同一年次配当のクラスを同じ時間帯に開設しているため、同一年度において同一配当年次の2つの外国語を履修することはできない。

また、平成3年度以前入学生の履修方法は従前どおりとする。

【夜間主コース】

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語及び中国語の4か国語が開設されている。

外国語の授業は毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする（学則第14条の2参照）。英語（Ⅰ・Ⅱ）はⅠ・Ⅱとも毎週4時間4単位、合計8単位が必修である。

英語以外の外国語（Ⅰ）はいずれか1か国語を選択必修とし、毎週4時間4単位を修得しなければならない。

★ 英語

【昼間コース】

- 平成5年度の英語のクラス配置は別表のとおりである。
- 別表のうちEで始まる3桁の数字と記号は英語のクラス別を表す。3桁目の1、2、3は履修基準年次で、それぞれ1年次、2年次及び3年次配当のクラスであることを示す。英語Ⅰに関しては、残りの2桁と記号でクラスを表す。英語Ⅱ及びⅢに関しては2桁目は教科の種別を示し、0.1は文学作品の講読、2、3は評論、伝記、語学書等の文学作品以外の講読であることを示す。
- 英語Ⅰは別表の講読Aより2単位、講読Bより2単位、英会話・作文より2単位、合計6単位を必修とし、所定のクラス・時間帯で履修すること。
- 英語Ⅱ・Ⅲに配当されているクラスの選択は自由である。英語Ⅱは2クラス4単位、英語Ⅲは1クラス2単位を選択履修すること。ただし、英語Ⅲを履修する学生は英語Ⅱのうちから1クラス2単位以上を履修しなければならない。

なお、同一年次配当の同一教官のクラスを2つ履修することはできない。

別表 平成5年度英語クラス

昼間コース							
英語 I		英語 II		英語 III			
講読 A	E101A	下村	文学 作品	E201	永原	E301	永原
	E102A	永原		E202	豊国	E302	豊国
	E103A	杉村		E203	君羅	E303	君羅
	E104A	片山		E204	杉村	E304	杉村
	E105A	津曲		E205	杉村	E305	Diane
	E106A	豊国		E206	三浦		
	E107A	下村		E207	三浦		
	E108A	津曲		E208	横尾		
	E109A	杉村		E209	西村		
	E110A	高井					
	E111A	大島					
	E112A	片山					
講読 B	E101B	豊国	評論・伝記・語学書等	E221	〔前:大島 後:津曲〕	E321	津曲
	E102B	君羅		E222	坪谷	E322	浪田
	E103B	山本		E223	山本	E323	下宮
	E104B	宮町		E224	浪田	E324	〔前:佐藤(知) 後:未定〕
	E105B	上野		E225	根本	E325	小林
	E106B	佐藤(幸)		E226	根本	E326	〔前:要 後:未定〕
	E107B	横尾		E227	下宮		
	E108B	西村		E228	〔前:要 後:未定〕		
	E109B	宮町		E229	上野		
	E110B	上野		E230	鈴木		
	E111B	佐藤(幸)		E231	鈴木		
	E112B	〔前:佐藤(知) 後:未定〕		E232	上田		
		E233	上田				
		E234	小林				
英会話・作文	E141C	Carr					
	E142C	Carr					
	E143C	Carr					
	E144C	Carr					
	E145C	Carr					
	E146C	Diane					
	E147C	Diane					
	E148C	Diane					
	E149C	Diane					
	E150C	Toskar					
	E151C	Toskar					
	E152C	Toskar					
	E153C	Becraft					
E154C	Becraft						
E155C	Becraft						
E156C	Miles						
E157C	Miles						
文法	E161	山本					

(英語共通試験実施要領)

英語 I 講読 A クラスの履修と単位認定について

- 英語 I は講読 A, B からそれぞれ 1 クラス 2 単位, 英会話・作文から 1 クラス 2 単位, 合計 6 単位を必修とする。
- 英語 I 講読 A クラスの履修者には課外テキストを指定し, 年 2 回共通試験を行う。
- 英語共通試験は前期及び後期の各定期試験期間中に行う。前期及び後期の共通試験は両方とも受験しなければならない。
- 講読 A の各クラスの単位は, クラスでの成績と共通試験の成績とにより, 英語クラス担当教官が認定する。
- 課外テキスト
海江田進・中村駿夫共著『詳解英文法』昇龍堂出版
- 平成 3 年度以前入学生のうち, 英語 I の単位未修得者の履修方法は平成 4 年度以降入学生の履修方法に準ずる。なお, 英語 I の単位未修得者は, 講読 A のクラスにかえて E161 を選択することができる。ただし, 講読 A のクラスを選択する場合は, 必ず共通試験を受験しなければならない。

【夜間主コース】

平成 5 年度の英語クラス配置は別表のとおりである。

- 別表のうち, E で始まる 2 桁の数字と記号は英語のクラス別をあらわす。
- 英語 I は講読 4 単位, 英語 II は講読 2 単位, 英会話・作文 2 単位, 合計 8 単位が必修である。

別表 平成5年度英語クラス

夜間主コース	
英語 I	英語 II
E10A 下村	E21A 大島
E11A 高井	E22A 高井
E12A 布施	
E10B 大島	
E11B 下村	
E12B 坪谷	
	E21C Carr
	E22C Diane
	E23C Miles

★ ドイツ語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

1. クラス編成と授業担当者

	ドイツ語 I	ドイツ語 II
火	A 大塚 B 鈴木 C ハース D 加納 E 瀬尾	A 会話中級 I ハース B 時事問題 加納 C ドイツ事情 瀬尾 D 聞く 大塚 E 中級文法 鈴木
水	A パーベンティン B パーベンティン C 副島 D 鈴木 E 大塚	
木	A パーベンティン B 室井 C 副島 D 鈴木 E 大塚	F 会話中級 II パーベンティン G 学術 室井 H 文学 鈴木 I 書く 副島 J 文法おさらい 大塚

2. 教育目標

ドイツ語 I : コミュニケーション能力を中心とする総合的語学力の基礎の養成。

ドイツ語 II : クラスの自由選択によるやや専門分化した関心の充足と能力の錬磨。

3. クラスの説明

(1) ドイツ語 I

全クラスとも総合的基礎力の養成を目指す。Aクラスはネイティブ・スピーカーによる運用能力の訓練により大きなウェイトが置かれている。A以外のクラスは文法と運用のバランスに配慮している点で大差は無いが、B・Cクラスではネイティブ・スピーカーに会話の手ほどきを受ける機会があるのに対して、D・Eクラスでは日本人教師から体験も交えたドイツ社会の多面的な紹介がなされる。詳しくは61頁以下を参照。

(2) ドイツ語 II

本年度から学習者の異なった関心や目標に対応することを旨とするアラカルト方式が採用されたのに伴い、上掲のような多様なクラスが用意された。各クラスの詳しい内容については61頁以下を参照。

4. 履修方法

(1) ドイツ語 I

(a) 履修希望者は自由にクラスを選択できる。選択方法は入学手続きの際に提出されるクラス志望届による。クラス名簿は授業開始までに発表される。

(b) 再履修者のクラス所属

① 6単位再履修者(修得単位0の者)は新規修者と同じ扱いとなるので、4月14日までに教務係にクラス志望届を提出すること。提出後速やかに所属クラスが発表される。

② 4単以下再履修者のクラス所属

教務上の理由により指定制とし、授業開始までに所属クラスが発表される。

(2) ドイツ語 II

(a) 履修希望者はすでに自由選択制によって決定されているクラスに所属する。4単位修得希望者は二クラスに、2単位修得希望者は一クラスに所属する。クラス名簿は授業開始までに発表される。

(b) 会話中級 I と II の両方に所属することは許されない。またドイツ語 I に未修得単位を残している者は自動的に J クラス(文法おさらい=木曜)の所属となる。この規則は2単位履修者にも当てはまる。

(c) クラス選択手続きの際(2月初旬)にはクラス名は数字標記(①~⑩)だったが、都合によりアルファベット標記に変更されたので注意されたい。対応は次のとおり。

【火曜日】 【A←①会話中級 I】 【B←④時事問題】 【C←⑤ドイツ事情】

【D←⑧聞く】 【E←⑩中級文法】

【木曜日】 【F←②会話中級 II】 【G←③学術】 【H←⑥文学】

【I←⑦書く】 【J←⑨文法おさらい】

(d) 再履修者は4月13日から4月16日までに教務係において選択手続きを済ませなければならぬ。結果は指定された日時に発表される。

5. 注意事項

- 語学は積み重ねが肝腎であるから出席は重視される。
- ドイツ語 I のオリエンテーションは4月15日9時より210番教室で行う。
- 辞書の紹介はオリエンテーションで行う。
- 教科書は品切れにならぬうちに早目に購入のこと。
- 本学のドイツ語専任教官のオフィスアワーは次のとおり。有効に活用されたい。

氏名	研究室番号	曜日	時間
大塚 譲	424	火曜・木曜	1時~2時
鈴木 将史	357	火曜	1時~2時
副島美由紀	520	木曜	1時~2時

★ フランス語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

フランス語の授業は下記のクラス編成で行われる。

	フランス語 I	フランス語 II
火	1 高橋 2 尾形 3 江口 C 未定	B 江口 D 尾形
水	1 高橋 2 尾形 3 江口	
木	1 梶野 2 高橋 3 尾形 C 江口	A 梶野 C 高橋 E 未定

- (1) Iの会話クラス（IC）は選択制で、定員は25名までとする。応募者が多い場合は抽選を行う。会話クラスを選択した学生は、水曜日についてはI3を履修するのが望ましい。その他は学生番号で均等割とする。
- (2) II Eは前年度デュボワ教官担当の会話クラス（ID）を履修し単位を修得した学生だけが履修できる。II Cについても原則として前年度高橋教官担当の会話クラスを履修した学生を対象とする。会話クラスを選択した学生はフランス語IIについて、C、Eの2クラス4単位をできるだけ履修すること。その他の学生は各自2クラスまで選択することができる。
- (3) 91年度以前入学者は旧カリキュラムが適用されるので注意すること。

★ 中国語

【昼間コース】 ※夜間主コースは後掲

授業担当者

	中国語 I	中国語 II
火	A 高斐 B 萩原	A 高原 B 萩原
水	A 斐 B 萩原	
木	A 斐 B 萩原	A 萩原 B 斐

- (1) 中国語IIのクラス編成は前年度履修した中国語Iに同じ。
- (2) 中国語I A・I Bは、学生番号順によるクラス分けを行う。所属クラスは追って指示する。
- (3) 旧カリキュラムの学生が中国語Iを再履修する場合は水曜日と木曜日で履修することになるが、所属クラスについては授業開始時に別に指示する。新カリキュラムの学生が中国語Iを再履修する場合の履修曜日については、開講時に教官と相談すること。
- (4) 一年次生は、4月最初の授業に必ず出席して、必要な指示を受けること。

★ ロシア語

【昼間コース】

授業担当者

	ロシア語 I	ロシア語 II
火	A 匹田 B スベヴァコフスキー	A 匹田 B スベヴァコフスキー
水	A 松本 B 匹田	
木	A スベヴァコフスキー B 匹田	A スベヴァコフスキー B 匹田

- (1) ロシア語IIの履修に関しては、昨年度ロシア語IでAクラスに属していた学生は今年もAを、Bクラスに属していた学生は今年もBを履修すること。また、やむを得ず昨年度のクラス分けどおりに履修できない学生は、その旨初回講義時に担当教官に申し出ること。

ただし、匹田教官担当の授業を2コマ、あるいはスベヴァコフスキー教官担当の授業を2コマ履修することはできない。

- (2) ロシア語Ⅱを再履修する学生はBクラスを履修すること。
 (3) ロシア語Ⅰのクラス分けに関しては初回講義時に指示するので必ず出席すること。

- ★ ドイツ語 }
 ★ フランス語 } 【夜間主コース】
 ★ 中国語 }

授業担当者

	ドイツ語	フランス語	中国語
火	副島	江口	萩原
木	副島	尾形	斐

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目の実技2単位については、1年次毎週2時間(2単位の $\frac{2}{3}$)、2年次前期または後期に毎週2時間(2単位の $\frac{1}{3}$)の計2単位、理論については、昼間コースは1年次前期、夜間主コースは2年次後期に毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目は、専門の基礎を与えることを目標として開設しているが、専門教育の単なる前段的なものではなく、広義の基礎を与えるとともに、一般教育の充実と統合を図るねらいをもって開設されている。

このため、学科で必修と指定した科目以外の履修も重要である。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は各学科・課程で指定した選択必修科目(商業教員養成課程は教職科目の必修を含め)のほか研究指導を含め、合計76単位を修得しなければならない。

夜間主コース生が学則等16条の2により履修できる昼間コース開設科目は、夜間主コース

において開設していない科目について履修することを原則とする。ただし、夜間主コースの開設科目で当該年度に非開講の場合は、昼間コースにおいて同一科目を履修することができるものとし、その単位を修得した際は新たに夜間主コースで履修することはできない。

なお、履修できる単位は34単位(既に修得済の単位を含む)までとし、修得した単位は30単位を上限として卒業所要単位に算入されるが、配当年次が上位の科目は履修できない。

6. 研究指導の履修方法

昼間コースの研究指導は、毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)であり、商業教員養成課程以外の学生は、原則として所属する学科の研究指導を履修するものとする。なお、平成3年度以前入学者で英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り、教科に関する科目(英語専修)の研究指導を履修することができる(詳細については別表(Ⅱ)を参照のこと)。

夜間主コースの研究指導は、3月次(Ⅰ)、4年次(Ⅱ)、卒業論文の各々4単位で構成されているが、社会情報学科については(Ⅱ)のみの開設となっている。

履修方法については、各学科によって異なるので学則別表を参照のこと。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は卒業所要単位に算入される研究指導分の単位をそれぞれ所属する学科・課程の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。

7. 教職科目の履修方法

教職科目は、教員免許状取得のために開設されており、商業教員養成課程に所属する学生は「教職に関する科目」²³単位が卒業所要単位に算入され、他に指定された専門教育科目を併せて修得することにより、高等学校教諭1種免許状(商業)の取得資格が与えられる。

(注)平成元年度以前入学者は20単位

なお、別表(Ⅱ)による教科に関する科目の単位数と、教職に関する科目のうち「英語科教育法」を修得すれば高等学校教諭1種免許状(英語)も併せて取得することができる。

商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で上記免許状の取得を希望する者は、別表(Ⅰ)・(Ⅱ)の単位をそれぞれの学科の卒業所要単位のほかに修得しなければならない。

また、別表(Ⅱ)で指定した科目のほか「道德教育の研究」2単位を修得することにより、管理科学科所属の学生を除いて中学校教諭1種免許状(英語)をも取得できる。

ただし、夜間主コース生で商学科所属者以外は英語の免許状を取得することはできない。

(I) 高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法

(商業教員養成課程所属以外の学生)

イ 平成4年度以降入学者

区分	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	19	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 教育方法学 2 商業科教育法 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 教育実習 3	
教科に関する科目	20	職業指導 4	統計学, マクロ経済学, 流通組織論, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記論, 財務会計論, 経営情報論, ソフトウェア科学Ⅰ, 民法総論, 会社法(4科目選択)
合計	43		
備考 基礎教育科目の法学概論及び教科に関する科目の選択科目については, それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。			

(I) 高等学校教諭1種免許状(商業)取得希望者の単位修得方法

(商業教員養成課程所属以外の学生)

ロ 平成3年度以前入学者

入学年度	平成2・3年度			平成元年度以前		
区分	単位数	必修科目	選択科目	単位数	必修科目	選択科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)		4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	19	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 教職演習 2 商業科教育法 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 教育実習 3		16	教育基礎論Ⅰ 4 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2 商業科教育法 2 教育実習 2	教育方法学 2 教育実践論Ⅰ 2 教育実践論Ⅱ 2 (2科目選択)
教科に関する科目	20	職業指導 4	統計学, 経済原論Ⅰ, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社法(4科目選択)	20	職業指導 4	統計学, 経済原論Ⅰ, 流通組織論, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 経営情報論, 情報処理Ⅰ, 財産法Ⅰ, 会社法(4科目選択)
合計	43			40		
備考 基礎教育科目の法学概論及び教科に関する科目の選択科目については, それぞれの学科の卒業所要単位と併用できる。						

(II) 高等学校教諭1種免許状(英語)取得希望者の単位修得方法

イ 平成4年度以降入学者

区分	単位数	必修科目	選択必修科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	19	教育の本質及び目標に関する科目	教育基礎論Ⅰ 4
		教育に係る社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目	
		幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の課程に関する科目	教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する科目	
		教科教育法に関する科目	英語科教育法 4
		特別活動に関する科目	教育実践論Ⅱ 2
		生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	教育実践論Ⅰ 2
		教育実習	教育実習 3
教科に関する科目	40	英語学関係	英語学概論 4 英語学Ⅰ 4 言語学概論 4 英語学Ⅱ 4 英語学Ⅲ 4
		英米文学関係	英文学史 4 英文学概論 4 英文学Ⅰ 4 英文学Ⅱ 4 英文学Ⅲ 4
		英語コミュニケーション	英会話・英作文 4 英語コミュニケーション 2
		比較文化(外国事情を含む。)	比較文化 2
		合計	63
備考			
1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。 2. 教職に関する科目のうち「教育基礎論Ⅰ」、「教育基礎論ⅡA」、「教育基礎論ⅡB」、「教育方法学」、「教育実践論Ⅰ・Ⅱ」、「教育実習」は(Ⅰ)(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。 3. 夜間主コースの学生は商学科所属者以外英語の免許状を取得することはできない。			

ロ 平成2・3年度入学者

区分	単位数	必修科目	選択必修科目
基礎教育科目	4	法学概論(日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	21	教育の本質及び目標に関する科目	教育基礎論Ⅰ 4
		教育に係る社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目	
		幼児、児童又は生徒の心身の発達及び学習の課程に関する科目	10 教育基礎論ⅡA 2 教育基礎論ⅡB 2
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)に関する科目	
		教科教育法に関する科目	英語科教育法 4
		特別活動に関する科目	教育実践論Ⅱ 2
		生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	教育実践論Ⅰ 2
		教育実習	教育実習 3
教科に関する科目	40	英語学関係	英語学概論 4 英語学Ⅰ 4 言語学概論 4 英語学Ⅱ 4 英語学Ⅲ 4
		英米文学関係	英文学史 4 英文学概論 4 英文学Ⅰ 4 英文学Ⅱ 4 英文学Ⅲ 4
		英語コミュニケーション	英会話・英作文 4 英語コミュニケーション 2
		比較文化(外国事情を含む。)	比較文化 2
		合計	65
備考			
1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。 2. 「商業英語」は「英語学Ⅲ」と読み替えることができる。 3. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り履修することができ、修得単位は英語学又は英米文学の単位として換算できる。 4. 教職に関する科目のうち「教育基礎論Ⅰ」、「教育基礎論ⅡA」、「教育基礎論ⅡB」、「教職演習」、「教育実践論Ⅰ・Ⅱ」、「教育実習」は(Ⅰ)、(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。			

ハ 平成元年度以前入学者

区 分	単位数	必 修 科 目	選 択 必 修 科 目
基礎教育科目	4	法学概論 (日本国憲法2単位を含む)	
教職に関する科目	14	教育原理 4 教育心理学 4 英語科教育法 4 教育実習 2	
教科に関する科目	32	英語学関係 8	☆英語学概論 4 ☆言語学概論 4 英語学演習Ⅰ 4 英語学演習Ⅱ 4
		英文学関係 8	☆英文学史 4 ☆英文学概論 4 英文学演習Ⅰ 4 英文学演習Ⅱ 4
		英会話・英作文 4	
			商業英語 4 研究指導 12
合 計	50		
備 考			
1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、基礎教育科目の法学概論は卒業所要単位と併用できる。 2. 選択必修科目のうち☆印は各領域からそれぞれ一科目必修。 3. 「商業英語」は「英会話・英作文」又は演習科目と読み替えることができる。 4. 「研究指導」は商業教員養成課程に所属する学生で、英語の教育職員免許状を取得しようとする者に限り履修することができ、修得単位は英語学又は英文学の単位として換算できる。 5. 教職に関する科目のうち「教育原理(教育基礎論Ⅰ)」、「教育心理学(教育基礎論ⅡA・ⅡB)」、「教育実習」は(Ⅰ)、(Ⅱ)表両方の場合に併用できる。			

8. 単位の互換制度

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。この場合の身分は北海道大学の特別聴講学生となる。

(1) 聴講出願対象者

履修方法等に関する規則第6条に規定する〔1, 2年次配当科目55単位以上〕を修得した平成5年4月現在の4年次生。

(2) 聴講科目

授 業 科 目	単 位	担 当 教 官	開 講 期 間
ソ・連東欧経済論(経営論)	2	山 村	前 期(平成5年4月~9月)
ア ジ ア 経 済 史	4	宮 本	前 期(平成5年4月~9月)
経 営 組 織 論	4	金 井	後 期(平成5年10月~平成6年3月)
産 業 技 術 論	4	吉 田	後 期(平成5年10月~平成6年3月)
ア メ リ カ 経 済 史	2	秋 元	集中講義(平成5年7月19日~7月23日)
経営管理論特殊講義Ⅰ(投資と金融のOR)	2	大 西	集中講義(平成5年9月6日~9月10日)
経営学特殊講義Ⅰ(情報産業論)	2	山 岡	集中講義(平成5年12月20日~12月24日)

① 「ソ・連東欧経済論(経営論)」、「アジア経済史」、「アメリカ経済史」、「経営管理論特殊講義Ⅰ(投資と金融のOR)」、「経営学特殊講義Ⅰ(情報産業論)」は本学の経済学科の専門科目、「経営組織論」、「産業技術論」は本学の商業学科商学コースの専門教育科目として扱い卒業所要単位に算入する。

② 1科目につき10名程度

(3) 授業料 不要

9. 平成4年度以前入学者の履修上の注意事項

次表の適用入学年度生においてB欄に掲げている授業科目を履修し、単位を修得した場合は、A欄に掲げている授業科目の単位を修得したことになります。

よって、A欄に掲げている授業科目の単位をすでに修得済の者は、B欄に掲げている授業科目を履修することはできません。

【昼間コース】

適用入学年度	授 業 科 目	
	A 欄	B 欄
平成元年度以降	社会科学概論	社会科学特別講義 I 社会科学特別講義 II
	工業経済学	産業経済論
	国際法 I	国際法
	国際法 II	比較法
	英語学演習 I	英語学 I
	英語学演習 II	英語学 II
	英文学演習 I	英文学 I
平成2年度以前	英文学演習 II	英文学 II
	経済学特別講義	経済学特別講義 I
平成3年度以前	体育講義	保健体育理論
	管理科学概論	社会情報学概論 社会情報概論
	経済原論 I	マクロ経済学
	経済原論 II	ミクロ経済学
	経済史概論	経済史論
	簿記学	簿記論
	憲法	憲法総論
	財産法 I	民法総論
	財産法 II	契約法
	経済刑法	刑法
	*管理科学通論	管理科学
	*応用数学(代数)	計画数学 I
	*応用数学(解析)	計画数学 II
	*情報処理 I	ソフトウェア科学 I
	教育原理	教育基礎論 I
	教育心理学	教育基礎論 II A 教育基礎論 II B
教育史	教職演習 I } 2科目 教育実践論 I } 選 教育実践論 II } 択	
平成4年度以前	教職演習	教育方法学
平成4年度	社会情報学概論	社会情報概論

- (注) 1. *印を記してある科目を履修した際の修得単位は従前どおりとする。
2. 平成3年度以前入学者が、適用学則での開設科目以外の開講科目で上記の比較表に記されていない科目については、新・旧カリキュラム双方での開設科目として取り扱うので、履修することは差し支えない。

【夜間主コース】

適用入学年度	授 業 科 目	
	A 欄	B 欄
平成4年度	社会情報学概論	社会情報概論

10. 進級に必要な単位

【昼間コース】

- (1) 1年次 → 2年次 16単位

1年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 2年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 学科または課程に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

- (2) 2年次 → 3年次 55単位

2年次終了までに、卒業所要単位数に算入される1・2年次配当科目のうちから55単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 3・4年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 研究指導に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

この55単位の算入については次表のとおりなので、履修上注意すること。

区分	年度	平成4年度生以降	平成3年度生以前
一般教育科目		24単位まで算入	24単位まで算入
外国語科目		20単位 "	16単位 "
保健体育科目 (理論・実技)		4単位 "	4単位 "
基礎教育科目		12単位 "	12単位 "
専門教育科目		2年次配当科目	2年次配当科目

【夜間主コース】

(1) 1年次 → 2年次 16単位

1年次終了までに、1年次配当科目のうちから16単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 2年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 学科に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間3年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

(2) 2年次 → 3年次 42単位

2年次終了までに、1・2年次配当科目のうちから42単位以上を修得していない場合は、

- (ア) 3・4年次配当科目の履修はできない。
- (イ) 研究指導に所属することができない。
- (ウ) 卒業が1年以上延期される。
- (エ) 在学期間4年を経過しても修得できない場合は除籍になる。

IV 科目試験の受験に際しての注意事項

定期試験（前期、後期、半期制科目中間試験）およびこれに準ずる試験を受ける場合、次の注意事項を厳守して、不利益にならないよう十分留意してください。

1. 指定された席に着席すること（試験開始5分前には着席していること）。
随時行う試験では席を指定しないこともある。
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない（座席の受験番号横におくこと）。
3. 試験時刻に遅れた者は原則として受験できない。ただし、20分以内の遅刻者は、事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了前10分以後は退場できない。
6. 教科書、参考書、ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め、これらをむき出しのまま机の中に入れてはいけないこと。
7. 教科書、参考書、ノートなどの参照を許された試験においては、それらの貸借をしてはならない。受験生の間で、貸借のあった場合は、それを不正行為とみなす。
8. 試験において、私語、その他不正行為の疑惑を招くような行為のないよう特に留意すること。
9. 試験中の不正行為については、学則に照し厳重に処分されるから厳正な態度で受験すること。さらに、不正行為を行った者に対しては、その学期に履修した科目の総ての単位が認定されない。したがって、在学期間が1年以上延期することになる。
10. 配付された答案用紙は必ず提出し、これを持ち帰ってはならない。
11. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させる。

V 卒業論文執筆要領

卒業論文の作成要領について一般的な原則をのべるが、論文の形式は専攻分野ごとに、用語、文献の引用方式、記号の利用などに差があるので、指導教官の指示に従うこと。

1. 提出期限

今年度は、1月31日(月)17時(時間厳守)なので十分留意すること。仮り綴じのうえ、附属図書館で図書返却の確認を受けたのち、製本料を添えて教務係に提出する。仮り綴じのためには、教務係のドリルを使用してもよい。製本料は確定次第掲示で通知する。

表紙のみ、あるいは目次程度、または序章程度といった論文とは認めがたい卒業論文は受理しない。

2. 用紙など

和文で執筆する場合には、所定の原稿用紙を使用し、黒またはブルー・ブラックのインクを用いる。油性インクのボールペンは避けた方がよい(鉛筆は不可)。文字は楷書とし、誤字・脱字に注意する。多色にする必要がある場合にも一定の方針をたてて統一し、さらに、必要最低限の多色化にとどめること。

ワード・プロセッサで作成する場合の用紙の規格、体裁及び1ページの文字数等については、指導教官の指示に従うこと(但し、感熱紙の使用は不可)。欧文で執筆する場合には、通常サイズの白地のタイプライター用紙にタイプ印刷する。いずれもオリジナルを提出し、全体をゼロックスコピーしたものは提出しないこと。

3. 表紙および裏表紙

表紙と裏表紙は本文と同一の用紙を用いる。表紙には論文のタイトル、学生番号、氏名、ゼミナール名、および提出年度(平成5年度提出)を記し、裏表紙に図書館で返却済確認印を受ける。タイトル等は原簿に記入され、成績証明書、図書館の目録カード、製本後の背表紙の書きこみ等の場合に必要になるので、正確に書くこと。副題をつける場合には、その左右を棒線ではさむ。なお、表紙のタイトル全部を「」でかこんではいけない。

4. 「はしがき」と「目次」

「はしがき」(「まえがき」「序」)にはテーマを選択した動機などを書く。指導や助言を受けた人達、調査等に協力した人達に対する謝辞もここに書く。ただし、「はしがき」は省略してもよい。「はしがき」と「あとがき」の両方を書くことは、卒業論文の場合、概して不適当である。

「目次」は「表紙」または「はしがき」の次の用紙に書く。必要に応じて、「表目次」、「図目次」を別につけ加えてもよい。

5. 本文

- (1) 文体は「……である」の形とし、なるべく簡潔な文章とする。
- (2) 新しい章は新しいページから始める。
- (3) 章題と文章、あるいは、章題と節題の間は1行あける。
- (4) 章(節)の番号と章(節)題の間は1マスあける。
- (5) 各節の間は2行あける。
- (6) 新しいパラグラフの始めは1マスあける。
- (7) 句読点などは1字とする。ただし、行末の句読点は「ブラサゲ」として、マスの欄外に書き、次行のはじめにはもっていかない。また、句読点の次のマスをあけてはいけない。
- (8) 数式は、かならずしもマスや行にこだわらず、見やすいように余裕をもって書いてよい。
- (9) 文章の中の欧字と算用数字は、原則として2字で1マスとする。
- (10) 欧文イタリック文字は、単語の下または文章の下にアンダーラインを引いて示す。

6. 図表

表とグラフは番号と見出しをつけ、本文との対応を明らかにする。原稿用紙と同じサイズになるように、グラフ用紙や集計用紙に書いて、そのまま1ページ分として綴じてむとよい。「別表」として論文の末尾にまとめることもできる。サイズが小さいときは、原稿用紙の当該箇所にはりつけてもよい。計算機のプリントアウトは、サイズがあえばそのまま1ページとしてよい。いずれも、製本のときにヘリを数ミリメートル切り落とすことがあるので、上下左右は十分にマージンをとっておくこと。

図表には、資料の出所を明記しなければならない。他の文献等の図表のコピーをそのまま利用することは、特別の場合を除いて避けるべきである。

7. 「注」

説明の補足や引用・参照を示すため注を用いる。注のつけ方としては脚注や後注などがある。指定原稿用紙では「脚注」をつけることができる。ただ1つの注を3ページ以上に分けることは不適当であるから、長い注については工夫が必要である。後注として注を各章の終りにまとめて書いてもよい。このとき注番号は各章ごとに1から始めてよい。なお、注のなかに注をおいてはいけない。

8. 引用文献、参考文献、および引用

論文作成において、文献の参照と引用の明示は最も注意すべき点である。文献からの引用には必ず「」(欧文引用のときには“ ”)をつけ、その文献を番号のついた注などで明示する。注番号はたとえば、「……である。(注1)」,「……である(1)」などのように書く。肩付きのできないワードプロセッサのときは、「……である(注1)」としてもよい。なお、原典自体のなかに「」(または“ ”)が含まれる場合には、原典中「」(または“ ”)

を「 」（または' '）に代える。

要約して引用するときには、原文の文意を損なわないようにし、更に要約引用の範囲が分るように、出典と引用箇所を（例えば注を用いて）明示する。「孫引き」は、できるだけ避けて、原典にあたってチェックすべきであるが、やむを得ない場合には再引用であることを明記する。

引用文献、参考文献は注番号を明示したうえで、脚注部分に記載するか、または論文末尾（または各章末尾）に一括して記載する。文献記載の原則は次のとおりである。

和 書

著者名『書名』， 出版社名， 出版年。

または

著者名『書名』（出版社名， 出版年）。

引用ページを明示する場合には、このあとに引用ページを書く。

＜例＞ 小宮隆太郎・天野明弘『国際経済学』， 岩波書店， 1972年， p.10。
藤瀬浩司『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房， 1980年）， 56頁。

翻訳書の場合にも

＜例＞ J. ブーヴィエ（井上隆一郎訳）『ロスチャイルド』（河出書房新社， 1960年）， 第3章。

R.A. Mundell, *International Economics*, New York: Macmillan, 1968,
（渡辺・箱木・井川訳『国際経済学』， ダイヤモンド社， 1971年）。

などが通常の形式である。

和雑誌のなかの論文（および論文集の中の一つの論文）

著者名「論文名」， 『雑誌名』 第△△巻， 第△号（発行年）。

著者名「論文名」， 編者名『書名』 出版社名， 出版年。

（または， 著者名「論文名」， 『書名』（編者名） 出版社名， 出版年）。

などとする。

＜例＞ 関口尚志「イングランド銀行バーミンガム支店」， 『経済学論集』（東京大学）第47巻第2号， ××頁。

岡田純一「近代経済学とスミス」， 経済学史学会編『国富論の成立』， 岩波書店， 1976年， p.345.（複数ページの場合， pp.345～351.）

洋書および洋雑誌のなかの論文

著者名， 書名^(注1)， 出版地：出版社， 出版年

著者名， “論文名”， 雑誌名， Vol. 巻数， No. 号数（発行年）

等とする。ただし、出版地：出版社を（ ）に入れることもある。また“論文名”， 雑誌名の代りに“論文名”， 雑誌名とすることも多い。著者名は A. Smith とする場合と Smith, A. とする場合の両方があるが、著者名が2つ以上並ぶ(共著の場合)に、2人目以降の人名については、A. Smith (または Adam Smith) のようにファースト・ネームを先に書くのが一般である。雑誌の No. 号数はしばしば省略する。また、Vol. および No. の代りに vol. お

よび no. とすることも多い。

これらについては、標準的な図書および雑誌を参照して、もっとも適当と思われるものを選択したうえで、統一して使用する。

さらに、op. cit., loc. cit., ibid., (または Ibid.,)^{注2}等もよく利用される。辞書などで意味を調べて、誤用しないことが必要である。

注(1) 書名、雑誌名についているアンダーラインはイタリックを使用せよという指示である。

注(2) op. cit., loc. cit., ibid., は、引用によってローマン体を使うかイタリック体を使うかによって変わる。

＜例＞ op. cit., (前掲の意味) で前掲が、論文名であればローマン体、前掲が書名、雑誌名であればイタリック体を使用する。

loc. cit., (上記引用文中), ibid., (同上) も同様である。

なお、ibid については、先頭に来る時は Ibid., のように大文字となる。

参考文献

齊藤孝著『増補学術論文の技法』（日本エディタースクール出版部， 初版1977年， 増補1988年）。

米国現代語学文学協会編（原田敬一訳編）『MLA新英語論文の手引』（北星堂書店， 第2版， 1986年）。

トウラビアン著（高橋作太郎訳）『英語論文の書き方』（研究社出版， 1982年）。

VI 平成5年度開講科目(昼間コース)の講義要目

目 次

1 一般教育科目	41
2 外国語科目	48
3 保健体育科目	70
4 基礎教育科目	74
5 専門教育科目	83
6 教職科目	123
7 研究指導	131
8 一般教育ゼミナール	159

1 一般教育科目

哲 学

教授 渡 辺 祐 邦

哲学をやるには、難解な原文に挑戦する心がまえが必要です。そこで講義のはじめに、簡単なテストを行ってギリシャ語原文に挑戦するグループとドイツ語原文に挑戦するグループに分けます。ギリシャ語グループは最初の4週間、初歩のギリシャ語文法を倫理学と同じ時間帯で学習したのち、アリストテレスの「形而上学」を邦訳を参考にしながら毎週すこしずつ読みます。ドイツ語グループは同期間内にドイツ語の基本文法をマスターしたのち、現代哲学に関する最新の文献を教官の指導のもとに翻訳します。今年度はヘルマン・メルヘンの『アドルノとハイデッカー』を予定しています。ドイツ語既修者はむろん、未修者も参加できますが、辞書は三修社「現代ドイツ語辞典」以上のものを用意して下さい（ギリシャ語の教科書は倫理学の項を参照すること）。

参考書：アリストテレス「形而上学」 出隆 訳（岩波文庫）

倫 理 学

教授 渡 辺 祐 邦

アリストテレスのテキストを読みながら、人間の共同存在の難しさと在るべき姿について考える。今回は『政治学』をテキストとして、これを単にギリシャの古典として訓古学的に読むのではなく、現代におこる人間の在り方を考える出発点とする。あわせて今日全世界で起こっている出来事の意味を全員で考える。また、独裁制、寡頭制、民主制など現代語にもなっている言葉の真の意味を理解するために、前期のはじめに簡単なギリシャ語文法を学ぶ。

テキスト：アリストテレス『政治学』山本光雄訳、岩波文庫

田中美知太郎・松平千秋『ギリシャ語入門』岩波全書

心 理 学（後期）

教授 和 田 完

現代心理学の特質を、歴史的な成立の過程を通して検討する。行動主義的な方法の導入、力動的な考え方などが特に強調されよう。また、動機づけ、学習実験、認知、ことに知覚の問題、パーソナリティ論等が話題とされる。

なお、精神病理学、文化人類学等の隣接領域について、しばしば触れるであろう。

テキスト：和田完・馬場雄二著『人間行動の諸相』明玄書房

歴 史 学 A

助教授 荻 野 富士夫

大教室の講義です。

今年度は、「視聴覚でみる日本近現代史」と題し、一週一テーマを原則に視聴覚機器（ビデオ類）を積極的に活用して、日本近現代史の諸問題を考える手がかりとします。

視覚では絵画や漫画を、聴覚では演歌・歌謡曲、演説を、そして視聴覚では日本映画が題材となり、検閲・宣伝など「戦争」に関わるテーマが多く扱われます。また、小樽高商や小

林多喜二に関する映像もとりあげます。日本映画では、小津安二郎・黒沢明・今井正・大島渚らの代表作も鑑賞する予定です。

評価の方法は、④日本近現代史に関する自由研究——400字詰原稿用紙30枚以上、⑤日本近現代史上における古典的著作ないし研究書（新書程度）に対する批評的レポート——同30枚以上、のいずれか選択と定期試験、および月一回程度実施するアンケートの提出状況とします。いうまでもなく、レポート類はオリジナルなものに限ります。

歴史学 B

助教授 荻野富士夫

少人数による日本近代史の演習形式の授業です。

今年度も昨年度に引きつづき、「『小樽新聞』の研究」をテーマとします。『小樽新聞』は1894（明治27）年創刊の新聞で、1942年、『北海タイムス』などと合併して現在の『北海道新聞』になるまで、道内の有力新聞として、政治・経済・文化面で大きな影響力をもっていました。図書館所蔵のマイクロ・フィルムを用い、参加者が各自の課題を設定し、調査・考察のうえで発表・討論をおこないます。

今年度は1917（大正6）年3月からで、ロシア革命や第一次大戦の終結、米騒動などがどのように報道されているのか、が大きな関心事となるはずです。

10人程度が好都合なので、第1週目と第2週目に連続して出席することを科目登録の条件とします。この授業の評価は、発表内容と毎回の討論への参加状況によって判断します。

日本文学 A・B

教授 村山 出

日本文学は以下に述べるように、A・Bと異なる授業形態をとります。どちらかを選んで受講して下さい。履修届の提出期限後には変更できませんので、注意して下さい。いずれも出席を重視します。

日本文学 A

講義形式の授業です。

『万葉集』は日本最古の詞華集ですが、古代国家の確立する時代にうまれた歌に、皇族・貴族・庶民の深い哀歎がこめられています。その表現には私たちの心の世界につながる発想や思考が認められ、また万葉の知識歌人が想像以上に国際感覚をもっていたこともわかります。『万葉集』をひもどくことは、日本や日本人の心性を再認識することにもなりましょう。

今年度は「万葉歌の表現と歴史」をテーマに、万葉歌の発想や代表的な歌人の作歌の背景について考えます。下記のテキストを用意して下さい。

テキスト：村山 出編『万葉集—表現と歴史—』丘書房

日本文学 B（前期）

少人数による演習形式の授業で、自分の学習の報告が中心になります。

今年度は「万葉歌の風土と歴史」をテーマに作品を読み、後期には万葉にゆかりのある大和地方を実際に歩いて（もちろん旅費・宿泊費は各自の負担です）、平素の学習内容を確認したいと考えています。飛鳥・奈良時代の万葉びとの心や、彼らが生活した自然に触れてみた

いと思う人は受講して下さい。

詳細は、最初の授業の時に説明します。

テキストはプリントを用いる予定です。

英 文 学

教授 豊 国 孝

イギリスの作家 D.H. ロレンスをとりあげます。ロレンスの小説は、写実と象徴の見事な調和、とくに豊かな詩的イメージで読者を魅了します。彼の作品のテーマは、広い意味での「人間関係」といえます。ロレンスほど現代社会にあって、人間が一人では生きられないこと、つまり「人間関係」があってこそ、人間が人間たりうることを信じていたものはいません。

この講義では、ロレンス主要な小説を中心にして、D.H. ロレンス論を試みます。受講者は翻訳でかまいませんが、ロレンスの小説を読んで下さい。

テキスト：倉持三郎『D.H.ロレンス』（清水書院）

D.H. Lawrence, *Sons and Lovers*（桐原書店）

ドイツ文学

教授 中 川 勇 治

本年度は、20世紀のドイツ語文学における小説（Roman）の新しい流れを導き出した Kafka, Musil, Broch などの代表的な作品、および文学理論を紹介、解説する。まず導入として、文芸学（Literaturwissenschaft）の基本概念を説明し、次にヨーロッパにおける小説の史的展開を要約し、ドイツ語小説へのアプローチとしたい。続く本論では、上記作家を中軸にすえ、ドイツ語小説の新しい動きが何であったかについて論考する。聴講者は必ずしもドイツ語の知識を必要としないが、講義の中で挙げられた作品は、訳本でも自ら読むことを強く要望する。文学作品は、読者が自分で体験せぬかぎり、その存在理由がないからである。参考文献等については講義の中で説明する。

社 会 学

助教授 宝 福 則 子

前期は、発展途上国の諸問題をテーマに講義をすすめる。発展途上国をどのように捉えるかによって、「第三世界」、「開発途上国」、ときには「後進国」という呼び方をするひともいる。この問題についてのさまざまなアプローチの仕方を紹介し、社会学的なものの見方や捉え方、分析法を知ってもらう。いわば、発展途上国というひとつの題材を使って、これをどのように社会学風に料理するかを学んでほしい。

後期は、受講者が関心をもっているテーマについて、グループ別にレジュメを作成し、口頭発表してもらう（個人別でも可）。それを最終的には個人別に学術小論文にまとめることを義務づける。大まかなテーマについては、講義中に提案し、各人に決めてもらう予定。かならずしも発展途上国に限らず、身近な問題でよい。

参考書：川田侃／石井摩耶子編『発展途上国の政治経済学』東京書籍 1991年

レスター・R・ブラウン著／竹内均監修『レスター・ブラウンの環境未来予測』

同文書院インターナショナル 1992年

笹谷春美/吉崎祥司/藤井史郎/小内透 編集『変動期の社会学』中央法規出版
1992年

社会思想史 A

教授 倉田 稔

講義形式で行う。大人数クラスである。今年度は昨年度の継続なので、1940年代からの社会思想史となる。したがって、授業内容は次の予定である。

序

1. 大戦前夜
2. 第2次世界戦争
世界・日本
3. 戦争直後

第1世界・第2世界・第3世界・日本

参考テキストとして

拙書『社会思想史ノート』丘書房

社会思想史 B

教授 倉田 稔

演習形式の少人数クラスで行う。したがって多数の申し込みがあった場合は参加人数が制限されるので注意願いたい。理想は10人程度がよいと見ている。第1回目の授業での申し込みが必要になると思われる。

自由課題の研究を行い、その口頭発表を年3回行い、最後にその成果を学術論文に仕上げることが課題とする。

教育学

(前期) 助教授 上野 耕三郎

皆さんは「学校教育」に興味がありますか？待望の(?)大学入試を突破したわけですから、「被教育体験」は一日も早く忘れてしまいたいものかもしれません。しかしながら、現実はどうも進行しております。「登校拒否」、「偏差値教育」、「管理教育」などの学校現象が次から次へと私たちの前に突きつけられています。

さてどうしたらよいのでしょうか？私にはこうしたらよいという処方箋をだすことはできません。ただし、いま私たちが直面させられている「学校」のありようを解明するための若干のヒントを提出することはできるかもしれません。そのヒントとは次のようなものです。

- (1) 私たちは「近代」教育が抱えた矛盾をひきずっているのです。その矛盾が顕在化しているのがいまという時代であり、それに対する代替はまだありません。
- (2) 90%以上の青年が18歳まで在学している日本は、先進諸国でもかなり希有な国です。これは日本の「近代」化の特殊性かもしれません。「近代」を純粋に貫徹した結果かもしれません。
- (3) 現代の日本では、学校も子どもも高度資本主義社会の文化に日々晒されています。

実際の授業はビデオ、プリントを使い、自分の考えをまとめて書く作業、(出席人数にもよるが)できれば話し合いを予定しています。

詳細については初回の授業で話します。

教育学

(後期) 助教授 土屋 文明

後期の教育学は、とりわけ幼児の教育、障害児の問題を取り上げる。幼児期は、日本は世界で一番幸福な国と言われていた。しかし現代においては、極端な場合には幼児虐待があったり、また早期教育の過熱化などにより、幼児たちは必ずしも望ましい環境の中で育っているとは言い難い。幼児期の達成課題とは何か、それには何が必要とされるのかについて、家庭教育の問題も含めて考えてみたい。

講義の後半では、障害児の問題を、「ノーマライゼーション」という視点から取り上げる。そしてこのようにして切り取られたものが、現代の学校教育に対してどのような問題を投げかけ、それに対して、どのように応えることができるかについて考えてみることにしたい。

上の二つの問題に共通していえることを、ここでは2点挙げる。その一つは、両者とも社会的弱者の立場にあること。したがって、周りの人間や環境の在り方に大きく左右されるということである。その二つ目は、両者とも、教師やおとなに対して指導方法や技術以上のものを求めてくるということである。誤解を恐れず、それを言葉で表現すれば、「献身」ということになろうか。

前期・後期とも、それぞれ3分の2以上の出席をもって評価対象になるものとする。

政治学

非常勤講師 坪井 主税
(札幌学院大学助教授)

政治とは、「島原の火山爆発」や「釧路の地震」のような自然現象ではなく、「湾岸戦争」や「ユーゴの紛争」のような人為的現象である。されば、政治を良くするも悪くするも、その主体は、神・仏ならぬ人間である。人間には、一方に、権力と暴力(すなわち、銃と抑圧)そして金に物言わせて政治を左右する者がいる、が他方に、連帯と非暴力行動と(平和や人権などの)人類的・普遍的価値(観)を“武器”に政治を変革せんとする者もいる。本講座は、後者の人間の挑戦に光を当てる。誰が、いつ、どんな政治課題をどんな風に挑戦したのか。そしてその結果から、私達はどんな教訓を学べるのか。たとえば君は、ペトラ・ケリーを知っているか。詳細は、最初の2時間のオリエンテーションで。

社会科学特別講義 II

非常勤講師 Tran Van Tho
(桜美林大学教授)

「アジア太平洋と日本」というテーマで講義する。過去約30年間にわたってアジア太平洋地域は急速に発展してきた。その発展の特徴と要因は何か。その発展過程に日本がどのように関わってきたか。現在、この地域に何が起きているか、それは将来の日本とアジア太平洋地域の発展にとってどのような意味を持っているか。本講義はそれらの設問に答えていく

形で展開する予定である。構成は概ね次の通りである。なお、テキストは使用しないが、参考文献は随時紹介する。

I. アジア太平洋地域の発展パターン

1. 高度成長の地域
2. 工業化の国際的波及

II. アジア太平洋地域の発展要因

1. 儒教文化圏の仮説
2. 後発性の利益
3. 経済理論の見解
4. 各見解の評価とまとめ

III. アジア太平洋ダイナミズムと日本

1. アジア太平洋ダイナミズムとは
2. 水平分業への展開と日本
3. 資本・技術の活発な移動と日本

IV. アジア太平洋地域の新しい潮流と日本

1. 直接投資の新しい波
2. 冷戦の終焉と地域経済圏の形成
3. 域内市場の重要性

V. これからの日本とアジア太平洋地域

1. 連携型援助・直接投資
2. 自由貿易地域の推進
3. アジア太平洋と日本：発展の展望

物 理 学

教授 原 田 稔

「現代の物理学の基盤となっている考え方はどのようなものなのか?」、「現在どのようなことが問題となっていて、どの方向に進もうとしているのか?」という観点から物質・宇宙をテーマにとりあげ、現代物理の考え方の本質にせまりたい。

テキスト：広瀬立成著「現代物理への招待」(培風館) ¥1,800

化 学 A・B

教授 片 岡 正 光

科学技術の発展によって私達は、人類がかつて経験したことのない豊かな暮らしをしている。私達の身の回りの化学技術を利用した製品はもとより、自然界に存在しているものはすべて化学物質である。化学は衣・食・住や生物・医学等の分野に深くかかわっており、私達の日常生活と密接に関係している。化学に関する基礎的な知識は、化学とは縁遠い分野で活躍しようとする人であっても、現代社会を生きてゆく上で必要である。講義では化学の基礎を平易に解説するとともに、学生諸君が興味を有しているであろうと思われる、地球規模の環境汚染の問題やエネルギー問題、超伝導物質、新素材、化学センサーなどの現代化学のト

ピックスについても解説する。またビデオを使って最新の化学分析法を紹介する。なお、出席を重視するので、履修者は毎回出席のこと。

教科書：多賀光彦・片岡正光・金谷憲一著

「教養の現代化学」(三共出版) 定価 ¥2,100

生物学 A・B

非常勤講師 金 沢 甫

いまや大腸菌も人も木や草も基本的には同じようなしくみで子孫をのこし、生命を維持し生活していることが明かになってきている。生物学はこのしくみをより詳細に、より深く解明しようとして、多種多様の方面と方法から取り組んでいる。

限られた時間のなかで、それらの全体像を概観することだけでも容易ではない。そのため、ここでは、われわれの身体をはじめ、身近にみられる生命の営みの基礎的な現象や遺伝のしくみを中心にして、「人間の生物学」とでもいうことを述べていく予定である。それをを通じて、自然科学の思考性や論理性もつかいがい知ってもらいたいとも思っている。

なお、臨海実習を行って、ウニ胚の初期発生を観察することを予定している。

2 外国語科目

英語

英語 I

講読A

- E101A
- E107A

助教授 下村 五三夫

テキスト ソール著 *Economics for Living* (南雲堂)

諸君の多くは将来経済の専門書を読むことになるでしょう。このテキストは日常生活の題材を例にして経済学の基本を解説しています。ここで得られる知識は必ず役に立ちます。積極的に授業に参加することを希望します。欠席は前期・後期合計して6回まで許します。成績は定期試験の成績と授業への参加態度を総合して評価します。

- E102A

教授 永原 和夫

Nishimura, *American Accent; Selected Short Stories* (南雲堂), ¥1,600

アメリカの現代短編小説を分析的に読む。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は、受験資格を失うので注意。

- E103A
- E109A

助教授 杉村 泰教

Alvin Toffler, *Powershift* (南雲堂, ¥1,300)

未来学者アルヴィン・トフラーの最近の評論を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失なう。遅刻は原則として認めない。

- E104A

非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)

アメリカの代表的な偉人のひとりと言われているベンジャミン・フランクリンの『自叙伝』を読みながら、英語で読むということはどういうことかを基礎から学習する。

教科書: *The Autobiography* 研究社 (小英文叢書)

- E105A
- E108A

助教授 津曲 敏郎

I. Asimov: *The Best Essays of Isaac Asimov* (成美堂 ¥1,300)

SF作家として、また科学啓蒙家として高名な著者が語るさまざまな話題を通して、楽しみながら科学的なものの見方を読みとることができよう。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準じる扱いとなる。

- E106A

教授 豊国 孝

アメリカの代表的小説家フォークナーの短編小説を読む。

$\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

テキスト: William Faulkner, *New Orleans Sketches* (北星堂)

- E110A

助教授 高井 収

教材はアメリカの教育問題をテーマにした映画“Lean on Me.”を使用し、各場面ごとの要約作成を授業活動の中心とします。自然なスピードで話される英語を聞き取る練習も授業活動の中にいれ、教科書は使わず適時プリントを配布します。また、クラスではグループ活動を中心にレポートと発表に重点を置き、英語による自己表現力を養成していきます。

なお、具体的な授業計画表は最初のクラスで渡し、説明します。

- E111A

助教授 大島 稔

授業内容:

聴解能力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストはもちろん、自分の意志や自国の文化を相手に伝える、いわゆる「発信型」の英語技術の訓練にも役立つように工夫された練習問題も含まれている。テキストの内容は、「学生生活」、「英国内の文化・習慣」、「日本事情」である。

全体で20課から成り、最後に小テストにより、その課のまとめを行う。授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定:

評価は、毎回の小テストと定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

テキスト:

J. B. Alter: *Listen and Talk: Book I: Enjoy Your Campus Life*, 金星堂

- E112A

非常勤講師 片山 厚
(北海道大学教授)

エピソードを追って、アメリカの歴史を読みながら、基礎的な英語の読解力を養成するように努める。

教科書: Bryn O'Callaghan, *New Images of American History* Peel Press(刊)
好学社 (発売元)

講読B

◦ E101B

教授 豊国 孝

イギリスの小説家 W. S. モームの短編小説を読む。
%以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

テキスト: W. S. Maugham, *The Mixture as Before* (英宝社)

◦ E102B

教授 君羅 久則

Muriel Spark, *The Portobello Road and Other Stories* (朝日出版)

Muriel Spark, *Voices at Play* (松柏社)

現代イギリスの作家ミアリエル・スパークの短編小説を読む。テープを利用して耳から理解することも試みる。授業実施時数の%以上出席しなければ単位認定はしない。

◦ E103B

助教授 山本 久雄

テキスト: *The People of Japan* by Pearl S. Buck (成美堂)

本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。7回までの欠席は認めるが、それ以上欠席したものは受験資格を失なう。遅刻は欠席と同じ扱いとする。

◦ E104B

非常勤講師 宮町 誠一
(札幌学院大学教授)

ソ連邦の解体により、今後の世界の動向はアメリカ合衆国の価値観を一層反映する事になるだろう。そのアメリカ社会は「豊かな国」、「自由と民主主義の国」という肯定的イメージと、貧富の格差、人種差別、犯罪という否定的イメージが混在する矛盾に溢れた側面をも内包している。アメリカ社会の現実の現象を直視し、合衆国建国の理想との関連から論じた英文を読んでみたい。随時英文プリントを配布し、変化するアメリカをリアルタイムで理解したい。

テキスト

書名 *New Images of American History*

著者名 Bryn O'Callaghan

出版社 ピール出版

価格 ¥1,800円

◦ E105B
◦ E110B

非常勤講師 上野 之江
(北海学園大学講師)

Waku & Suzuki, *Communicative Approach to Reading*. (三修社, ¥1,400)

このクラスは英語を読む能力を養う実技クラスである。教科書に加えて雑誌、新聞、パン

フレット等さまざまなレベル、内容の英文を読んで必要な情報を短時間のうちに簡潔につかまえる練習をする。従って授業には毎回出席し、練習を積み重ねることが要求される。

クラスの学習目標は 1. 多読 2. 語彙力の増強である。毎回小テストを行う。

Reading project として海外との通信も予定している。出席時間数が%未満のものは定期テストは受けられない。

クラス運営、評価方法については初回の授業で説明致します。

◦ E106B
◦ E111B

非常勤講師 佐藤 幸子
(小樽女子短期大学教授)

James Kirkup: *Encounters* ¥750 成美堂

B. Russel, The Beatles, S. Maugham, C. Chaplin, W. Churchillと著者 Kirkup との出会いを語ったものである。単なる偉人伝の範囲をこえて幅広いテーマと魅力的なエピソードにあふれ、英文を読む楽しさを満喫させてくれる。遅刻は認めない。出席を重視する。

◦ E107B

非常勤講師 横尾 元意
(北海道武蔵女子短期大学教授)

Mansfield から Hardy までイギリスの代表的小説家の短篇を講読していきます。イギリス社会に潜む様々な局面を読みとることが出来ます。『チャタレー夫人の恋人』を想起させる D. H. Lawrence の *The Shades of Spring* においては、彼の評論も参照して検討してもらいます。「意識の流れ」の手法で有名な James Joyce の *The Boarding House* を取り扱います。この作品は『ダブリンの人々』という短篇集に入っています。W. S. Maugham の *The Judgment Seat* ではキリスト教の伝統に注目したいと考えています。さらに、Thomas Hardy の *Squire Petrick's Lady* に貴族崇拜の傾向を読みとってみたいと思っています。

テキスト: *Modern British Masterpieces*, 九頭見一士編注, 金星堂

◦ E108B

非常勤講師 西村 千稔
(小樽女子短期大学教授)

大学で学ぶ方法論のうち、ニョークリティシズムの context と contrast の習得を授業の目的として、テキストを分析します。

注意事項: どのような理由があっても、実施授業時間数の三分の二以上出席しなければ、定期試験の受験資格を失います。遅刻3回で欠席1回とみなします。

テキスト: 『現代アメリカ名作選』朝日出版社 1,300円

◦ E109B

非常勤講師 宮町 誠一
(札幌学院大学教授)

西欧人との対話の際には、日本人同士の対人コミュニケーションとは異なるレトリックが機能しているように思われる。前期では主に米国の映画俳優とのインタビュー記事を読み、より正確な読解力の育成を目指すと同時に、欧米型のオーラルコミュニケーションについて考察を深めたい。後期は日米間のコミュニケーションの問題に焦点を合わせ、昨年逝去された Dr. Dean Barnlund のエッセーを熟読したい。随時英文プリントを配布する。

テキスト

書名 *Reaching for the Stars*, part 1

著者名 *Ruben Hendandez*

出版社 英潮社出版

◦ E112B (前期)

非常勤講師 佐藤 知己
(北海道教育大学講師)

David Crystal, *The History of English* (Kinseido)

◦ E112B (後期) 未定

英会話・作文

◦ E141C
◦ E142C
◦ E143C
◦ E144C
◦ E145C

外国人教師 Michael Carr

Richards, *Interchange 1*, (Cambridge University Press)

This course will emphasize functional communication in English.

Attendance and participation are required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from weekly tests in the language laboratory, roleplays, and other activities.

◦ E146C
◦ E147C
◦ E148C
◦ E149C

外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Levine, Baxter and McNulty, *The Culture Puzzle* (Prentice Hall Regents)

The idea of this course is to read, think and speak, and do it again and again gradually increasing confidence in conversational skills. The emphasis is the difference between life in Japanese culture and life in other cultures. No more than two unexcused absences are allowed. Grades are based on active class participation and weekly tests in the language laboratory.

◦ E150C
◦ E151C
◦ E152C

非常勤講師 Stephen Toskar
(小樽女子短期大学助教授)

Using the new text called *Keynote*, we will approach our study of English conversation using a balance of listening and speaking activities.

Students are expected to be in class every week except under unusual circumstances. Students *must* actively participate in class in order to receive credit. In addition, students must make group presentations and pass major tests in order to receive credit.

Text: *Keynote* by Michael Rost and Anne McGannon
publisher: Lingual House

◦ E153C
◦ E154C
◦ E155C

非常勤講師 Tim S. Becraft

This course emphasizes English speaking practice in both controlled and creative situations, but also includes structured listening and writing practice. Students are expected to prepare for class, to attend class, and to actively participate in class, all of which are important in deciding course grades. More than three unexcused absences will not be allowed.

教科書: *Interchange 2—Student's Book, —Workbook*

著者: Jack C. Richards

出版社: *Cambridge University Press*

価格: ¥1,970円, ¥1,270円

◦ E156
◦ E157

非常勤講師 Catherine G. Miles

◦ Jack C. Richards, *Interchange 2* (Cambridge University Press)

This course is designed to promote functional English conversation. Emphasis will be placed on both speaking and listening comprehension to complete the communicative process. Students will work in pairs and small groups in both controlled and creative situations. Participation and attendance are mandatory in order to satisfactorily complete the course.

◦ E161

助教授 山本久雄

テキスト: *A Practical English Grammar* by A. J. Thomson & A. V. Martinet (Oxford)

英文で書かれた文法書を読む。7回までの欠席は認めるが、それ以上欠席したものは受験

資格を失なう。遅刻は欠席と同じ扱いとする。

英語Ⅱ

- 教授 永原和夫
- E201 James Joyce, *Dubliners* (南雲堂), ¥1,400
James Joyce, *An Encounter & Other Stories* (南雲堂), ¥1,400
Joyce (1882-1941) の短編小説を精読する。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失うので注意。

- 教授 豊国孝
- E202 イギリスのチェホフと呼ばれる H. E. Bates の短編小説を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。
テキスト: H. E. Bates, *The Golden Oriole and Other Stories* (英宝社)

- 教授 君羅久則
- E203 Muriel Spark, *The Driver's Seat* (朝日出版)
現代イギリスの作家ミアリエル・スパークの中編小説を読む。授業実施時数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ単位認定はしない。

- 助教授 杉村泰教
- E204 Joseph Conrad, *Freya of the Seven Isles* (北星堂, ¥910)
◦ E205 英国の小説家コンラッドの中編小説を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失なう。遅刻は原則として認めない。

- 非常勤講師 三浦京子
(北海学園大学講師)
- E206 英国の作家 D. H. ロレンスは、理想的な男女の関係についてどのように考えていたか。
◦ E207 短篇小説 "Princess" の主人公であるプリンセスと呼ばれる女性は、ロッキー山脈が象徴する荒々しい原始的な力に男性像を発見し、嫌悪すると同時に欲望を抱く。精読して主題の究明に努めたいと考えます。

テキスト: D. H. Lawrence, *The Rocking-Horse Winner & The Princess* (太陽社)

- 非常勤講師 横尾元意
(北海道武蔵女子短期大学教授)
- E208

イギリス・ルネサンスの劇作家を代表する William Shakespeare (1564-1616) の悲劇 *Romeo and Juliet* を講読していきます。ビデオを使用して劇の内容を把握しやすい

ようにしたいと思います。受講者が30~40行づつ担当して進めていきます。従って、出欠を重視します。

テキスト: William Shakespeare, *Romeo and Juliet*, 大塚高信注解 (研究社小英文叢書)

- 非常勤講師 西村千稔
(小樽女子短期大学教授)
- E209

大学で学ぶ方法論のうち、ニュークリティシズムの context と contrast の習得を授業の目的として、テキストを分析します。さらに作品の構成方法も学びます。

注意事項: どのような理由があっても、実施授業時間数の3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験資格を失いません。遅刻3回で欠席1回とみなします。

テキスト: *Bitter & Sweet Love Stories* (金星堂)

- (前期) 助教授 大島稔
- E221

授業内容:

聴解能力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストはもちろん、場面や相手との関係のあり方による表現の仕方の違いに焦点をおいた練習問題が用意されています。テキストの内容は、カナダの自然・歴史・生活を紹介した「カナダ事情」で、英語の種々の能力検定試験や TOEFL などの聴解力試験にも役立つ内容である。

全体で12課から成り、授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定:

評価は、定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

テキスト:

Hadden, Diane & Hasegawa, Mizuho: *A Canadian Mosaic: A Reading and Functional Listening Approach*, 松柏社

- (後期) 助教授 津曲敏郎
- E221

P. Evans et al.: *Great Events in Human History*

(マクミランランゲージハウス ¥1,350)

近代ヨーロッパの文化史上の重要なできごとを取り上げたエッセイを読む。大航海時代に始まって、近代科学の誕生、産業革命、啓蒙思想を経て、コミュニケーション革命、そして最先端の生命科学に至る近代文明の流れをつかむことができよう。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準じる扱いとなる。

- E222 非常勤講師 坪谷 雍子
(静修短期大学助教授)

Text: Edward T. Hall, *The Silent Language* (Doubleday)

Read, study and enjoy the best writing of Hall. This course will explore your rapid and creative reading. Class attendance is "must". Your grade will be damaged by excessive absence from class and your poor weekly reports.

- E223 助教授 山本 久雄

テキスト: *What Is Linguistics?* by David Crystal (篠崎書林)

本授業は、英文読解力の向上及び内容把握を目的とする。7回までの欠席は認めるが、それ以上欠席したものは受験資格を失なう。遅刻は欠席と同じ扱いとする。

- E224 非常勤講師 浪田 克之介
(北海道大学教授)

読解力の養成を中心としながら総合的英語力の達成を目的とする。

テキスト: *Interactive Reading*, 朝日出版社

- E225 非常勤講師 根本 慎
(札幌医科大学助教授)

W. U. Solberg, *A History of American Thought and Culture* (金星堂)

英文読解力の養成を目的とする。予習の際に英英辞典を必要とする。

授業時間数の3分の1以上欠席した学生は受験資格を失う。

- E226 非常勤講師 根本 慎
(札幌医科大学助教授)

P. Milward, *Aspects of English Culture* (北星堂)

英文読解力の養成を目的とする。予習の際に英英辞典を必要とする。

授業時間数の3分の1以上欠席した学生は受験資格を失う。

- E227 非常勤講師 下宮 英治
(北海道武蔵女子短期大学教授)

人間が引起す環境破壊は、人間自身を脅やかすばかりでなく、共生する樹木、草花、野鳥などの生命をも奪って行く。このような環境問題のひろがりや実態はどうなっているのか。講読を通して理解を深めると同時に、人間としてのあり方にも関心を向けて行きたい。

授業については、全時数の3分の1を超える欠席は資格放棄と見なすので要注意。

テキスト: *Another Green World* (金星堂)

- E228 (前期) 非常勤講師 要 春光
(北海道武蔵女子短期大学助教授)

易しい英文で書かれた、ユーモラスで機知に富んだ話を楽しみながら、聞き取る練習、書く練習もし、多角的に運用力を高めることを狙いとします。

授業は毎時間できるだけ多くの人を指名して進めますので、予習は不可欠です。出席状況、平常点、筆記試験を総合して評価します。

テキスト: L. A. Hill, *Amusing Stories for Comprehension*. 英潮社

- E228 (後期) 未定

- E229 非常勤講師 上野 之江
(北海学園大学講師)

クラスの目標: 1) エイズ、代理母、パソコン革命などのトピックに関するCNNニュースを聴き取る 2) トランスクリプションを読み内容を理解する。

以上の練習を通して聴解力と読解力を養う。

教材: ビデオにおさめられたCNNニュースを使う。教科書は使わない。受講者はオーディオカセットテープを1本用意してください。

評価には、出席と毎週の練習成果を重視します。

- E230 非常勤講師 鈴木 良克
◦ E231 (小樽女子短期大学教授)

Lucy R. Garretson: *American Culture - An Anthropological Perspective* -
(開文社 ¥1,133)

- E232 非常勤講師 上田 雅信
◦ E233 (北海道大学助教授)

Science, Time 等の雑誌の記事(一般の読者向けの科学記事やアメリカの学者、作家(例えば、Issac Asimov)とのインタビュー等)をテキストに使用して英文の内容を把握する練習をします。語彙力を増すことを主な目的としますが、アメリカ人の物の考え方を学ぶ良い機会にもなると思います。テキストは開講時に指示します。

- E234 非常勤講師 小林 敏彦
(北海学園大学講師)

テキスト: 小林敏彦著「和英人物表現データバンク」ジャパントイムズ

小林敏彦著「分野別編集生活単語を増やすための和英便利辞典」明日香出版社
上記のテキストを使用し、人間の性格・行動パターン・その他のあらゆる人間考察をインプット・アウトプットの両面から英語の4技能をエンハンスする。毎回速読用に人物表現に関する英文記事やエッセイの一部を配布する。また、授業のはじめはボキャビルクイズとポッ

プス音楽を使ったリスニングトレーニングも行い、楽しくてわかる授業にするつもりである。授業の50%は英語を使用し、出席を重視。遅刻は2回(連続とは限らず)で欠席一回とカウントし、 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失なう。

英語Ⅲ

◦ E301 教授 永原 和 夫

Aldous Huxley, *Brave New World* (Grafton Book), ¥1,600

Huxley (1894-1963) が1930年に書いたSF小説『すばらしき新世界』は、試験管ペイビーや遺伝操作がおこなわれる現代そのままである。最初の部分は生理学用語が頻出し取組みづらいが、次第に格調高い英文を楽しむことができる。スピードを上げて読みたいと思っている。どんな理由があっても $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失うので注意。

◦ E302 教授 豊 国 孝

イギリスの小説家 D. H. ロレンスの短編小説を読む。

$\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失う。遅刻は認めない。

テキスト: D. H. Lawrence, *Love among the Haystacks and Other Stories* (Penguin Books)

◦ E303 教授 君 羅 久 則

Muriel Spark, *The Prime of Miss Jean Brodie* (あぼろん社)

Muriel Spark, *The Prime of Miss Jean Brodie* (Penguin Books)

現代イギリスの作家ミュアリエル・スパークの中編小説を読む。後半は原書を使用し、映画化された作品をビデオで鑑賞する。授業実施時数の $\frac{2}{3}$ 以上出席しなければ単位認定はしない。

◦ E304 助教授 杉 村 泰 教

Joseph Conrad, *The Shadow-Line* (Oxford Paperbacks)

英国の小説家コンラッドの代表的な作品を読む。 $\frac{2}{3}$ 以上出席しない者は受験資格を失なう。遅刻は原則として認めない。

◦ E305 外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Materials to be supplied by instructor

This course is focused to improve conversational and written skill through the reading and discussion of a short play. Only serious students of English need register. Attendance is required. No unexcused absences are allowed. Grades are determined from class participation, quizzes, readings and a final

typewritten paper.

◦ E321 助教授 津 曲 敏 郎

Our Planet Earth: Reading Time (桐原書店 ¥1,380)

Time 誌に掲載された、地球環境をめぐるさまざまな問題を論じたエッセイを読む(昨年度の英語Ⅲのテキストとタイトルが似ているが別内容であるので念のため)。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や予習不足、授業への実質的不参加も欠席に準ずる扱いとなる。

◦ E322 非常勤講師 浪 田 克 之 介
(北海道大学教授)

英語の読解力の養成を主に聴解力をも身につけることのできるよう訓練する。

テキスト: C. P. Snow, *Variety of Men*, 英宝社

「10分間リスニング上級編」 桐原書店

◦ E323 非常勤講師 下 宮 英 治
(北海道武蔵女子短期大学教授)

最も今日の問題の一つである地球環境に関連するエッセイを教材として、読解、聴き取りを含めた all-round な演習を行う。

出席については、全時数の3分の1以上の欠席があるものは、単位認定については失格の扱いとする。

テキスト: *The Future Is Now* (南雲堂)

◦ E324 (前期) 非常勤講師 佐 藤 知 己
(北海道教育大学講師)

Joseph H. Greenberg, *A New Invitation to Linguistics* (Seibido, ¥1,900)

ことばの研究にはどのような分野があり、又、どのような方法があるのかを現代を代表する言語学者である著者が簡潔明瞭に解説している。英語をより一般的な視野からとらえる姿勢を学ぶ。

◦ E324 (後期) 未 定

◦ E325 非常勤講師 小 林 敏 彦
(北海学園大学講師)

テキスト: 小林敏彦著「言い訳の英語」金星堂(今年4月発売)

小林敏彦著「分野別編集生活単語を増やすための和英便利辞典」明日香出版社
国際社会で円滑なコミュニケーションをはかるために必要な知識と英語力の強化、またそれに必要なボキャビルも行なう。スライド、ビデオ、ポップス音楽を使ったリスニング強化

も取り入れ楽しくてわかる授業にするつもりである。授業の半分は英語を使用し、出席を重視。遅刻は2回（連続とは限らず）で欠席1回とカウントする。3/5以上の出席しないものは受験資格を失なう。

◦ E326 (前期)

非常勤講師 要 春光
(北海道武蔵女子短期大学助教授)

易しい英文で書かれた、ユーモラスで機知に富んだ話を読みながら、聞き取る練習、書く練習もし、多角的に運用力を高めることを狙いとします。

授業は毎時間できるだけ多くの人を指名して進めますので、予習は不可欠です。出席状況平常点、筆記試験を総合して評価します。

テキスト : L. A. Hill, *Further Amusing Stories for Comprehension* 英潮社

◦ E326 (後期) 未定

ドイツ語 I

教科書 : 「コミュニケーションのためのドイツ語」(関口一郎著, 三修社刊 ¥1,700)

今年度からドイツ語 I の授業は全クラス統一教科書を使い、コミュニケーション能力を中心とする総合的語学能力の養成という同一の目標をかかげて授業を進めていくことになりました。語彙や文法事項の到達目標は共通ですが、外国語を学ぶ際の各人の動機の違いにも対応すべく、以下に挙げる3タイプ、計5クラスが開講されます。各自が授業タイプを選択することによって学習目的の自覚も深まる、というシステムです。

タイプ① (クラスA) : 会話中心型。(ドイツ人教師週2回+日本人教師週1回) 直接生きたドイツ語に触れながら基礎を学んでいこうというクラスです。会話能力の訓練に力点が置かれていますが、各自が日頃文法知識の整理に努めることも大事な鍵となります。

タイプ② (クラスB・C) : 文法・会話バランス型。(ドイツ人講師1回+日本人教師2回) 日本語による基礎知識の習得を中心とし、ドイツ人教師の授業で週1回その知識の運用に磨きをかける、という展開をします。

タイプ③ (クラスD・E) : 文法・ドイツ社会紹介型 (日本人教師3回) 週2回ドイツ語の基礎知識を学ぶ点はタイプ②と同じですが、他の1回の授業でドイツ事情の紹介等、これまでの語学授業とは一味違った刺激が受けられる、というのがこのタイプの特徴です。

教科書の題名も示す通り、ドイツ語 I では「コミュニケーション能力の養成」ということを唱っていますが、コミュニケーション能力とは便利な言い回しを使うテクニックなどではなく、何よりも他人の言説に興味を持ち、人に伝えたいメッセージを自分の中に育むといった柔軟で積極的な精神の要請であることを、最初に認識して欲しいものです。

(授業担当者については18頁を参照。)

ドイツ語 II

今年から『アラカルト』方式なるものを採用してみました。その理由は二つあります。一つには、ドイツ語 I を土台として中級にふさわしい総合的語学力を養成して行くためには、逆にいわゆる4技能〔「話す」「聞く」「読む」「書く」〕のうちの個々の技能に的を絞って学習する方が効果的な面があるからです。とは言え、以下の個々のアラカルトの説明からも明らかなように、言語は本来複合的・総合的に機能するものですし、私たちの最終的な狙いも言語の総合性にあるわけですから、常に他の諸技能とのバランスにも配慮されます。

二つ目の理由は、学習者の多様なモチベーションに対応するためです。最終目標が総合性にあるとしても、基礎さえしっかりしていれば、そこに至るプロセスが一様である必要はありません。むしろ各自の関心に依じてメニューを自由に組み合わせた方が学習効果が上がるはず。今年度は幸いにも、「話す」に二つ、「読む」に四つ〔学術、時事、ドイツ事情、文学〕「書く」「聞く」に一つずつ、「中級文法」「おさらい文法」と火曜・木曜に分散さ

せて多様なメニューを用意することが出来ました。学習者や各メニュー担当者からのフィードバックによって今後とも手を加えて行くつもりです。

尚、ドイツ語Ⅲは来年度からの開講を睨んで目下構想が練られている最中ですが、上に説明したドイツ語Ⅱとの兼合いで、中級段階での総合性の仕上げに照準が置かれることになるでしょう。そしてメイン・ディッシュの一角をドイツでの『短期語学研修』（単位認定と研修料補助の可能性が検討中）が占めることになるでしょう。

II A. 会話中級 I (火曜日)

非常勤講師 Michael Haas

○教材：その都度のテーマに応じて Alles Gute をはじめ様々な教材を駆使する。都市紹介のスライドも使う。

○授業の目的：特に動機のしっかりした学生諸君の参加をお勧めしたいと思う。自発的にドイツ語を話そうとするのは特に最初のうちは骨が折れるが、やがて自己発信能力として実を結ぶ日も来よう。授業の成功のために、諸君には規則的な出席をお願いしておく。

○授業の内容：ビデオ等を活用して架空のドイツ旅行を一緒に楽しんでみよう。この旅行中に諸君にはドイツ語を勉強していただく。ここで学ぶドイツ語はとりわけ状況によくマッチし、またホテルや休暇等に重要な語彙を含んでいるものとなるだろう。

II B. 読解 II (時事問題) (火曜日)

非常勤講師 加納 邦光
(北海道大学教授)

○教材：『新・ドイツ現代スナップ』（Günter Vogel, Heinlich Schliemann, 水内 透、白水社/1,500円）

○授業の内容：やさしいドイツ文で、現在ドイツに起きている様々な状況と問題をみていきます。練習問題で文法の練習もします。テキストも練習問題も会話文が中心なので、会話の練習にもなるでしょう。

II C. 読解 III (ドイツ事情) (火曜日)

非常勤講師 瀬尾 慎一

○教材：新聞や雑誌の記事を中心に編集された『新生ドイツの行方』（三修社/1,262円）を最初に講読します。その後更にアクチュアルなテーマを扱った記事や論説を随時コピーして配布します。

○授業の目標：戦後、ドイツを語る時に、東西分裂は避けられないテーマでした。東西統一の成った今日、ドイツは新たに環境汚染、EC統合、新しいナショナリズムなどの問題に直面しています。新聞や雑誌の記事を新たなテキストとして問題を整理し、ドイツの今後の行方を考察する視点を養成するのが目標です。随時日本語の文献も紹介します。

○授業の内容：語学の授業であることにかわりありませんから、テキストに則して文法の要点は復習します。（1年次で使用したテキストは必ず持参のこと）ジャーナリズムのドイツ語は新しい語いや合成語で満ちています。辞書にのっていないケースも稀ではありません。

ん。こうした言葉を読み解く方法についても一緒に研究してみましょう。

II D. 「聞く」(火曜日)

助教授 大塚 譲

○教材：《Themen》（総合教材）や《Alles Gute》（ビデオ教材）をはじめとする定評あるドイツや日本の教材や映像の中から担当者が用意します。従って参加希望者は半端ではない『やる気』のみを用意して臨んで下さい。

○授業の目的：「話す」能力を養うためには、それに先立って十二分に「聞く」訓練を積み重ねなければならないと言われます。そうすることによって音声と言葉のルールがしっかりと定着するからです。やはり「話し上手は聞き上手」なのです。しかし「聞き上手」はまた「読み上手」でもあって、「聴解力」は「速読力」と連動して語学力の総合性の地平を広げます。

○授当の内容：多様な「聴解」練習を試みます。〔I〕音声や文法の定着〔II〕簡単な日常会話〔III〕テレビの娯楽番組〔IV〕テレビやラジオの簡単なニュース〔V〕簡単な朗読等々。素材次第で、雰囲気を楽しむために／キーワード中心に／キーセンテンス中心に／ディクテーションのために聴き、適宜自己表現や速読の要素も加味します。

II E. 文法 II (中級) (火曜日)

助教授 鈴木 将史

○教材：中級ドイツ語文法読本〔尾崎盛景著、三修社/¥1,000〕

○授業の目標：この授業は、基礎レベルでのドイツ語文法をほぼ習得した学生が対象となり、更に高度な独文を理解するために必要な中級文法が、重点的に取り扱われます。辞書の広範な使用方法も含め、原書クラスの独文に対応できる文法知識を獲得することがここでの目標となります。

○授業の内容：テキストをまず読解する事が出発点となりますが、そのみでは当然なく、文章の骨格、即ち文法が如何に理解されているかを常に問い続けます。そのためにテキストに応じた様々な文法問題を設定していき、文法事項各々が直観的に「ニュアンス」として理解されることを目指します。

II F. 会話中級 II (木曜日)

非常勤講師 Heike Papenthin

○教材：『Alles Gute (ビデオおよびカセット付き)』『担当者の自作教材』

○授業の目的：

- (1) 聴解力を磨くこと。
- (2) 言語コミュニケーション能力を高めること。
- (3) ダイアログを自ら作成すること、あるいは自ら物語を執筆すること、及び手紙の執筆を手ほどきすること。

○授業の目的：

▽参加の前提：〔1〕積極的かつ創造的に授業に参加しようとする意志。

〔2〕他の参加者と一緒に少グループないしはペアでダイアログを共同作成する用意。

〔3〕新しい語彙や新しい構文を暗記する用意。

▽内容とテーマ：前期：部屋探し、買い物、旅行等をテーマにコミュニケーション練習。
後期：コミュニケーション練習+手紙書き/物語読解/物語作成。

II G. 読解 I (学術) (木曜日)

非常勤講師 室井 禎之
(北海道大学助教授)

- 教材：未定。社会科学の考え方について基礎的な理解を得るのに適した文献を使用する予定である。始めのうちは比較的平易なテキストを用い、適当な時期に多少読み応えのある論文に移りたい。後者については、学生諸君の希望を踏まえ、こちらでいくつかの候補を用意し相談の上決定したいと思うので、分野・テーマなどについて考えておいて欲しい。
- 授業の目的：ドイツ語を通して社会科学の基本的な考え方を理解することを目指す。母語とは異なった表現の中で、より意識的に言葉と向き合うことにより、この目的はより効果的に達成されよう。同時に、ドイツ語の表現について、理解・習熟を深めることもこの授業の同じく重要な目的の一つである。
- 授業の内容：講読を基本とするが、日本語に置き換えることではなく、議論の筋道を負うことを重視したい。キーワード・キーセンテンスに注目し・段落をまとめるなどの作業を通して、論の組み立てを理解するように努める。併せて、論文などに多用される表現に習熟することを目的として、語彙・作文などの練習を適宜行う。

II H. 読解 IV (文学) (木曜日)

助教授 鈴木 将史

- 教材：“Die Toten schweigen”〔死人に口なし〕(シュニッツラー/芸林書房 ¥824)
- 授業の目的：ドイツ文学の原文に触れることによって、大学教養課程でのほぼ最高レベルの文章読解力を涵養し、併せてヨーロッパ文化の背景も探っていく方針です。
- 授業の内容：表題の作品は、ドイツ・オーストリア近代文学中屈指の短編で、世紀末的な文化の爛熟と頹廢が、ウィーンを背景に見事に描きだされている。授業では微妙な含意の読解に細心の注意を払いながら、当時の世相を多少なりとも理解することが出来るように努めたい。また、滑らかな音読を練習するにも文学テキストは格好の教材です。作品は年内に読み終わることとしますので、その後はまた趣向を変えたものに挑戦していく予定です。

II I. 「書く」 (木曜日)

講師 副島 美由紀

- 教材：プリント使用
- 目的①ドイツで作られた教材を多種使用し、様々なテーマについてのドイツ人の考え方に触れ、異文化理解を深める。
②上記のテーマについて自分の考えをまとめ、人に伝える能力を養う。
③自分の意見や感じ方をドイツ語でいかに簡潔に表現するかを学ぶ。
- 授業の内容：書く練習は自己表現を磨く手段の一つにすぎません。授業の際は、読む、話

す、聞くといったその他の基本的なコミュニケーション能力の鍛練も図るつもりです。まずはあるテーマ、例えば環境問題、戦後処理や政治の問題、あるいはプライベートライフ等についてドイツ語で書かれた簡単なテキストを読みます。パートナー練習によって話す訓練も折り込みながら、文法事項や語彙を学びます。そしてそれぞれのテーマについての自分の考えをまとめてもらい、(テーマによっては日本語でディスカッションすることもあるでしょう)最終的には書くことによって表現力や文法的到達度のチェックを行います。毎回の作文提出は覚悟のこと。授業参加の積極性と出席を重視。

II J. 文法 I [文法おさらい]

助教授 大塚 譲

- 教材：『ドイツ語・コミュニケーション—文法—』(マルティン・ホーマン/宇佐美幸彦著、東洋出版、1,900円)
- 授業の目的：ドイツ語をもう一度土台から作り直したいと望んでいる諸君のために特に設けたクラスです。とは言っても文法の規則のみの学習に終始するつもりは毛頭無く、あくまでも相応の自己表現能力を中心とする総合的語学力の養成を目指します。最後には一人でも多くの参加者がドイツ語が好きになり確かな手応えを感じているようでありたいものです。
- 授業の内容：実際的な場面での意思伝達の練習を通じて、単に文法規則に留まらず実用的語学力の効率的習得をも図ります。従って常にドイツの一定の日常生活を設定し、またそれに付随する重要語彙を補って臨場感溢れる豊富な練習を重ねていきます。ですから参加者は傍観者的位置で退屈する心配はありません。

フランス語 I

I 1 (火, 水曜日)

教授 高橋 純

用書：朝倉季雄著『朝倉フランス語文法』(白水社、¥1,400)

I 2 (火, 水曜日)

講師 尾形 弘人

用書：『ツール・ド・フランス』(白水社、¥1,600)

I 3 (火, 水曜日)

教授 江口 修

用書：石井洋二郎著『フランス文法要説』(朝日出版社、¥1,400)

構文の習得とそこからの発展を中心にした文法の授業です。

I 1 (木曜日)

非常勤講師 梶野 吉郎
(北海道大学教授)

用書：村山他著『微笑みふらんせ』(朝日出版社、¥1,700)

耳を慣らしながら読めるようになることを主眼とします。

I 2 (木曜日) 教授 高橋 純

用書：青木・マンジュノ共著『サリュ！サバ？』（朝日出版社，¥1,700）

I 3 (木曜日) 講師 尾形 弘人

用書：朝倉季雄著『スケッチと文法』（白水社，¥1,600）

I C (火曜日) 非常勤講師 未定

L. L. : 視聴覚教材を用い簡単な会話・発音練習。テキストは《Nouveau Sans Frontiere》です。言語表現は社会的行動様式と結び付いたものであるから、学生諸君はフランス人の日常生活に関する著作を少なくとも一冊は読むこと。なおクラスでは学生諸君の活発な参加により、楽しい実用的小会話、場面設定による会話構文訓練を行う。宿題を課すので必ずやってくる。また予習を欠かさないように。

I C (木曜日) 教授 江口 修

用書：デュボワ他著『シャンタル登場』（朝日出版社，¥1,700）

日常的シチュエーションで展開される、しかしフランスっばい会話を学んでいきます。

フランス語 II

II A (講読クラス) 非常勤講師 梶野 吉郎
(北海道大学教授)

用書：原田武編『新フランス文選—中級初期のために—』（青山社，¥900）

平易な文章を通じてフランス語になれながら、フランスの日常的な生活やものの考え方などについて学びます。後期には何か文学的な作品を読んでみる予定。

II B (作文クラス) 教授 江口 修

前年度 I B で用いた石井晴一著『初歩のテーマ』（三修社，¥1,500）を引き続き用いる。新たにこのクラスを履修する者は各自購入すること。このテキストが終了した後も作文中心の授業を行う。

II C (会話クラス) 教授 高橋 純

用書：曾我祐典著『ことばのしくみ フランス語』（白水社，¥1,900）

1年次に修得した文法知識を実践的な表現に応用・発展させる会話主体のクラス。

II D (現代フランス事情) 講師 尾形 弘人

用書：天野恒雄著『続フランスとフランス人』（白水社，¥1,100） 平易なフランス語で

書かれた現代フランス社会・文化紹介を読む。核家族、女性の社会進出、生活水準、死亡原因、食文化の変化など12の話題からなる。詳しい notes 付き。

II E (会話クラス) 非常勤講師 未定

L. L. : 教材は《Nouveau Sans Frontiere》。言語の問題意識の自覚と敏感な感覚を養うために、学生諸君はフランス語の機能を理解し、生きた会話による言語表現のよりよい展開に努力すること。家庭学習においてはカセットの利用などにより発音に慣れるように。宿題を課するので必ずやってくる。予習を忘れないように。学生はただクラスを聞きにくるのではなく、参加するのです。

中国語 I

助教授 裴 崢

I A

教科書：「中国語初級対話64」

小川郁夫著（白帝社）

日常生活でよく使う表現を合計64の対話の形にしたテキストです。外国語はとにかく話すことです。文法上の必要な特徴を把握した上、基本的な例文を通じて、中国語の初級レベルの対話を練習します。

I B

教科書：「大学中国語」—語法マスター二十回—

今富正己・横川伸・守屋宏則著（朝日出版社）

中国語を構成するのに必要な知識を重点的に取り上げたテキストです。重要な文法を学びながら、実際に声を出して、発音や例文、会話の練習の反復を中心に指導します。

中国語 II

助教授 裴 崢

教科書：「中国を知ろう」

小川郁夫 馬鳳如著（白帝社）

文法の復習を兼ねて、中国についての知識を深めながら、中国語の読解力と応用力を高めていきます。

中国語 I

講師 萩原正樹

先ず中国式ローマ字による音節表記を学び、中国語の発音が正しく出来るようにする。続いて基礎語法及び基本句型について順次勉強していきたい。入門段階の語学はとりわけ積み重ねが大切であるから、出来るだけ続けて出席することが必要条件である。

また、言葉の学習を通して、ぜひ中国の政治や歴史、文化等について興味を持ってもらいたい。ただ授業を聞くだけではなく、積極的に参加することが、語学上達の近道であろう。

教科書：I B 「表現マスター中国語」黒坂満輝他著（同学社）

他に辞書も購入してもらう必要があるが、詳しくは開講時に説明する。

中国語Ⅱ

講師 萩原正樹

中国語Ⅱでは、これまでに修得した拼音、声調、基本文型、常用語彙等をもう一度復習しながら、より一層の読解力を養うことを目標としたい。テキストには、ⅡA・ⅡBともに現代中国の短篇小说を選んだ。同時代文学を読むことを通して、中国社会の諸相について学んでいきたい。受講者は必ず事前に音読し、辞書を用いて訳す努力を欠かさぬように。

教科書：ⅡA「巴金・月夜」太田進他編（白水社）
ⅡB「新選中国現代文」牧田英二・楊立明編（同学社）

中国語Ⅰ

非常勤講師 高 棋

言語の本質は音声にある。特に単音節語としての中国語はほかの言語より発音が難しい。中国語の勉強の基礎として、正確な発音が要求される。その上、中国語に「は」「が」などの助詞もないため、文節の配列順序は非常に大きな働きを持っている。こういう中国語の難点や特徴を分かりやすく説明し、基本文型を練習を通して授業を進めていきたい。

教科書：「語法ルール66」相原茂・玄宣青著、朝日出版社

中国語Ⅱ

非常勤講師 高 棋

教科書：「中国語中級テスト」張耀雄・張芳枝著、金星堂出版

スペイン語Ⅰ

助教授 山田真史

スペイン語の文法、読解、会話の基本を学びます。

授業の進め方、テキスト、辞書など詳しいことは最初の授業で話します。辞書は指示のあるまで購入する必要はありません。授業時間数の $\frac{1}{3}$ を越える欠席がある場合は、受験資格がありません。なお他の外国語で単位をとれなかった学生のこの授業への志望変更は認めていません。授業への準備が絶対に必要です。ちゃんとしてくれば、スペイン語のⅡのおわる頃にはスペインの新聞、雑誌は読めるようになります。

なおついでに、ことばは、詩人や言語学者など一部の人々をのぞけば「目的」ではなく、あくまでもコミュニケーションのための「手段」にすぎませんが、習得を目指しているあいだは当面の「目的」となります。また逆説的に響くかもしれませんが、母国語が上手にならない限り、外国語は上達しません。母国語すなわち日本語をじっくり観察してください。

スペイン語Ⅱ

助教授 山田真史

火曜日のクラスでも木曜日のクラスでも、同様に、スペイン語の「読解」と「表現」について学びます。授業の進め方、テキストなど詳しいことは、最初の授業で話します。授業時間数の $\frac{1}{3}$ を越える欠席がある場合は、受験資格がありません。スペイン語Ⅰの単位をとれな

かった学生はこの授業に出席できません。授業への準備が絶対に必要です。

ロシア語Ⅰ

講師 匹田 剛

助教授 Aleksandr Borisovich Spevakovsky
非常勤講師 松本忠司

ロシア語の基礎的な文法と会話を学びます。週3コマの内2コマを匹田、松本の担当で文法、1コマをスベヴァコフスキー担当で会話の授業とします。

文法の授業は「ロシア語16課（新田実著、白水社）」、会話の授業は「トレーニングペーパーロシア語教養課程読解編（教育社）」を中心としてそれぞれすすめますので各自入手しておいて下さい。なお授業開始後クラス分けをする予定ですが、初回は全員同じ教室に集って下さい。

ロシア語Ⅱ

講師 匹田 剛

助教授 Aleksandr Borisovich Spevakovsky

ロシア語Ⅰで学んだことを復習しながら、匹田担当の読解とスベヴァコフスキー担当の会話の授業を行います。

2コマ履修する者は、必ず読解と会話を両方履修して下さい。すなわち、読解を2つ、あるいは会話を2つといった履修方法は認めません。教科書は、文法会話とも、当初は昨年度用いたものの続きから入っていきませんが、必要に応じてプリントも配布する予定です。

昨年度同様にクラス分けを行います。初回は全員同じ教室に集って下さい。

3 保健体育科目

人間が直面する健康の諸問題に対する総合的な判断力をそなえ、且つ積極的な身体運動を通して健康の維持・増進と自己健康管理の基礎を養う。

- 保健体育理論**
- ・1年次配当, 前期開講, 2単位科目, A・Bの2クラス区分
 - ・履修(受講)者は次のとおり指定される
 - Aクラス…学生番号 93001~93250 (毎週月曜日5講時)
 - Bクラス…学生番号 93251~最終番号 (毎週金曜日5講時)
 - ・両クラスともに, 2名の教官により講義される
 - Aクラス…浅沼義英, 中川喜直
 - Bクラス…浅沼義英, 田野有一

保健体育理論A・B (前期) 教授 浅沼義英

大学生活や将来の健康保持, 増進にとって重要な問題を, 現代医学の見地から解説する。次のような内容を, 各講義ごとにとりあげる予定である。

○成人病, 高血圧, 肥満などの青年期からの予防。○栄養摂取の方法と弊害。○アルコール, タバコ等の嗜好品。○AIDSおよびSTD。○生体リズムについて。○学生の精神衛生。○公害, 汚染による現代病。○運動と疾病のかかわり。○環境変化に対する適応について。

各講義で小感想文を書いていただきます。出席は成績の評価に加味されます。

保健体育理論A (前期) 助教授 中川喜直

健康科学領域を中心に健康と運動, 栄養, ストレスの関連について論じ, 健康増進のステップになるように講義を展開する。

1. 運動不足と健康によい運動について —生理学的アプローチ—
2. 身体の解剖と構造機能
3. スポーツ障害, 腰痛, 肩こりのメカニズム
4. 運動とエネルギー代謝
5. 運動と神経
6. 栄養, 健康食品, 自然食品, ダイエット食品

保健体育論B (前期) 教授 田野有一

1. 社会の変貌と健康問題
 - ① 社会体育行政の概要
 - ② スポーツ行動の社会的特性
 - ③ レクリエーション活動とレジャー行動

2. 身体運動の心理的效果
 - ① 心理的效果のメカニズム
 - ② 身体運動とパーソナリティ
 - ③ 運動のマイナス効果
3. 科学的自主トレーニング
 - ① 体力, トレーニング, プラクティス…のとりえ方
 - ② トレーニングの基本的な考え方
 - ③ 各種のトレーニング理論と実際

体育実技I・II

- 教授 田野有一
 助教授 花輪啓一
 助教授 中川喜直
 非常勤講師 杉山登
 (小樽商科大学名誉教授)
 “ 藤江正
 “ 山田憲政
 (北海道大学助教授)

1. 履修方法について

必修科目。コース別(種目選択別)履修制。毎週1回。所定のクラス(時間)で履修。1年次通年履修…前期「実技①」+後期「実技②」。2年次半期履修…(前期または後期)「実技③」。「実技①, ②, ③」のすべてが合格した場合に『体育実技の2単位認定』がなされる。なお, 1年次分終了時点での分割単位認定はしない。

2. 共通実施種目と内容

- ①共通種目…「オリエンテーション」「体力診断テスト」(通年授業で)
「水泳」「スキー」(集中授業で)
- ②体力テスト…反復横跳び・垂直跳び・背筋力・握力・伏臥上体そらし・立位体前屈・踏み台昇降運動…の7種目。春・秋の二期に実施。
- ③集中授業…1・2年次とも「水泳」, 「スキー」の二者択一制。

	水 泳	ス キ ー
実施期日 (予定)	7/23・7/24…1年次生 7/26・7/27…2年次生	1/12・1/13…2年次生 3/3・3/4…1年次生
履修日	指定日の2日間(半日毎)	指定日の1日間(単日)
会 場	本学; 室内(温水)プール	朝里川温泉; スキー場
履修方法	夜間主コース(学生)合併授業	
指導体制	班別(技能別)…非常勤講師が加わる	

〔水泳実技内容〕

班 区 分	実 技 種 目
初 級 班	立ち方, 背浮き, 伏し浮き, 簡易泳法, 体位変換
中 級 班	クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, 横泳ぎ, 潜行
上 級 班	クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, 横泳ぎ, バタフライ, 潜行, ターン

* 班区分については, 履修数・技能程度により変更がありうる。

* 実技テスト種目…泳法 (数種目), ならびに距離泳を実施する (各班とも)。

〔スキー実技内容〕

班 区 分	実 技 種 目
初 級 班	歩行, 方向転換, 転倒法, プルーク, ボーゲン, シュテム・ターン
中 級 班	斜滑降, シュテム・ターン, 横滑り, パラレル・ターン
上 級 班	パラレル・ターン, ウェーデルン, 発展技術 (各種)

* 班区分については, 履修数・技能程度により変更がありうる。

* 実技テスト種目…ボーゲン, シュテム, パラレル, ウェーデルンの中から指示される。

3. 種目 (選択) 別『開設コース』について

- ◆ 1 年次
 - 前・後期開設種目…バスケットボール, バレーボール, バトミントン, 卓球,
 - 前期のみ開設種目…トランポリン, テニス, ソフトボール
 - 後期のみ開設種目…軽スポーツ, 基礎トレーニング, スポーツトレーニング
- ◆ 2 年次
 - 前・後期開設種目…バスケットボール, バレーボール, バトミントン, 卓球,
 - 前期のみ開設種目…トランポリン, テニス, ソフトボール, レクリエーション
 - 後期のみ開設種目…軽スポーツ

(注意) 各曜日・講時ごとに, 上記種目の中から, 3 種目 (コース) が組み合わせられ, 開講されるので, 授業の曜日・講時により若干の変動がある。

〔コースの実技内容〕

☆バスケットボール

ボールを扱う基礎的技術であるジャンプショット, セットショットなどやチェストパス, ドリブルパスを正確にマスターする。また, 攻撃防御のフォーメーションとステップ, フットワークの基礎練習を積みゲームへと展開する。

☆バレーボール

ネットを境にパス (オーバーハンド, アンダーハンド) だけのゲームではなく, バレーボールの技術のレベルが低くても, トス, スパイク, クイック及び高度な攻撃技術もそれなりにあり, お互いにラリーの続くようなゲーム展開の技術を習得するようにしたい。

☆バトミントン

老若男女が楽しめ, しかもその技術が奥深いバトミントン。球質別による各種スト

ローク方法や, 正しいゲームの展開方法 (シングルス, ダブルス) とルールを知るとともに, ゲームにおける基本的なフォーメーションと応用動作・技術を学ぶコース。

☆卓 球

初歩的な知識としてのラケットの種類, グリップなどについての理解と, 基本打法のフォアハンド, バックハンド, ストロークがある程度正確にできるよう実習を進める。後半では, シングルス, ダブルス・ゲームと審判法も身につけたい。

☆トランポリン

注目の新スポーツ。安全に, かつ楽しさを満喫しながら, ボディー・コントロールを体得しようとする初心者コース。垂直跳びの第一段階から, 基本技を中心に展開されるので, 全くの初心者も安心して履修できる他大学にはみられないユニーク・プログラム。

☆テ ニ ス

初心者を対象に基礎を中心に実習を進める。内容はグラウンドストロークのフォアハンド, バックハンドストロークを正確にラリーが続けられることを第一段階に, 次はボレー, サーブへと展開する。最終的にはゲーム (シングルス, ダブルス) ができるようにしたい。

☆ソフトボール

ゆっくりした投球で楽しむスロー・ピッチ・ソフトボールから真剣勝負でスポーツ性の高いファースト・ピッチ・ソフトボールを体得する。特に本格的なピッチング (スイングショット及びウインドミルなど) を習得したゲーム展開ができるようにしたい。

☆軽 ス ポ ー ツ

さまざまなスポーツを体験し, 生涯に亘って楽しみながら続けられる生涯スポーツの習得を目指している。具体的にはソフトボール, バレーボール, サロンフットボール, バスケットボール, ユニホック及びユニークなスポーツ種目なども取り入れたい。

☆スポーツ・トレーニング

体力増進をテーマに心拍数を指標におき, 適度な運動を屋外で体験する。健康づくりに良いウエイト・トレーニングを基礎から応用まで実践する。また, スポーツマッサージや心と体のリラクゼーションなど体のコンディショニングを整える内容まで幅広く実習する。

☆基礎トレーニング

目的別トレーニング方法をはじめ, 各種トレーニングの実際, 器具 (バーベル, マシン) の使用方法などを体得し, 自主トレが組めるまでを学ぶ。体力低劣者やスポーツの競技力向上に役立つトレーニングを模索している者にとっては最適なコース。

☆レクリエーション

鬼ごっこ形式のゲーム, グループゲーム, ウォークラリー, 軽スポーツなどを通して, ただ単に笑いを提供するのではなく, お互いに協力して, 人と人とが接し, 交わり, お互いに作用しながら自然に人間交流を深めていく過程で自分の心身に気付くようにしたい。

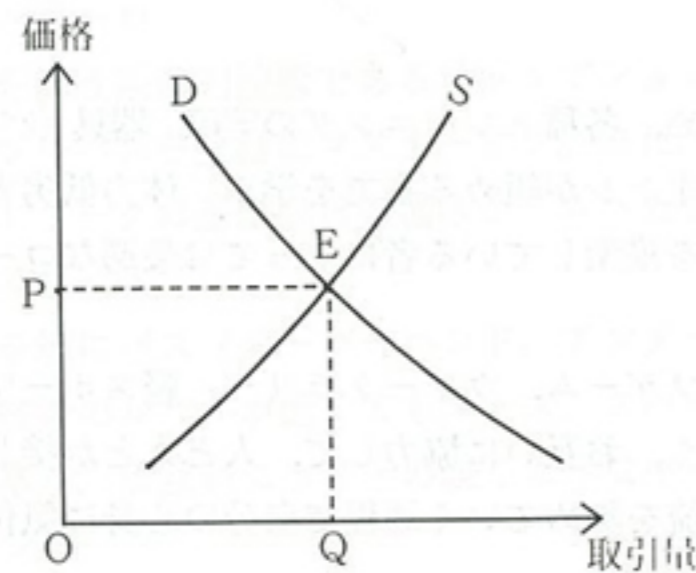
4 基礎教育科目

経済学概論

(前期) 教授 佐竹正夫

高校の『現代社会』では、例えば、下図のような需要と供給曲線が出てきて、その交点で価格と取引量が決まることを学ぶ。あるいは、これらの曲線のどちらかがシフトすると、価格が上がったり下がったりすることも学んだであろう。この図は、大変貴重な図で、単純な経済現象であれば、かなり多く現象が、この単純な図を基にすると理解できる。しかし、もしも、君たちが、これらの曲線の背後に、消費者や生産者の合理的な行動が潜んでいることを知れば、さらに一步踏み込んで、経済問題への理解が深まるはずである。また、このような需要と供給による価格決定のメカニズムが、つねにアダム・スミスの「神の見えざる手」に導かれているのではなく、いろいろな条件に依存していることを学べば、普段何気なく使っている「競争」や「産業」あるいは「情報」という言葉が、より深く理解され、世界が広がるはずである。

経済学は、社会科学の中では伝統のある学問で、それだけ学問が体系的に構成されている。この講義は、経済学の入門であり、2年次以降の専門科目への導入である。経済学を学んでいけば、様々な学説があることを理解されるであろう。入門的な講義で解説されるのは、それらの中で現在もっとも真実に近いと考えられている説である。もしも、それらよりもっとも真実に近い学説が現れば、既存の説はとって代わられる。それだけ、現在教科書などで説明されている理論は、厳しい競争を勝ち抜いて残った理論である。現在、基礎的な経済学では、「ミクロ理論」あるいは「価格理論」と呼ばれる体系と「マクロ理論」あるいは「所得理論」と呼ばれる体系が、並存している。両者の間には、実は深い対立があるのだが、現在それらを越えて、統一した理論で経済を説明できる理論体系は生み出されていない。したがって、とりあえず、両者を学ばなければならない。本講義では、ミクロの部分解説する。教科書は、西川俊作『経済学』第3版、東洋経済新報社を使用する。ミクロの部分は、この書のⅢ「家計の意思決定」、Ⅳ「企業の意思決定」及び、Ⅴ「市場・競争と規制」の一部である。



経済学概論

(後期) 講師 和田良介

日々、誰もが経済活動を行なっています。商品の生産、販売あるいは購入、資金の貸借、株式や外国通貨の売買など。一消費者として行動するだけの人もいれば、職業として大きく売買する人もあります。このように個々人の意思決定と行動がより集っての経済ではありませんが、経済活動の間の因果関係は明白なものとは限りません。例えば、キャベツが豊作だと生産者の収入は必ず増えるでしょうか。

日常生活の中で、あるいは職業として、誰しも経済活動の当事者なのですから、経済における因果関係について、それぞれの立場での経験と観察に基づき大なり小なり意見があるでしょう。しかし人々の経験や洞察を交換しあって、この因果関係を導き出そうとしても、共通な言葉で話さないと話はまとまりません。ここで経済学の諸概念で裏打ちされた経済用語が共通の言葉として働くことができます。経済学は日常ありふれた活動について考えてはいませんが、学問として討論を重ね陶冶された諸概念から成り立つ体系があります。経済学の諸概念は、事情が錯綜した現実の経済を理解、検討しようとする時、明快に考えをまとめる方法を与えます。

この講義では、一国全体の経済を考えるマクロ経済学の分野の基礎的な概念を説明します。例えば、日本政府が内需拡大策をとれば貿易収支の黒字幅は減るかについて考える時に、これらの概念を用います。小テストを6回行なう予定です。

教科書：西川俊作『経済学』第3版、東洋経済新報社、1988。

商学概論 A

(前期) 教授 片桐誠士

(中期) 教授 篠崎恒夫

(後期) 教授 渡辺和夫

(1) 受講対象

商学概論Aは平成5年度入学生の第1クラスから第6クラスまで、平成4年度以前入学生は学生番号**001から**300までの学生を対象とする。

(2) 成績評価

成績評価は3部門の成績の平均によって行う。

(3) 講義内容

商学科は大別して、商学・経営学・会計学の3部門より成り立っている。この3部門は歴史的・理論的に互いに、どのような関連性を有しているのだろうか。商学概論なる授業科目は、商学科で準備されている3部門のうち、いずれを選んで主要研究対象にするかを決定する際の予備知識を与える任務をも背負っている。商学概論の役割はそれだけではない。現代資本主義の生成・発展の過程で、商学、経営学および会計学の各部門の学問体系がどのような必然性をもって生まれてきたり、発展せしめられて今日の姿なり体系を為すようになったかを解明するのが、むしろ本来の役割であろう。

時代の要請に応じて各部門はそれぞれが主となり従となって、お互いに影響しあいながら

発展してきた事実を念頭におきながら部門別に以下の内容をもって概論を行うことにする。

I 商学部門（4月～6月下旬） 担当 片桐 誠士

自然発生的な分業を基礎とする社会では、経済発展にともない生産と消費の懸隔はますます拡大する。商業は、ともかく生産と消費の懸隔をうめ、需給調整機能を果たしてきたのである。資本制経済のもとでは、こうした流通機能を遂行するいくつかの流通活動が、それを専門的に遂行する専門業者として自立化する。すなわち、運送、保管、包装、保険、広告等々が、商業の分化として専門化し独自の部門を形成する。広義の商業の分化と純化が進展する。ひいては資本制経済の生成発展の過程で、広義の商学各部門の学問体系がいかなる必然性をもって生れてきたり、発展せしめられて今日の体系をなすようになったのかを明らかにする。

講義内容は、ほぼ次のようになるであろう。

1. 経済生活と商業 —交換ないし商品の流通の展開—
2. 商業学説
3. 資本制経済と商業
4. 商業の分化と純化

（参考文献は随時指示するが、講義はプリントを配布し、それにそって行なう）

II 経営学部門（6月下旬～11月中旬） 担当 篠崎 恒夫

広い商業流通の中で種々の形で貨幣経済の営みが高まると、そこにはカネの働きとヒトの働きとが絡み合い、カネは企業という単位を形成し、ヒトは経営管理の職能構造を形成する。それらは全体として企業経営という運動体として捉られるが、そこにはいかなる運動の論理が見いだされるのかを明らかにするのが経営学の課題である。

商学概論で論ずべき経営学の重点項目は、以下のように考える。

- 1 企業経営の成立
商と資本運動
管理と組織
- 2 経営の構造
資本構造
職能構造
組織構造
- 3 企業形態の展開
今日の企業形態
株式会社
- 4 経営者行動
経営の指導原理と経営理念
資本所有と経営の分離
- 5 経営管理の体系化
科学的管理
フォード経営

ただし、学生の理解のために、テキストを使用し、その中から適宜章を選ぶことにする。

テキスト：橋・大橋編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房、1991年、2,200円

参考書：中村・高柳編著『経営学（第3版）』有斐閣

馬場克三著『経営経済学』税務経理協会

III 会計学部門（11月中旬～2月末） 担当 渡辺 和夫

会計学というのは主として企業の経営状況を計数的に把握することと関わっている。計数的に把握するといっても、すべてが会計の対象となるのではなく、通常、それらは複式簿記の原理にのっとっている必要がある。会計学は複式簿記という特殊な技術を基礎に成立しているのである。したがって、会計学の学習に複式簿記の原理は欠かすことができない。しかし、ここでは会計学の概要を知ってもらうことが目的であるから、複式簿記の技術的な側面はできるだけ避けたいと考えている。それよりもむしろ、会計の社会的な役割をしっかりと理解することが大切である。われわれの身近には会計情報が多く存在している。そうした会計情報がなぜ必要なのか、それらの限界はどこにあるのか、それらを活用するにはどうしたらよいか、といったことを的確に理解することが重要である。

なお、本年度はとくに「企業会計原則」に焦点を合わせた講義を予定している。

商学概論 B

（前期）教授 山本 真樹夫

（中期）教授 片桐 誠士

（後期）助教授 鶴野 好文

(1) 受講資格

商学概論Bは平成5年度入学生の第7クラスから第12クラスまで、平成4年度以前入学生は学生番号**301から最終番までの学生を対象とする。

(2) 講義内容

商学科は商学講座、経営学講座および会計学講座の3つの部門から成り立っている。これらの部門に共通する研究対象はなにかと言えば、それは生産・流通の主たる担い手としての企業である。企業は、経済活動の主要な主体として、社会に財やサービスを提供し、かつ国民経済と家計を支え、そして、今日では世界的な広がりの中で活動している。

われわれの現実の生活においても、多くの人々は、また、おそらく諸君の大部分も大学卒業後は、企業とのかかわりのなかでその人生の大部分の時間を費やすであろう。それは、われわれの経済社会生活の中心に位置し、それゆえにまた科学的探求の対象として核心的な地位を占めている。

諸君が実際に企業を訪れ、そしてそこでみられる人々の行動を観察するとき、最初に持つ知覚はその多様性であろう。そこでは多くの人々が外見的には多岐に渡る、相互に関連性を持つとは思われないようなさまざまな行動をとっている。しかしながら、一見して無秩序に見えるそのような多様な行動は、組織における成員の行動の表面的な姿にすぎないのであって、根底においては、多くは一貫したなんらかの意図の下に組織目標の達成に結びつけられてなされているのである。

こうした企業の活動を総合的、科学的に理解するのに必要な基礎知識を教授することがこの講義の目的である。今年度は、下記の順序にしたがって、会計学部門ならびに経営学部門において現代企業の活動を現実的、具体的に理解した後、商学部門において商学の基礎概念とその具体的・歴史的展開、現代的意味を検討する。

なお、成績評価は3部門の成績の平均値によって行う。

I 会計学部門（4月～6月下旬） 担当 山本真樹夫

会計とは企業活動を金額的に計量化し、企業内外のさまざまな利害関係者の意思決定に役立つ情報を生産することに関わる活動である。会計を理解するためには、少なくとも以下の2つの側面を考える必要がある。1つは、会計情報はどのように役だっているのか、あるいは役立つべきなのかを考えることであり、もう1つは、会計情報はどのように生産され、あるいは生産されるべきなのかを考えることである。講義ではテキストを参考にしながら、以下の順序で会計について考えていきたい。

1. 企業会計とは
2. 財務諸表の内容
3. 簡単な財務諸表分析
4. 複式簿記の仕組み
5. 帳簿と企業組織
6. 社会制度としての企業会計

テキスト：久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）

II 商学部門（6月下旬～11月上旬） 担当 片桐 誠士

自然発生的な分業を基礎とする社会では、経済発展にともない生産と消費の懸隔はますます拡大する。商業は、ともかく生産と消費の懸隔をうめ、需給調整機能を果たしてきたのである。資本制経済のもとでは、こうした流通機能を遂行するいくつかの流通活動が、それを専門的に遂行する専門業者として自立化する。すなわち、運送、保管、包装、保険、広告等々が、商業の分化として専門化し独自の部門を形成する。広義の商業の分化と純化が進展する。ひいては資本制経済の生成発展の過程で、広義の商学各部門の学問体系がいかなる必然性をもって生れてきたり、発展せしめられて今日の体系をなすようになったのかを明らかにする。

講義内容は、ほぼ次のようになるであろう。

1. 経済生活と商業 —交換ないし商品の流通の展開—
2. 商業学説
3. 資本制経済と商業
4. 商業の分化と純化

（参考文献は随時指示するが、講義はプリントを配布し、それにそって行なう）

III 経営学部門（11月中旬～2月末） 担当 鶴野 好文

経営学部門では、2年次の経営管理論、経営学原理の準備を与えることを目的とし、初級レベルの組織行動論（organizational behavior）を解説します。

組織行動は、組織を構成する行動の基本単位により、個人、小集団レベルのマイクロ組織行

動と全体組織レベルの組織行動とに分類できます。

本コースでは、多くの応用例をとおして、これらのマイクロ、マクロの組織行動の基礎的概念および基礎的理論を学ぶこととなります。

講義内容および参考書は次のとおりです。

- park 1 introduction
- park 2 managing individuals in organization
- park 3 managing groups in organizations
- park 4 managing organizations

John R. Shermerhorn Jr., James G. Hunt, and Richard N. Osborn, *Managing Organizational behavior*, 4th, edition., New York : John Wiley & Sons, Inc., 1991.

法 学 概 論

（前期）助教授 町 村 泰 貴

（前期の講義内容）

1. 講義の対象と目的

「法」という言葉から連想されるものとしては、警察や裁判所、あるいは国会など国の機関、憲法や刑法など、新聞やテレビでよく取り上げられる法律などが一般的である。こうしたイメージは「法」の一つの側面をとらえており、そのような現象も法学と呼ばれる学問分野の対象となる。しかしこのようなイメージとは裏腹に、私達のごく身近な日常生活も絶えず「法」とのかかわりを持って動いている。例えばアパートや下宿への入居、お店から何か物を買う場合、車を運転する場合は免許の取得から運転中のルールまで、常に、その背後に「法」が存在する。そのような日常的な「法」とのかかわりは、うまくいっているときは意識しなくても過ぎていくが、何かトラブルが生じたとき、例えば大家さんが明け渡しを求めてきた場合、あるいは交通事故に巻き込まれた場合には、背後に隠れていた「法」が表に出てくる。

前期の法学概論は、日常的な「法」を対象として、その基礎知識を身につけることも目的の一つであるが、これとともに法的な物の見方・考え方を習得することを目的とする。

具体的な対象分野は、法律や判例の意義などの基礎と、民事法分野（民法、商法、民事訴訟法など）および刑事法を取り扱う予定である。

2. 使用する文献

まず「六法」の呼ばれる法令集が必携である。この六法は出版社やサイズが様々だが、どの種類のもので良い。判例付き六法は学習に便利であるが、原則として試験に持ち込めないで、試験持ち込み用には別の六法を入手する必要がある。でこよう。

参考書は講義中に随時指示するが、差し当たり前期では、五十嵐清『私法入門』（有斐閣・1380円）を基本テキストとして使用する。

法学概論

(後期) 教授 清水章雄

「ニュルンベルグ裁判」及び「東京裁判」を主な題材として、法とは何かについて検討します。なお、講義には条約集（有斐閣の「国際条約集1993年版」又は三省堂の「解説条約集第4版」など）を持ってきて下さい。

夏休みなどを利用し、細谷千博・安藤仁介・大沼保昭編「国際シンポジウム 東京裁判を問う」（講談社学術文庫）を読んでおいて下さい。この本の内容について10月中旬に試験を行う予定です。

社会情報概論

(前期) 教授 杉本英二
(前期) 助教授 中村隆志
(後期) 教授 沼田久

社会情報学科の英語名は、Department of Management and Information Scienceです。つまりこの学科の2本柱は、マネジメント・サイエンス（経営科学）とインフォメーション・サイエンス（情報科学）です。この2つの学問分野は密接な関係があります。

この授業の前期では、主として情報関係の話が中心になりますが、この教授要目の文章表現から受ける印象よりも、もっともっとソフトな内容になる予定です。ワープロの講習もやる予定です。後期はマネジメント・サイエンス関係に重点を置いた講義になります。

(前期) 教授 杉本英二

〔前期の講義の進め方について〕

前期の講義は、主に情報科学の分野について、杉本と中村の2人の教官で担当します。2つのクラス（A、B）の授業内容が同じになるように半分ずつ交代で講義します。従って、この教授要目では2つのクラスとも杉本、中村の講義があります。

社会情報概論A履修者対象者：平成5年入学生 第1クラスから第6クラスまで
平成4年以前入学生 学生番号**001から**300まで

社会情報概論B履修者対象者：平成5年入学生 第7クラスから第12クラスまで
平成4年以前入学生 学生番号**301から最終番号まで

杉本の担当分野は、情報科学の基礎理論です。基礎理論と言うと一般には数学的で難しいのですが、その初歩を単純明快に講義します。テキストはありません。

- ・情報量（確率とエントロピー）
- ・情報通信と暗号
- ・記憶を持たない機械（記号論理学と回路設計）
- ・記憶を持つ機械（オートマトンと認識）
- ・言語学とコンピュータ

どうしてこのような純理論的内容を講義するのかという理由を説明しましょう。まず大学では理論に導かれて学問するのだということを、大学1年生になったら理解してもらいたいこと。次に、コンピュータ科学は、キーボードを叩いていけばすむようなアホな学問だとい

う一部の考えが誤解であることを理解してもらいたいということです。

それはともかく、どの項目も情報科学では最低限知ってもらいたい基礎的な概念です。これが分ればコンピュータの未来が分るようになるのかもね。

参考書：磯道義典ほか「情報学概論」共立出版、¥2400.

(前期) 助教授 中村隆志

情報処理はコンピュータの出現以前から行われていたが、現在では、コンピュータ抜きで情報処理を考えることはできない。

本講義では、情報処理を行う機械であるコンピュータの仕組みや、その環境について講義する。

〔主な講義予定〕

- ・情報処理とコンピュータ
- ・ハードウェア
- ・ソフトウェア
- ・データ通信システム

〔テキスト〕未定

(後期) 教授 沼田久

社会情報学科で考えるマネジメント（経営）は、単に会社の経営のことだけではなく、人間の作るあらゆる組織、人間のあらゆる活動を対象とします。

現代社会は、複雑にからみ合い、相互に影響を及ぼし合う、様々な下部システムから成る大きなシステムです。企業、政府、地方自治体、都市、農村、学校、病院、鉄道、道路網、電話網、スポーツチーム、金融制度、法律体系、教育制度、著作権制度……等々は、すべて現代社会を構成する下部システムであると同時に、それら自体がまた多くの下部システムから構成される上位システムと考えられます。

このようなシステムがシステムとしての整合性を保持するためには、情報の獲得・伝達・蓄積や処理や活用が円滑になされなければなりません。そこにシステムのマネジメントが、情報科学と密接に関連する理由があります。

システムが存立するためには、そのperformanceの効率が良くなければなりません。そうでないと「努力」に比して「得るもの」が少なくなり、資源の無駄を生じ、「採算」が合わず、崩壊（倒産）してしまいます。

後期では、システムのperformanceを高めるための考え方や、いくつかの手法を取り上げます。経営科学の中核をなす「オペレーションズ・リサーチ」の入門的な話です。

学生さんの一部には、社会情報学科はコンピュータばかりガチャガチャいじっている学科だとか、数学ばかりやっている学科だとかいう、誤った先入観を持っている人もいますが、そのような偏見・先入観は、自分自身の勉学・進路選択に誤りをもたらすだけです。この講義は諸君にとって、新たな視野と、世の中の役に立つ学問とはこういうものなのか、という新鮮な驚きとを与えてくれるものになるはずです。

教科書：沼田久『増訂 マネジメント・サイエンス』（富士書院、1991）

数 学

教授 兼 岩 龍 二
 助教授 池 田 薫

数学の授業は下記のクラス編成により行われる。1年生のクラス所属は備考欄を見ること。
 2年生以上のクラス所属は自由である。

	クラス	前 期	後 期	コース	備 考
3 講 目	S 1	兼 岩	池 田	微 積 コ ー ス	学生番号93001~93250で3講目受講を希望するもの。
	S 2	池 田	兼 岩		学生番号93251~935**で3講目受講を希望するもの。
4 講 目	S 3	兼 岩	池 田		4講目受講を希望するもの。
	S R	池 田	兼 岩	微積・論理コース	微積・論理コースの受講を希望するもの。

I. コース

(1) 微積コース (S1, S2, S3)

一変数及び多変数の微分積分を行う。

テキスト:「現代解析の基礎」(II. テキスト紹介の項参照)

(2) 微積・論理コース (SR)

前期は微積コースと同様の内容を演習中心に行い、後期は記号論理(形式論理)をあつかう。一般科学の方法ということになれば、勿論この方法一形式論理だけが方法という訳にはいかないが、この考え方は基本的であり、現代数学を支配していると言っても過言ではない。また近年、電算機の普及とともに多くの人口が否応無しにこの考え方に馴れざるを得なくなっている。そこで未来をになう学生諸君の多く来らんことを期待する。後期は定期試験はせず、簡単なレポートのみとする。

テキスト:前期は「現代解析の基礎」(II. テキスト紹介の項参照)、後期はプリントを配布する。

II. テキストの紹介

現代解析の基礎 荷見守助・堀内利郎共著 内田老鶴圃

目次: 1. 集合 2. 実数 3. 関数 4. 微分 5. 積分
 6. 級数 7. 2変数関数の微分と積分

5 専門教育科目

マクロ経済学(前期)

(前半) 助教授 加 藤 睦 洋
 (後半) 助教授 山 本 賢 司

中級マクロ経済学を平易に議義していく。具体的な内容は以下のとおりである。

1. マクロ経済学とは何か
2. 国民所得の決定メカニズム
3. 労働市場と完全雇用
4. 不完全雇用経済と有効需要原理
5. 家計の消費・貯蓄行動
6. 企業の投資行動
7. 貨幣需要
8. 貨幣供給
9. マクロ経済の一般均衡
10. 古典派経済学の体系
11. ケインズ経済学の体系
12. マクロ・モデルの比較
13. インフレーション
14. 景気循環
15. 政府の経済活動
16. マクロ安定化政策
17. 資本蓄積と経済成長

教科書: 浅子・加納・倉沢『マクロ経済学』(新世社:1993)

成績評価:各教官がそれぞれ試験を行い、結果を合計する。

ミクロ経済学(後期)

助教授 山 本 賢 司

この科目では、市場機構による資源配分を分析するミクロ(マイクロ)経済学(micro-economics)について、以下に示した主要な内容を中級レベルで解説します。

1. 単純な部分均衡分析と比較静学
2. 消費者行動の理論
3. 企業行動の理論
4. 生産物市場における価格の決定
5. 生産要素市場における価格の決定
6. 不確実性のもとでの経済行動
7. 資産価格の決定

8. 一般均衡分析とその応用
9. 市場均衡と経済的厚生
10. 市場の失敗
11. 競争的均衡分析の限界…不完全競争の理論
12. 情報の経済分析…Moral Hazard, Market Signaling など

なお、講義内容と文献に関するより詳しい紹介を、開講時に配布する予定です。

教科書：西村和雄『ミクロ経済学入門』（岩波書店，1986年）

成績評価：2回の試験と約6回のクイズの合計点によって、成績評価を行います。

注意：経済学の基礎的な理解を前提として、講義を進めます。たとえば今・鶴沢・山本『基本現代経済学』（中央経済社，1992年）で扱われている内容（第1-7章）については、理解していること。

統計学

助教授 西山 茂

統計的なものの見方から出発して、大量のデータの意味する内容を要約して伝えることを目的とする記述統計学、さらにデータを母集団から抽出した標本とみなして推定・検定といった様々の技法を駆使することにより普遍的な統計的法則を求める推測統計学の主要部分までを講義する。講義範囲は経済データの分析に深い関連のある分野に重点を置く。

講義内容：統計集団と統計指標—度数分布，平均値と分散，集団の比較
 相関・回帰分析—2変数データの要約，単回帰分析，重回帰分析
 時系列分析—基本的統計指標，トレンドの分析，自己相関係数
 確率と統計—順列と組み合わせ，確率分布と誤差
 推定・検定の理論—母数の推定，統計的仮説，仮説検定とその解釈

教科書：(1) 森田優三「新統計概論」日本評論社
 (2) 森田優三・久次智雄「演習統計概論」日本評論社

上記の(1)は講義中に使用するので持参のこと。

数理統計学

助教授 西山 茂

2年次で扱った各種の統計的手法の基礎となる数理をより詳細に明かにし、統計的推測の考え方、理論的骨格を講義する。必要な数学的知識はその都度講義の一環として補講する。

講義内容：母集団と標本の関係，確率変数と確率分布，標本特性量と大数の法則，母数推定の基準と様々な推定量について，線形モデル，仮説検定論，ノンパラメトリック統計学への導入

参考書：岩田暁一「経済分析のための統計的方法」東洋経済新報社
 竹内 啓「数理統計学」東洋経済新報社

その他：

- (1) 講義は配布プリントを中心に事例研究風に進めるが，上記参考書を併読すると一層確実な理解が得られるので強く推薦しておく。

(2) 2年次で学習した記述統計学が頭に入っている人達にとって、推測理論は基本的に考え方が違うので、最初はとまどうかもしれない。しかし、実際のデータを事例とした練習問題に回答することを通じて、現代の統計学がいかに威力のあるものかが次第に飲み込めてくるものと思う。

(3) 評価は前後期定期試験のほか、何回かの小テスト（30分程度のクイズのようなもの）及び配付プリントに挙げられている練習問題への提出回数などに基づいて行なう。

経済統計学（後期）

教授 本間 正義

経済統計学の目的は統計データと統計的手法を用いて現実の経済現象を分析することであるが、経済理論との整合性および経済理論へのフィードバックを重要視する。経済現象をマクロ的、ミクロ的にとらえようとする場合、どのようなデータが存在し、どのように用いるのか、またどのような注意が必要か、といった統計的説明から出発し、経済学の理論がどのように実証され、また現実と合わない理論が統計分析を通じどのように修正されていったか、などについて講義する。

講義内容：

- (1) 経済変数と統計データ（統計の種類，統計の作成手順，統計の分類方法）
- (2) 標本調査（標本理論，標本調査の実際，標本調査の誤差）
- (3) 指数と統計（価格指数，数量指数，指数の経済理論，指数の実際）
- (4) 日本経済の統計的把握（国民経済計算，産業連関分析，賃金と労働市場，景気変動，金融と国際収支，マクロ計量経済モデル）
- (5) 家計の分析（家計費調査，家計の消費構造，所得と資産の分析）
- (6) 経済理論と統計分析（消費関数，生産関数，技術進歩）
- (7) その他（地域分析，経済データの国際比較など）

教科書：中村・新家・美添・豊田『経済統計入門（第2版）』東大出版会。

参考書：津村・淵脇・築林『社会統計入門（第2版）』東大出版会。

計量経済学

教授 遠藤 薫

計量経済モデルのパラメタの推定と検定について理解することを目的とします。

情報処理センター実習室でSAS (Statistical Analysis System) を利用して計算することを5回ほど行います。利用申請書をセンター受付に出して、汎用機 (M-760/6) の利用者識別名を受取ってください。

講義内容（カッコ内はSASのプロシージャ名）

1. 回帰モデル (REG, GPLOT)
2. 攪乱項の系列相関 (AUTOREG)
3. 攪乱項の分散不均一
4. 連立方程式モデル (SYSLIN, SIMLIN)

テキスト

伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣, 1988 (1,545円)

参考書

佐和隆光『増補数量経済分析の基礎』筑摩書房, 1979 (3,090円)

市川伸一・大橋靖雄『SASによるデータ解析入門』東京大学出版会, 1987 (3,000円)

経済学史(後期)

教授 栗田啓子

今年度は、現代経済学を「解剖」して、下にあげたようないくつかの基礎的な概念を取りだしたうえで、それらの概念がどのように生まれ、どのように変遷してきたのか、を講義する。その第一の目的は、現代理論の基本的な考え方を歴史の連続性のなかで捉えなおしてみることによって、経済学の発展過程を理解することにある。第二の目的は、同じ概念がそれぞれの時代によって異なった使われ方をしていたという事実、すなわち、経済学の多様性を理解し、現代理論を相対化することである。

下に列挙した文献を参考にしながら、配布プリントを中心に講義を行う。2回の試験とともに、授業での質疑に対する応答も、成績評価の対象とする。

講義内容

- 1 経済学の目的と方法
- 2 市場・合理性・均衡
- 3 政府の役割
- 4 富と経済成長
- 5 労働・生産・組織
- 6 消費と社会

参考文献

猪木武徳『経済思想』(モダン・エコノミックス24) 岩波書店, 1987年

竹内靖雄『市場の経済思想』創文社, 1991年

栗田啓子『エンジニア・エコノミスト—フランス公共経済学の成立—』東京大学出版会, 1992年

なお、経済学の歴史を時間の流れにそって理解するのに、つぎの文献が有益である。

マルク・ブローグ『新版 経済理論の歴史 I—IV』(真実・久保・宮崎・杉原・浅野・関訳) 東洋経済新報社, 1982—86年

大森郁夫編『市場と貨幣の経済思想』昭和堂, 1989年

橋本昭一編『近代経済学の形成と展開』昭和堂, 1989年

経済史

教授 井上 巽

これまでの経済史概論の科目名が経済史に名称変更されました。本年度の経済史の講義はイギリス資本主義発達史をテーマとします。このなかで、適宜、フランス・ドイツ・アメリカなどの史実にも関説しながら、西洋経済史の基礎理論を論述する予定です。講義の章別編成は以下のような予定です。若干の変更があります。

I. 序論—現代イギリスの社会と経済

II. イギリス資本主義成立史論

III. イギリス市民革命論

IV. イギリス重商主義論

V. イギリス産業革命論

テキストは使用せず、講義ノートを中心に論述します。したがって、講義に出席することが何よりも肝要です。参考文献は必要に応じてそのつど指示しますが、さしあたって、松田智雄編『西洋経済史』(青林書院新社) および大塚久雄編著『西洋経済史』(筑摩書房)をあげておきます。

日本経済史(前期)

助教授 今西 一

戦後日本の経済史は、マルクス主義の絶大な影響力の下に存在してきた。しかし、1980年代後半から起ってきたソ連・東欧社会主義の崩壊、中国の開発独裁国家への移行など現象は、マルクス主義の基本概念と日本近代史のパラダイムに転換を迫るものである。

従来のマルクス主義史学でとられてきた、発展段階説、「二つの道」理論、帝国主義、国家独占資本主義などの概念にも再検討が必要になっている。本年は、経済史の基礎理論に再検討を加えつつ、日本経済史の具体的な問題を考えてゆきたい。

授業内容

1. 経済史の基礎概念
2. アジア的社会の2類型—インドと中国
3. 日本前近代の共同体
4. 明治維新と日本の近代化
5. 日本の産業革命
6. 日清・日露戦争
7. 大正デモクラシー
8. 昭和恐慌と金融寡頭制

テキスト 今西 一『近代日本の差別と村落』(雄山閣出版)

参考文献 今西 一『近代日本成立期の民衆運動』(柏書房)

中村 哲『近代世界史像の再構成』(青木書店)

安丸良夫『近代天皇像の形成』(岩波書店)

平子友長『社会主義と現代世界』(青木書店)

西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』(研文出版)

経済政策(前期)

助教授 板谷 淳 一

今日、市場経済は地球的規模でその普遍性を獲得してきているが、他方、環境問題や所得分配の不平等といったいわゆる『市場の失敗』がしばしば起きている。また、多くの先進資本主義国では公的部門の比重が高まっている。本講義ではこのような市場の失敗の原因とそ

の処方箋及び公的部門の規制のあり方について解説する。厚生経済学、公共経済学、産業組織論の一部をカバーする予定。具体的には次のような内容になる。

- (1) 競争均衡とパレート最適
- (2) 厚生経済学の基本定理
- (3) 社会的厚生関数と所得分配
- (4) 外部性と市場の失敗
- (5) コースの定理
- (6) 公共財の配分メカニズム
- (7) フリー・ライターの問題
- (8) 独占企業と市場の失敗
- (9) 公益事業の料金規制
- (10) 民営化の経済分析

(テキスト及び参考書)

常木淳『公共経済学』新世社, 1990

柴田弘文, 柴田愛子『公共経済学』東洋経済新報社, 1988

植草 益『公的規制の経済学』筑摩書房, 1991

J. E. ステイグリッツ著/藪下史郎訳『公共経済学(上, 下)』, マグロウヒル社, 1989

R. H. , コース著/宮沢健一他訳『企業, 市場, 法』東洋経済新報社, 1992

社会政策

助教授 中村 健一

ミクロ経済学の復習を行いつつ、応用ミクロ経済学としての労働経済学の講義を行う。労働経済学のおもしろさは、歴史的・文化的な現象としての色合いを濃く持つ労働市場に関する諸現象を、最適化と均衡から説明しようとするところにある。このような方法はしばしば「経済学帝国主義」と呼ばれる。しかし、この講義の意図するところは、歴史や文化を社会科学の認識から抹消することではなく、歴史的・文化的現象を演繹的方法によって再構成出来ないかを考えるところにある。自分の思考に試行錯誤を与える機会として捉えていただければ幸いである。

教科書：ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勁草書房

大橋・他 「労働経済学」有斐閣Sシリーズ

農業経済学

非常勤講師 長南 史男
(北海道大学助教授)

農業は食糧を生産するのみならず、歴史的には、一国の文化や社会経済構造と深く関わりをもち、発展してきた。そして、ミクロ経済学理論の発展と実証的分析に、豊かな研究の素材を提供し続けてきた分野でもある。現在、日本農業は国際的な農産物自由貿易化の大きな流れの中にあって、激しく揺れ動いている。GATTのウルグアイランドにおける「コメ」は、その一例である。また、環境保全と農業の関係も大きな問題となってきた。

講義前半では先進諸国がなぜ手厚い農業保護政策を維持するのか、農産物貿易の自由化は可能なのか、その際、どのような農業生産構造の変化、政策手段が必要とされるのかを、主として日本農業を素材として明らかにしたい。後半では、農業発展における市場の役割とその限界を中心に講義する予定である。

講義には主として下記テキストを用い、その他の農業経済学の文献、参考資料によって適宜補足する。

テキスト：速水佑次郎『農業経済論』, 岩波書店, モダンエコノミックスシリーズ17, 1986

農業を知る：農林水産省経済局国際企画監修『世界の食糧・農業政策』, 地球社, 1989

ための D. Gale Johnson, World Agriculture in Disarray, Macmillan, 1991

参考書 藤谷築次・荏開津典生『概説 現代の日本農業』, 家の光協会, 1991

持田恵三『日本のコメ』, ちくまライブラリー45, 筑摩書房, 1990

久宗高監修『環境保全型農業の展望』, 農山漁村文化協会, 1989

財政学(後期)

講師 角野 浩

財政学は、政府の経済活動に焦点を当てて、政府の機能および役割について考える分野である。近年わが国経済は、多くの財政的問題を抱えている。21世紀に向けて急速に進展する高齢化社会は、租税、社会保障、医療及び教育等のさまざまな問題を引き起こしている。そこで、財政学で取り扱うテーマも伝統的な制度的な側面だけでなく、理論的な側面も考慮する必要がある。本年度は以下の講義項目を予定している。

1. 財政学とは何か—総論—
2. 予算制度
3. 政府の役割
4. 租税原則と構造
5. 所得税の理論
6. 企業課税の理論
7. 赤字財政と公債政策
8. 財政政策の理論
9. 高齢化社会と社会保障

テキストおよび参考文献

牛嶋 正『財政』(第2版) 東洋経済新報社, 1990。

山田・中井・岩根・林『財政学』有斐閣, 1992。

金融経済論(前期)

講師 和田 良介

この科目では主として次のような内容を取扱います。①日本の金融制度、②貨幣の需要と供給、③金融政策の手段と効果、④金融資産価格の決定。②から④までの項目では、ミクロやマクロ経済学の理論が、金融の分野の諸問題を吟味検討するためにどのように応用されているかを考えます。使用する教科書には様々な経済モデルが次々と現われて、経済理論の名

所めぐりの観があります。これらのモデルは、初め立ちふさがり絶壁のように見えても、原論やそして時には統計学で学んでいる知識を確認しながら考えてゆけば、理解できる水準のものであります。

リーディング・リストを1回目の授業で配布します。試験は4回行ない、内容は計算問題が40%、グラフを用いるものも含めて記述式が60%の予定です。宿題は7回程度。4、5人でグループを作りいっしょに宿題に取り組む、一つの答案を提出します。

教科書：堀内昭義『金融論』東京大学出版会、1990

国際経済論

教授 佐竹正夫

国際経済論は、国際間の経済取引から生じる問題を対象とする。財やサービスの貿易、海外投資や労働者の移動が、国際間の取引であり、そこから様々な経済問題が生じている。日米間の貿易摩擦や外国人労働者の問題、あるいはECのような経済統合や途上国の貿易政策などは、国際経済論のトピックである。講義では、一般的な理論とこれらの現実問題とを、適度に混ぜながら、経済学あるいは国際経済学の考え方が、伝えられればと思う。大体の内容は、次の通りである。

1. 国際貿易

- (1) 世界貿易と日本貿易
- (2) 比較生産費の理論
- (3) ヘクシャー・オリーン理論
- (4) 不完全競争と産業内貿易

2. 貿易政策

- (1) 貿易利益
- (2) 関税や輸入割当の効果
- (3) 先進国と途上国の貿易政策
- (4) 日本の貿易政策

3. 生産要素の国際移動

- (1) 直接投資と多国籍企業
- (2) 労働の国際移動

4. 国際マクロ経済学

- (1) 国際収支表
- (2) 開放マクロ経済モデル
- (3) 為替レートの決定

5. 世界貿易体制と貿易摩擦

- (1) 関税と貿易に関する一般協定
- (2) 新保護貿易主義

以上のように、本年度は個々の内容を詳しく掘り下げて説明するよりも、できるだけ多くの問題を取り上げることに力点を置いている。もっと詳しい説明は、国際経済政策や国際金

融論で与えられるので、この講義に興味を抱いたら3年生になったら履修することを薦める。教科書は、所他著『国際経済入門』中央経済社。

国際金融論

助教授 渋谷 浩

今日の国際経済情勢を正しく理解するために必要な国際金融論（国際マクロ経済学）の基礎知識修得を目的とする。講義では、日米貿易摩擦、G7による国際政策協調、EC経済通貨同盟への動きなど、現実の国際経済問題を念頭に理論を展開・応用していく。

講義内容

I. 開放経済と国際収支

- (1) 国際収支表（貿易収支、経常収支、資本収支、基礎収支、総合収支）
- (2) 開放経済における主要マクロ経済変数間の基本的関係
- (3) 経常収支 = 民間純貯蓄 + 政府財政黒字 = 国民所得 - 国内支出

II. 貿易収支（経常収支）決定理論

- (1) 貿易収支調整へのアブソープション・アプローチ
- (2) 貿易収支調整への弾力性アプローチ（Jカーブ効果、パススルー、履歴効果）
- (3) 国際貿易と資本移動の経済学的意味（異時的アプローチ）
- (4) 日米貿易不均衡問題（財政赤字、プラザ合意、前川リポート、バブル経済）

III. 資本収支と為替レート決定理論

- (1) 国際資金経済と外国為替市場（直物、先渡、先物・オプション）
- (2) 直先為替レートと金利裁定メカニズム（カバー付きの金利平価、スワップ）
- (3) 為替レートの短期的変動（アンカバーの金利平価、通貨・為替市場の均衡）
- (4) 為替レートの長期的変動（購買力平価、マネタリ・アプローチ）
- (5) 貿易財・非貿易財相対価格と実質為替レート（バラサ・サムエルソン効果）
- (6) 為替レートの中期的変動（オーバーシュート・モデル）

IV. 開放経済における金融政策と財政政策

- (1) 為替レートと所得の同時決定モデル（財市場・通貨市場・為替市場の均衡）
- (2) 変動相場制下と固定相場制下の金融政策と財政政策の効果
- (3) 対外均衡と国内均衡へ向けての金融・財政政策（ポリシー・ミックス）
- (4) 貿易不均衡をめぐる政策論争（「ドル安推進派」対「財政調整派」）

V. 国際通貨制度と国際政策協調

- (1) ブレトン・ウッズ体制（戦後の米ドルを基軸とした固定相場制）
- (2) 管理フロート制（ブレトン・ウッズ体制崩壊後の変動相場制）
- (3) 欧州通貨制度（EMS）とEC通貨統合の展望（ECU, ERM, ECB）
- (4) 国際政策協調と国際機関の役割（G7, OECD, IMF）

テキスト：高木信二『入門国際金融』、日本評論社、1992。

参考文献：深尾光洋『実践ゼミナール・国際金融』、東洋経済、1990。

W. J. イーシア『現代国際経済学』、多賀出版、1992。

植田和男『国際収支不均衡下の金融政策』, 東洋経済, 1992。
大野健一『国際通貨体制と経済安定』, 東洋経済, 1991。
渋谷 浩「EC通貨統合の経済的利益とコスト」,
『経済セミナー』, 1993年2月。

経済学特別講義 1 (前期)

教授 Kurt K. Klein

ECONOMICS SPECIAL TOPICS: 1

This is a course in the theory of Agricultural Development.
Material in this course extends the topics covered in Special Topics 3.
In this course, the major models of Agricultural Development will be discussed.
These include:

- 1) Conservation Model
- 2) Urban-Industrial Impact Model
- 3) Diffusion Model
- 4) High pay-off Input Model
- 5) Induced Development Model

In the discussion of these models, special attention will be given to Japanese experiences in Agricultural Development.

The first month of lectures will be devoted to review of economic concepts as well as Economic Development theories studied in Special Topics 3.

経済原論 III

助教授 花田 功 一

資本主義の三つの段階である自由競争段階, 独占資本主義段階, 国家独占資本主義段階のそれぞれについてマルクス経済学の基本的な考え方を説明します。

講義内容は以下の通りです (但し, 若干の変更はあります)。

第1部 序論

第2部 自由競争段階の資本主義 (資本主義一般) の経済学

第1章 商品の価値

第2章 剰余価値

第3章 資本の蓄積

第4章 社会的総資本の再生産と流通

第3部 独占資本主義の経済学

第1章 生産の集積と独占体

第2章 銀行の新しい役割と金融資本, 金融寡頭制

第3章 資本の輸出と資本家団体のあいだでの世界の分割

第4章 列強のあいだでの世界の分割

第4部 国家独占資本主義の経済学

- 第1章 国家独占資本主義の成立とその政策体系
- 第2章 IMF体制の成立とその崩壊
- 第3章 スタグフレーションの発生と高度成長の終焉
- 第4章 スタグフレーションからの脱出過程と国独資の危機の深まり
- 第5章 80年代アメリカ経済とブラック・マンデー
- 第6章 「平成景気」の展開とその終焉
- 第7章 最近のアメリカ経済について
- 終章 今後の見通しについて

講義は私のノートに従って行いますが, さしあたり, 参考文献として以下のものを掲げておきます。それ以外は講義で指示します。

横山正彦・金子ハルオ編『マルクス経済学を学ぶ』有斐閣選書

貿易政策 (後期)

助教授 船津 秀 樹

通商問題の本質を理解するために, 近代経済学の基礎概念に基づいて, 貿易政策の経済厚生に与える影響について講義します。

1. 独占企業と重商主義
2. アダム・スミスの自由貿易論
3. 絶対優位とリカードの比較生産費の原理
4. 誰のための自由貿易論か?
5. 消費者主権と消費者余剰
6. 関税の部分均衡分析 I (完全競争企業)
7. 関税の部分均衡分析 II (独占企業)
8. 国際貿易の二部門分析
9. 関税の一般均衡分析
10. 輸入割当制と輸出自主規制
11. 雇用問題と保護貿易主義
12. ガットによる自由貿易体制と経済統合
13. 南北問題と貿易政策
14. 21世紀の世界経済と貿易政策

テキスト: 所・林原・佐竹・船津著『国際経済学入門』中央経済社, 1991年

参考書: 福島隆司『漸進的政策勧告の経済学』創文社, 1993年

ケイプス・ジェーンズ『国際経済学入門』国際貿易編, 多賀出版, 1987年

流通組織論

(前期) 教授 片桐 誠 士

(後期) 助教授 伊藤 一

この講義では, 流通と商業にかかわる基礎的な理論をできるだけわかりやすく解説するとともに, 歴史の大きな流れを把握することに主眼を置く。すなわち, 前半では流通ないし商

業を見る視角と理論フレームを学び、後半では流通ないし商業を、歴史的展開の上に位置づけて理解するとともに、その展開過程のなかから流通ないし商業の形態を具体的に規定する要因を見いだすように心がける。

主要な講義項目として以下のことを予定している。

序. 現代経済と流通

1. 商業の機能と構造
2. マーケティングと商業
3. 小売業態の展開と小売構造
4. 消費者行動と小売競争
5. 卸売商業の機能と構造
6. 商業政策の構造

テキスト：石原武政・池尾恭一・佐藤善信著「商業学」(有斐閣Sシリーズ)

なお、参考文献は追って適宜指示する。

マーケティング (前期)

助教授 高宮城 朝 則

本講は市場環境に適応し、競争優位性を創出し維持する企業の活動であるマーケティングについて、マネジメントの視点から講義する。

講義項目は以下のものを予定している。①マーケティングの基礎概念と枠組、②マーケティング戦略と計画、③消費者行動とマーケティング・リサーチ、④マーケティング・ミックス戦略、⑤日本企業のマーケティング行動とグローバル・マーケティング。

各項目の説明は理論と事例の両方を折りまぜて行う。また出席者に事例分析を行わせることも予定している。

テキスト：嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」(有斐閣Sシリーズ)

流通政策 (後期)

助教授 伊 藤 一
助教授 黄 隣

(1) 授業内容

本講義では企業の環境条件である法的規制に対する流通企業経営上の対応を中心として授業を進める。まずマクロマーケティング論の視点から、流通産業全体への法的規制の概要・歴史的成立過程・今日的課題等に関して解説する。さらにマイクロマーケティング論の視点から、当該法規制への個別流通企業の対応現状に関し法的マーケティング論に基づいて解説する。

(2) 授業形式

授業形式は法規制問題に関する基礎的知識の習得を目的とした講義(担当：伊藤)と流通政策論に関する事例を中心とした外国語文献の輪読(担当：黄)の二元的授業を交互に平行して進める予定である。

履修者は前期開講の「マーケティング」を履修済みであることが望ましい。

(3) テキストおよび参考書、その他

伊藤担当部分：久保村隆祐・田島義博・森宏『流通政策』中央経済社 他適時指示。

黄 担当部分：外国語文献は適時指示する。授業の進め方は開講初日に説明。

国際マーケティング

非常勤講師 李 性 熙
(北海道大学助手)

マーケティングのコンセプトを理解することで基礎を作り、異国間で行われる国際マーケティング戦略を様々な角度から考察する。

1. マーケティング概観 (Concept, 環境と戦略)
2. 国際マーケティング概観 (Concept)
3. 国際マーケティングの構造 (4 P, 6 O)
4. 国際マーケティング・ミックス (製品戦略, 価額戦略, 販売戦略, プロモーション戦略, 成長と競争戦略, ロジスティックス戦略)
5. 国際流通戦略

参考文献

- ・Subhash C. Jain 「International Marketing Management」
PWS-Kent Publishing Company 1990
- ・Warren J. Keegan 「Global Marketing Management」 Prentice-Hall 1989
- ・Philip R. Cateora 「International Marketing」 Irwin Toppan 1983
- ・Philip Kotler 「Marketing Management」 Prentice-Hall 1991

保 險 論 (前期)

助教授 中 浜 隆

保険は、損害保険である海上保険として生成し、その後火災保険、新種保険と展開します。他方、生命保険は海上保険から分岐・生成し、発展していきます。

こうした私的保険は、保険者としての保険企業によって担われています。保険企業が遂行する諸業務は、保険引受業務と資産運用業務に大別することができます。現代では、本来的な保険引受業務だけでなく、資産運用業務においても、とりわけ生命保険業は機関投資家・金融機関として社会的に大きな役割を果たしています。

そしてわが国では、平成4年6月に行われた保険審議会答申において、今後の保険事業の方向性として、保険事業の役割や保険会社の業務範囲の在り方、保険経理の見直し等、6つの点が示されています。こうした点の多くは、とりわけ生命保険業についてはアメリカですでに検討され、実施されているものです。したがって今後のわが国の生命保険事業の展開を展望する場合、アメリカの状況を検討することがきわめて有効となっています。

そこで本講義では、アメリカの生命保険事業をおもに取り上げます。そこでは、保険業の歴史的な展開をふまえながら、現代生命保険業の理論的・実証的分析を行う、つまり歴史的にみて現代生命保険業の状況を保険理論からどのようにとらえたらよいかを検討する予定です。なお、講義は以下のテキストに基づいて行い、また試験にはテキスト持ち込み可とす

る予定ですので、本講義の受講を希望する人はテキストを購入しておいて下さい。

テキスト：中浜 隆『アメリカの生命保険業』同文館，平成5年

交通論（後期）

非常勤講師 山本 純
（札幌学院大学助教授）

交通とは物理的には人、財、情報の移動であるが、交通論ではそれらの社会現象としての移動行為を対象とする。

現代資本主義社会における交通は、主に商品として交通用役を生産し販売する交通業（common carrier）によって行なわれているが、一方では大企業による「物流管理」の高度化による交通用役の自己生産（industrial carrier）や自動車交通の発達による私的交通（private transport）、衰退する公共交通（public transport）の領域もあり、そのため複雑な交通問題が生じている。

講義の前半では、交通の全般的な基礎について学ぶことを主眼とし、交通の基礎理論、交通産業、交通政策、公共交通と私的交通の問題などを講義する。後半では、特に商学における交通論として、近年重視されるようになった「物流論」について講義する。

テキスト：最近の入門的なテキストとして以下を掲げる。

柴田悦子，土居靖範『交通論を学ぶ』法律文化社，1991年。

なお、参考文献は必要に応じ講義の中で紹介する。

証券市場論（前期）

助教授 井村 進 哉

商学講座における証券市場論は、交通・保険業、金融業などとならぶ広義の商取引部門を取り扱う研究領域として出発した。すなわち伝統的には、先物取引を含む商品・有価証券の取引所を対象として、主として証券市場の技術的・制度的側面を論ずる実学としての研究がなされてきた。これが金融論・信用論、企業財務論などの視角を導入しながら証券経済論、証券経営論として独自の発展を見るのは戦後、それも1960年代以降のことである。

本講義担当者もまた、こうした証券市場論の発展に即して証券市場の経済的機能や経営問題の体系的理解につとめる一人であるが、当面の重点は証券経済論にある。

今日の不況は、1990年来の株価低迷、不動産貸付の焦げ付きなどを引き金にして景気後退が生じているという意味で、「バブル不況」とも「複合不況」とも呼ばれている。中でも証券市場は、1980年代後半のバブルの形成過程において、その本来の役割、すなわち社会に存在する資金を直接的に動員、集中し、これを巨額で長期で固定的な投資に転換するという役割から逸脱して著しく投機化し、企業の過剰投資の引き金となった。そして証券市場の崩壊は、単に証券会社や金融機関の経営不振のみならず、それと複雑に絡み合いながら経済実体にマイナスの影響を及ぼしているのである。

その意味では、証券市場の投機化がなぜ進展したのか、またそれがどのようにして進展したのか、さらには証券市場の本来の役割とは何か、今日ほど鋭く問われている時期はないように思われる。

本講義では、こうした証券市場の経済的機能についての基礎的なフレームワークを解説するとともに、現代の金融市場の変貌とそこにおける証券市場の役割、地位の変化について解説する。また金融市場および証券市場にかかわる危機管理政策について検討する。

講義の順序を示せば以下の通りである。

- I. 金融仲介システムと証券市場
- II. 証券市場の歴史的発展と金融の証券化
- III. 金融・証券市場における危機管理政策

なお本講義では、適宜配布する講義プリントを使いながら進めることになるが、参考書として中村孝俊編『証券市場読本（第8版）』（東洋経済新報社，定価1,650円）を推薦する。

経営学原理

教授 篠崎 恒 夫

I 講義内容

経営学は、企業経営を研究対象とする学問である。企業経営は、資本と労働の動きを軸とした運動であるが、現実には様々な利害関係の動きが蓄積されて今日の企業経営の姿を形成している。講義では、企業経営の歴史的蓄積がどのような法則性の下に進められ、現実にはどのような利害対立をはらんでいるかを明らかにする。

1. 経営学の認識課題
2. 経営学の基礎概念
3. 企業形態の展開
4. 経営管理論の形成
5. ドイツ経営学の生成
6. 近代管理論の展開
7. 人間関係論
8. 経営者行動と経営戦略
9. 経営組織論

II 関連科目

以下の諸科目をすでに履修しているか、または、同時履修することが望ましい。

心理学，哲学，歴史学，社会学，社会思想史，商学概論，経済原論Ⅲ，経済史概論，経営管理論，流通組織論

III 参考書

今年度も学生の便宜を図ってノートプリント『講義要録』を用いるが、以下に主たる参考書を掲げておく。

稲葉襄『企業経営学要論』中央経済社

橋・大橋編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房

馬場克三『経営経済学』改訂増補版，税務経理協会

中村常次郎・高柳暁編『経営学』第3版，有斐閣

宮川宗弘『経営管理基礎論』日本評論社

IV その他

今年度も3年次再履修者にはテーマに沿ったレポート提出を、卒業年次生には教室でのレポート報告を要求する。詳細は年度当初に掲示する。

経営学説史

非常勤講師 大月博司
(北海学園大学教授)

今日の経営学研究に多大の影響を与えているのが先人たちの経営理論(学説)である。例えば、科学的管理法、人間関係論、管理過程論、バーナード組織論、リーダーシップ論、モチベーション論、コンティンジェンシー理論などである。この講義では、かかる経営理論(学説)について、その登場の歴史的・社会的背景、内容、意義などを明らかにするとともに、現代的視点による批判的検討を通じて、それぞれの理論的限界や課題を考案することを目的としている。その際、方法論の違い(切口の違い)によって、なぜ各理論の評価が異なるかについても例示していくつもりである。

テキスト：土屋守章・二村敏子編『現代経営学説の系譜』有斐閣 1989年
参考文献：車戸 實編『新版 経営管理の思想家たち』早稲田大学出版部 1987年
矢島基臣編『現代の経営思想』春秋社 1987年
J. チャイルド『経営管理思想』岡田和秀他訳 文眞堂 1982年
D. A. レン『現代経営管理思想』車戸 實監訳 マグロウヒル 1982年
その他随時紹介

企業形態論

教授 小田福男

現代企業の「所有一支配一経営」の構造を解明する。

講義内容

1. 基礎的考察
2. 企業の重層的構造
3. 株式会社
4. 現代企業の所有・支配構造の特徴
5. ロシアの企業形態

テキスト：片岡信之『現代企業の所有と支配』(白桃書房, 1992年)

参考文献：講義の中で紹介する

経営管理論(後期)

助教授 鶴野好文

本コースでは、3年次以降の経営諸科学への理論的準備を与えることを目的として、中級レベルの経営管理の基礎を解説します。したがって、planning(経営戦略)、organizing(経営組織)、leading(リーダーシップ、動機付け)、controllingの管理過程全般が論じられます。また、トピックスとして、organizational planning, strategic planning, organizational design, organization-environment interface, leadership, group

dynamicsがとりあげられます。

テキスト：John R. Shermerhorn, Jr., *Management for Productivity* (Third edition), John Wiley & Sons Inc. : New York, 1989.

労務管理論

非常勤講師 高木清
(札幌学院大学教授)

講義内容 労務管理の生成とその展開について理解してゆきたい。その際、労務管理という管理には、どのような管理制度・管理技法があり、それらがどのような機能を果たしているのか、さらにそれらがいかなる概念的枠組によって展開されてきているのか、といった諸点について明らかにしてゆきたい。

大略、次のような要領で講義をすすめたい。

- 1 労務管理の意義
- 2 人事管理方策
- 3 企業内労使関係管理方策
- 4 組織行動管理方策

テキスト：使用しない

参考書：講義の中で必要に応じて紹介する。

財務管理論(前期)

講師 中村竜哉

企業を、資金のフローとストックとから成るシステム(財務システム)としてとらえ、この財務システムの側面から企業経営の構造を明らかにすることが、企業財務の研究である。当講義は、財務担当者の立場からの企業財務への接近を主題とする。講義項目は以下の通りである。

1. 企業財務の基本知識
2. 企業財務への接近方法
3. 資金調達手段と最近の動向
4. 資金運用手段と最近の動向
5. 資本コストとCAPM
6. 設備投資決定
7. 最適資本構成
8. 配当政策
9. 運転資本管理

教科書、参考書は第1講において紹介する。定期試験は学期末の1回行い、出席点を加えて成績を決定する。

経営史(前期)

非常勤講師 市原 博
(北海学園大学助教授)

日本の経済発展の主体となってきた日本企業の経営システムの形成過程とその特質、及びその間に顕著な業績をあげた企業者の経営活動を歴史的視点から検討する。江戸時代の商家の経営から昭和初期の「日本的経営」の原型の形成まで講義する予定である。

講義は、時代を追いながら、江戸時代の商家の経営形態、株式会社制度の受容、トップマネジメントの変遷、労務管理の形成と発展、財閥の特質等、テーマごとに行う。
テキスト：J・ヒルシュマイヤー、由井常彦『日本の経営発展』(東洋経済)

比較経営学(夏季集中)

非常勤講師 榊原 清則
(ロンドンビジネススクール)

- (1) いわゆる「日本的経営」について
— 終身雇用、年功制、企業別組合
— 「日本的経営」の意義と限界
- (2) 企業経営の国際化
— 国際化の諸段階
— 日本企業の国際化の現状と課題
- (3) 日米欧の企業経営比較：一般論
— 戦略および組織にみる違い
— それぞれの強みと弱みの分析
- (4) 新製品開発の国際比較
— 日米欧企業における新製品開発の進め方
— それぞれの強みと弱みの分析

国際企業論

非常勤講師 牛丸 元
(北海学園大学助教授)

○範囲・内容

現在、企業を取り巻く環境は激変している。1985年以降の大幅な為替調整、先進国間あるいは先進国と発展途上国間の貿易摩擦の激化、米ソの冷戦終結、EC統合など、どれひとつをとって見ても企業経営に大きなインパクトを与えるものばかりである。こうした激変する国際環境のなかで、企業の経営国際化も以前にも増して活発に展開されるようになってきている。とりわけ、日本企業の国際化は目覚ましいものがある。

本講では、日本企業の国際化やグローバル化という現象を念頭におきつつ、国際経営にかかわる諸理論や諸問題を検討していく。

○テキスト

C・A・パートレット&S・ゴシャル・吉原英樹監訳『地球市場時代の企業戦略』

日本経済新聞社、1990年。

○参考書

適時紹介。

○その他

成績評価は試験によって行う。出席はとらない。

簿記論 A(前期)

助教授 松本 康一郎

[テーマ]

複式簿記の基本原則(必ずしも入門的内容にとどまらない)を理解し、会計関係諸科目の基礎を得ることを目的として進めます。

[範囲・内容]

1. 複式簿記の基本的メカニズム(とくに、単式簿記との比較において)
2. 企業複式簿記の基本的記帳手続(個人企業を対象とし、重要な基本的取引をめぐって)
3. 帳簿組織の基本類型

[テキスト]

久野光朗編著『簿記論講義』同文館

久野光朗編著『簿記論演習』同文館

[参考書]

安平昭二『簿記の理論と実際』東京経済情報出版

安平昭二『簿記要論』同文館

[その他]

1. 本講義は、各学年とも学生番号200までの2年次生以上を対象とする。
2. 本講義の履修上の注意については、4月最初の授業で詳しく述べますので、必ず出席すること。

簿記論 B(前期)

教授 山本 真樹夫

(1) クラス編成

各学年とも学生番号201以降の者は簿記論Bに属する。

(2) 講義内容

諸君は「簿記」という用語からどのようなイメージを抱くであろうか。帳簿と算盤とペンとインクを使う地味で根気のいる仕事であるとか、コンピュータによって無用になりつつある、といったイメージを抱いているかもしれない。

しかし、簿記は現代の企業のきわめて複雑な営業活動、投資活動そして財務活動に関する情報を適切に組織化し、経営管理に役立ち、企業内外のさまざまな利害関係者の意思決定に有用な情報を作成するもっとも重要な企業情報システムである。企業および社会の経済活動が複雑化するにつれ、簿記の重要性はますます高まっている。

こうした簿記を学ぶためには、当然、その基本原理を理解しなければならないが、同時に

基本原理に従った技術の修得も必要である。そのためには、講義を聞き、教科書を読むばかりでなく、自ら帳簿に向かい、電卓を打ち、ペンを走らせるという地道な努力も必要である。

また、簿記が経済社会の動きとダイナミックに連動していることを意識し、簿記が個人にとって、企業にとって、そして社会にとっていかなる役割をはたしているのかを常に考えて欲しい。

(3) 評価

定期試験のほか、講義中に随時クイズを行い、それらを総合して評価する。

(4) テキスト

久野光朗編著『簿記論講義』(同文館)。左記テキストに準拠した演習書、久野光朗編著『簿記論演習』(同文館)も用意すること。

(5) その他

テキストおよびノート以外に、電卓ないし算盤、長めの定規および赤のボールペンを用意すること。

監査論(夏季集中)

非常勤講師 津田 秀雄
(和歌山大学教授)

企業の利害関係者(特に投資家)が経済的意思決定を行うために、企業の状況に関して企業が公表する会計情報が不可欠である。しかし、この会計情報の送り手である企業と受け手である利害関係者の間には、利害対立関係があるために、公表される会計情報について第三者による独立的検証が行われ、信頼性の程度が評定される必要がある。このために、わが国では、証券取引法と商法に基く会計士監査が制度化されている。商法ではさらに取締役に対する業務監査を行う監査役監査が存し、また、取締役自身が自らの経営責任をよりよく果たすための内部監査を制度化している。監査役監査と内部監査が十分に機能することが、会計士監査の前提であるので、これらについても内部統制の観点から論及する。

講義は、監査基準・準則の規定とその理論的背景を中心に解説し、上記の諸監査制度のあり方に及びたい。

テキスト：高田正淳編著「会計監査の基礎知識」中央経済社

参考文献：鳥羽至英著「監査基準の基礎」白桃書房

森 実著「リスク指向監査論」税務経理協会

日本監査研究学会編「新監査基準・準則」第一法規

津田秀雄著「ドイツ内部監査論」千倉書房

津田秀雄他著「経営業務監査」同文館

なお、監査基準・準則は1991年に改訂されているので、参考文献の選定に当たって留意すること。

国際会計論(後期)

助教授 松本 康一郎

企業活動の国際化・多国籍化が今日進展するなかで、財務会計および管理会計においても、

国際的な視野の下での展開が求められている。このことは日本の会計制度とも無縁ではもはやありえず、積極的な対応が求められ、新聞のトップ記事を飾るほどである(『会計基準、欧米型に』、日本経済新聞、1993年1月3日)。こうした会計領域が国際会計と呼ばれる。したがって、国際会計論の対象は多国籍企業のための会計と行うことができる。このため、その具体的・個別的課題は極めて広範に及ぶこととなり、本講義においてそれら各課題をすべて論じることは不可能である。

それゆえ、本講義では、多国籍企業のための会計にとって財務会計上とくに重要かつ基本的と考えられる、以下の総合的課題および個別的課題に限定して、授業を進めることとする。

総合的課題：主要各国(米国、英国、独、日本)会計制度の特徴と相違点

会計基準の国際的調和化の試み

個別的課題：国際連結決算(連結財務諸表、外貨換算会計)

なお、本講義は、原則として松本のフリー・ノートに従って授業を進めることにするが、一応下記の文献をテキストとして使用する。

使用テキスト：野村健太郎・平松一夫監訳『国際会計入門』中央経済社

また、本講義のより詳しいガイダンスを10月最初の授業で行うので、履修希望者は、必ず出席すること。

原価計算論(後期)

助教授 福島 吉春

1. 講義内容

原価計算は19世紀末のイギリスで、製造業における製品製造原価を計算する方法として成立したが、現在ではそれにとどまらず、財務諸表の作成や原価管理、さらには意思決定代替案評価のための財務データを提供する情報システムになっている。

授業ではその内容を以下の順序で解説する。

- (1)基礎概念、(2)原価計算と工業簿記、(3)原価の費目別計算、(4)原価の部門別計算、(5)原価の製品別計算—個別原価計算と総合原価計算—、(6)販売費と一般管理費、(7)標準原価計算、(8)CVP分析、(9)直接原価計算、(10)代替案の評価と差額利益計算—設備投資の経済性計算と個別業務計画—

なお簿記の知識があるものとして講義するので、簿記学を履修済みであることが望ましい。また今年度はできるだけ頻りに計算問題を解いてもらう。その提出があまりにも少ない者は受験資格を失なうので注意されたい。

2. テキスト

小林健吾『原価計算総論(増補改訂版)』(創成社、1992)

3. 参考文献

岡本 清『原価計算(四訂版)』(国元書房)、小林健吾『最新原価計算論』(中央経済社)、原価研究会編『原価計算テキスト』『ステップ式・原価計算演習』(以上、同文館)、その他各種簿記検定のための参考書・問題集(工業簿記・原価計算)が参考になる。

なお、最初の授業でテキスト、参考文献の解説や講義内容など、簡単なガイダンスを行

なう。『講義要目』を持参されたい。

商業英語

非常勤講師 相川謙二郎
(小樽女子短期大学教授)

The Japanese Industries have been able to survive during the period of highly appreciated Japanese Yen taken place after the plaza Agreement of 1985. In that respect some of them have positively been stepping up transfers of production to overseas basis to cope with the situation as the experience of the past few years has underlined "the more production has been available, the more complementary commitments have been needed mutually."

In this sense, today, in the business world cross-fertilization of ideas is badly needed and so it necessarily requires a lot of business practice and expertise. As John Stuart Mill said in his Book "In every department of human affairs, Practice long precedes Science"

Business English is really a demanding subject where you are required to study about the following contents;

- 1) Seeking overseas connections ... Market Survey and Credit Inquiry.
- 2) Proposing Business ... Offers, Sales promotion and Approving Credit
- 3) Conclusion of Business ... Purchase Order and Contract
- 4) Execution of Contract ... Making Shipment (Arrangement for Carrier, Insurance and Customs Clearance) and preparing Shipping Documents
- 5) Payment ... with or without Letter of Credit, Bill of Exchange and Negotiating with Bank
- 6) Claims and Due Adjustment
- 7) Telecommunication in International Market
- 8) Various Ads. forms and Market Reports

Text Book needed: "English for International Business Communication" by Yoichi Usui, Asao Ohtsuka & Yasushi Fukuda issued at SEIBIDO.

会计学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行い、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収益, 費用, 資産, 負債, 資本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト: 太田・飯野, 『会计学』(千倉書房, 1983)

参考書—現在入手可能な標準的参考書:

黒沢 清『近代会计学』(春秋社)

山下 勝治『会计学一般理論』(千倉書房)

飯野 利夫『財務会計論』(同文館)

武田 隆二『会计学一般教程』(中央経済社)

青柳 文司『会计学の原理』(中央経済社)

黒沢 清(主編)『体系近代会计学』(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編『第4版会计学辞典』(同文館)

森田・宮本編著『会计学辞典』(中央経済社)

憲法総論

教授 結城洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I 総論

(1) 憲法とは何か

(2) 自然権思想と国民主権原理

II 日本国憲法

(1) 基本的人権の保障

(2) 平和主義

テキスト: 野中俊彦他『憲法I』有斐閣

参考書: 総論については、杉原泰雄編『憲法学の基礎概念I』, 同『憲法思想』(講座・憲法学の基礎1, 4) 勁草書房

基本的人権については、小林孝輔編『新版判例教室 憲法』法学書院

統治機構論

助教授 猪股弘貴

憲法は人権と統治機構(三権分立)とからなるが、ここでは後者について講義する。主なテーマは、国民主権と天皇制、選挙権と選挙制度、国会、内閣、裁判所と憲法訴訟、地方自治、財政、国法の諸形式と体系である。テキストとしては、野中俊彦 他『憲法II』(有斐閣)を使用する。

民法総論(前期)

助教授 渡辺達徳

民法とは、家庭生活を営み、財産を所有し、取引を行うといった市民の日常生活を規律する私法の原則法・一般法です。本学では、民法を学ぶために、「民法総論」「契約法」及び「担保法」という講義科目が用意されています。そのうち「民法総論」では、民法全般の通

則である民法典の「総則」編をはじめ、物権変動、不法行為、相続法の基礎など、権利変動の基本的なしくみが考察の対象とされます。したがって、ここで扱われる諸制度・概念は、他の民法科目を学ぶ前提となるほか、民法以外の法律科目を勉強するためにも重要であることが理解されるでしょう。また、民法を修得するためには、「民法総論」と後期開講の「契約法」とを共に履修することが強く望まれます。

なお、講義では特定のテキストに沿って解説するかたちは採りませんが、開講時に参考図書を紹介を行うとともに、具体的な講義スケジュールを配布します。

契 約 法 (後期)

助教授 藤 原 正 則

従来のカリキュラムでは、財産法Ⅱにあたる部分を取扱う。但し、多数当事者間の債権関係(保障債務、連帯債務等)及び債権担保、信用供与機能を果している契約類型(ソース契約等)については簡単にふれることとする(「担保法」の講義に出席されたし)。

だから主なるテーマは、契約上の請求のあり方、各種の契約についてである。

テキスト：参考書等は未定。開講前に指示する。

刑 法

助教授 白 木 豊

刑法とは犯罪と刑罰に関する法で、いわゆる刑法典だけではなく数多くの特別刑法も含まれます。その刑法を扱う学問である刑法学は、大別して、全犯罪に共通する一般的成立要件を考察する刑法総論と、個々の犯罪の成立要件をそれぞれ考察する刑法各論とがあります。

この講義は、主に刑法総論を扱い、およそ犯罪はいつ成立し処罰はいつ許されるかという基本的視点を養うことを目的とします。刑法各論は必要に応じて触れる予定です。

教科書：大越義久『刑法総論』(有斐閣)

教 材：平野龍一他編『刑法判例百選Ⅰ総論(第三版)』(有斐閣)

参考書：中山研一『概説刑法Ⅰ』(成文堂)

大谷 實『刑法講義総論(第三版)』(成文堂)

曾根威彦『刑法総論』(弘文堂)

前田雅英『刑法総論講義』(東京大学出版会) 等

※上記の教科書・教材は暫定的なもので、変更もありえます。詳しくは初回の講義の際に指示します。

国 際 法

助教授 中 村 恵

1. 講義内容

国際社会における法秩序全般について、以下の順序で検討します。

- (1) 国際社会と法
- (2) 国際法の源泉
- (3) 国際法の主体
- (4) 国際法と個人
- (5) 条約法
- (6) 外交関係法
- (7) 領域法
- (8) 国際責任

(9) 国際紛争の解決 (10) 国際社会における平和維持

2. テキストおよび参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献については、その都度指示します。なお、講義中多数の条約を参照しますので、条約集を必ず持参して下さい。小田・石本編、『解説条約集』(三省堂)を、推薦しておきます。

3. その他

配当年次が3年次配当に変更されましたので、注意して下さい。

比 較 法 (前期)

非常勤講師 伊 藤 知 義
(札幌学院大学助教授)

欧米諸国の法律事情がどうなっているのか、つれづれなるままに話をしていきたい。現代日本法は欧米の法律をモデルにつくられたものであるが、同じような法律問題に対して日本と欧米の間で、また欧米諸国の中でも解決法が違っていることは珍しくない。そういった、日本との比較で皆さんの興味を惹きそうな話題を選んで講義したいと考えている。英米、ドイツ、フランスの民事法を中心として話をする予定である。ここ数年、社会主義から資本主義への移行が急速に進んでいるロシアおよび東欧の現状についても、触れてみたい。

出席はとらないが、復習を兼ねて日本法についてごく簡単な質問をし、それに対する発言を評価に加えるので、単位を取得したい者は講義に出席して発言することが必要である(質問内容は本当に簡単なものなので、発言点をとるのは容易である)。但し、私語をするなど受講態度が不良と判断した学生には以後の受講は認めないので、注意されたい。

テキストは使わない。

会 社 法 (前期)

教 授 青 竹 正 一

会社法は、共同企業の典型的形態である会社の組織成立から消滅に至るまでの利害関係者(会社・出資者・会社債権者)の利益調整を行うことを主たる目的としている、企業に関する重要な法律です。講義は、このような会社法のうち最も重要な株式会社法を中心に、会社法が現実の企業活動においてどのような役割を果たしているかを知ってもらうため、判例、書式・公告などの具体的素材を示しながら進めることにします。会社法は、講義に出席しなければ理解しにくいように思います。

テキスト：上柳克郎ほか編『会社法Ⅰ,Ⅱ(第3版)・商法講義(2),(3)』(有斐閣)

別冊ジュリスト『会社判例百選(第5版)』(有斐閣)

河本一郎編『株式会社法教材(増補版)』(商事法務研究会)

商 取 引 法

(前期) 講 師 田 邊 宏 康
(後期) 教 授 青 竹 正 一

商法典は、①総則、②会社、③商行為、④海商の4編に分かれています。前期は、商業登記、商号、商業使用人などについて規定している商法第1編 総則を中心に、後期は、商

行為に関する通則，商事売買，仲立・問屋営業，運送・倉庫営業などについて規定している
同第3編 商行為を中心に講義します。

教科書：上柳克郎ほか編『商法総則・商行為法 商法講義(1)』(有斐閣)

参考書：別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選(第2版)』(有斐閣)

有価証券法(後期)

講師 田邊宏康

有価証券と呼ばれる証券には，手形・小切手・株券・社債券・貨物引換券・倉庫証券・船荷証券など様々なものがありますが，その中で独立に法典化され，理論的な研究がもっともすすんでいる手形・小切手について，法的な知識と考え方を養うことを目的に講義します。

教科書：上柳克郎ほか編『手形法・小切手法 商法講義(4)』(有斐閣)

参考書：別冊ジュリスト『手形小切手判例百選(第4版)』(有斐閣)

経済法(後期)

教授 和田健夫

現代資本主義社会における企業の経済活動と法の関係を講義する。内容は以下のとおり。

第1章 競争の概念と競争政策の目的

第2章 独占禁止法の目的と手法

第3章 独占禁止法の運用体制

第4章 独占の規制

第5章 カルテルの規制

第6章 取引の公正の確保

第7章 国際取引と独占禁止法

第8章 独占禁止法の適用除外

第9章 競争政策の実効性

第10章 経済規制法

第11章 技術保護法

テキスト

①和田健夫・1993年度経済法講義(unpublished. 講義の時間に配布する)

②実方・厚谷・向田・和田・稗貫編・教材独占禁止法(第四版)青林書院

参考書

①実方謙二・独占禁止法(新版)有斐閣

②今村成和・独占禁止法入門 有斐閣

③正田 彬・全訂独占禁止法I, II 日本評論社

労働法

助教授 島田陽一

「労働時間の短縮」，「過労死対策」，「外国人労働問題」，「育児休業法」等，労働法をめぐる諸問題は，日常生活のなかに多様な形態で存在しているといえよう。この講義では，このような状況をふまえて，労働法をできる限り，事例に即して紹介するつもりである。

現在のところ，特定の教科書を使用するつもりはないので，以下を参考文献として掲げておく。

参考書：菅野和夫『労働法第二版補正版』(弘文堂)

外尾健一『労働法入門第三版』(有斐閣)

別冊ジュリスト 労働判例百選第五版(有斐閣)

社会保障法(夏季集中)

非常勤講師 江口隆裕

社会保障法は，我々の生活に密着した新しい学問領域である。本講義では，医療保障，年金，社会福祉を中心とした社会保障法について，その沿革を踏まえながら，その基本的原理，仕組みを説明するとともに，高齢社会が到来する中で，介護問題を始めとした新しい課題にどう対応すべきか，今後の方向性も含めて講義したい。

なお，履修者は，講義の際，六法全書を持参すること。

(教材)

講義の都度，資料を配布する予定。

(参考書)

荒木誠之「社会保障法読本」(改訂版)有斐閣

「社会保障判例百選」(第二版)有斐閣

環境法

(前期)非常勤講師 畠山武道

(北海道大学教授)

全国各地のさまざまな環境問題を取りあげながら，関連する環境法の仕組み，問題点などを説明する。しかし環境保護の重要さは，自分の心で感じとるもので，人から言われて身につけるものではないはず。そのために，随時，スライドを使うことを考えている。

講義の順序は以下のとおり。それぞれに地名を当てはめ，講義内容を予想されたい(正解は最初の時間に発表)。

①プロローグ・原点，②希望と挫折，③一攫千金の夢，④バブル，⑤灰色の空，⑥海はどこにあるの，⑦サンゴ，⑧ザルと利権，⑨役人の面子，⑩ナショナル・パーク，⑪森の生活，⑫矢魚とフクロウ，⑬まちかど，⑭アセスメントの裏側，⑮一教師が守った森，エピローグ

「地名」石垣，沖縄本島，屋久島，志布志，水俣，荅北，羊角湾，大分，風成，和白，津和野，中海，穴道湖，水島，高砂，織田が浜，天神崎，深泥池，四日市，東京，足尾，白神，むつ小川原，苫東，キコロ，小樽，トマム，サホロ，知床

山村恒年『自然保護の法と戦略』(有斐閣)，日弁連『森林の明日を考える』(有斐閣)が，参考書として推薦できる。

環境法

(後期)教授 神田孝夫

後期の講義では，環境法の私法的な側面を対象とする。環境法という法分野は新しいもので，その概念は今日必ずしも明確ではないが，私法上の視点からこれを取り上げようとする

とき、生活環境の悪化によって個人の種々の利益が害された場合の事後処理の問題が中心となる。従来の学説が公害の私法上の問題として議論してきた問題が、ほぼこれに照応する。公害という語の意義じたいひとつの問題だが、本講義が生活環境を問題とする以上、近隣者間でしばしば争いとなる局地的な住環境の悪化の問題をも含めて検討する必要のあることは疑いない。とまれ、これらの問題を理解するには不法行為法の理論を踏まえることが不可欠となる。講義内容の大略を示せば、以下のとおり。できるだけ実際に問題となった裁判例を素材としつつ具体的に話をすすめたい、と考えている。

* 不法行為法の一般理論

- ①要件論—違法性、故意・過失、因果関係の問題など
- ②責任主体をめぐる問題—法人の責任、使用者責任、注文者責任、工作物責任
共同不法行為、「企業の不法行為」構成その他
- ③効果論—損害賠償、差し止めの問題など
- ④紛争処理の手續上の問題—和解、調停、訴訟手續の問題など

* 各論—

- ①環境の広域破壊の場合をめぐる—大気汚染、水汚染、騒音、臭気など
- ②局地的な住環境の悪化をめぐる（主として近隣者間に生じる紛争）問題
日照障害、地盤沈下、振動、眺望障害。公法上の建築規制との関係など

教科書：目下検討中（近く公示し、後期の授業開始前には入手できるよう手配する）

参考書：森島昭夫 不法行為法講義（有斐閣）、公害判例百選（ジュリスト別冊）

国際経済法

教授 清水章雄

国際法のなかで国際経済関係の調整を目的とする部分及びそれと関連する国内法について、おおむね次の範囲で講義を行います。

- 1 国際経済法総論
- 2 国際通商法
- 3 国際投資法
- 4 国際通貨法
- 5 開発の国際法
- 6 国際租税法

テキストとして、ロング著『ガットと経済摩擦』（敬文堂）を使います。参考書としては、松下満雄著『国際経済法』（有斐閣）及び丹宗昭信・山手治之・小原喜雄編『国際経済法』（青林書院）が役に立ちます。

国際取引法

助教授 桑原康行

1 講義内容

国際的売買取引およびそれに付随して行われる国際的支払取引、運送取引、保険取引に関する法的諸問題を中心として講義する。

講義の順序は以下の通り。

1. 国際私法
2. 国際的法統一
3. 国際的売買
4. 国際的支払
5. 国際的運送
6. 国際的保険
7. 紛争処理

2 テキスト

山田鎌一・佐野寛『国際的取引法』（有斐閣）

3 参考書：

最初の講義のさいに指示する。

行政法 I

教授 秋山義昭

具体的な事例を素材にしながら、行政法の全体を体系的に講義する。行政法は、憲法・民法等の知識を不可欠とするので、受講者はこれらの科目についてすでに相当の成績で履修済みのこと。

テキスト：遠藤・熊本・秋山・畠山『教材行政法判例』（北大図書刊行会）

参考書：今村成和『行政法入門（第5版）』（有斐閣）

田中二郎『新版行政法上（全訂第二版）』（弘文堂）

室井ほか『行政法を学ぶ1・2』（有斐閣）

原田尚彦『行政法要論（全訂第二版）』（学陽書房）

秋山義昭『国家補償法』（ぎょうせい）

行政法 II

（前期）非常勤講師 畠山武道

（北海道大学教授）

租税法の総則部分、所得税、法人税、（時間があれば消費税）の一部をとりあげ、租税法全体の構成とその特色、租税法の基本概念、初歩的な実定法上の知識などを、説明する。租税法の分野は、最近、専門（店）化がすすみ、扱う対象も広がっているため、全体を2単位で講義するのは、いかにも困難である。そこで、講義の力点は、主として租税法の基本的な構造や基本的な概念を正確に理解してもらうことにおかれる。内容は、以下のとおり。

①租税の意義、租税の法源、②租税法律主義の役割、③租税要件、④税負担軽減行為とその規制、⑤所得税入門・所得の意義、⑥所得の分類、⑦給与所得税課税、⑧課税単位、共働きと税、⑨事業所得、⑩収益の計上、⑪必要経費、⑫親族間の取引、⑬法人税入門、⑭役員報酬・交際費、⑮消費税

参考書

金子 宏『租税法 第4版』（弘文堂）

北野弘久『現代税法講義 改訂版』(法律文化社)

清永敬次『新版税法 全訂』(ミネルヴァ書房)

畠山武道『租税法 改訂版』(青林書院)

2単位の授業に適した教科書はないので、一応、上記のものを参考書として掲げておく。いずれも本格的で高価な体系書であり、授業で説明することは、すべて記載されている。ふとこころに余裕のある諸君や、ノートをとるのが苦手な諸君は、いずれかを購入するとよいだろう。そのうち、清永・畠山のものが、初心者むき。畠山のものは、法令・判例などが、やや古くなったので、改版を考慮中である(来年予定)。

行政法 II

(後期) 助教授 猪股弘貴

後期は、地方自治法を中心に、行政組織法一般論、国家行政組織をも合わせ講義する。法令集は必ず持参してくるようにしてほしい。テキストとしては、以下のものを使用する。

南 博方他編『新編 行政法(3)』有斐閣

民事訴訟法(前期)

助教授 町村泰貴

1. 講義の対象と目的

民事訴訟法と呼ばれる法分野は、権利義務の確定を目的とする判決手続、確定された権利義務の強制的実現を目的とする執行手続、権利義務の保全を目的とする保全手続、そして経済的破綻に対する清算または再建を目的とする倒産処理手続の四つに分けられる。このうち今年度の講義は、判決手続を対象とする。講義の目的は手続の実務的な知識を習得することより、揉め事の解決という局面で公正とはどういうことかを考えることにある。そこで講義でも、民事裁判の中で生じてくる様々な問題について、判例や設例を題材にして考えていく。手続きの題材は私法であるため、民法および商法に関する講義を履修済みまたは履修中であることが望ましい。

2. 使用する文献

・「六法」必携である。授業でも常に六法で条文を確認しながら進んでいくので、毎回必ず持って来ること。できれば小六法クラスの中型が望ましい。

・教科書

上原敏夫=池田辰夫=山本和彦著『民事訴訟法』(有斐閣Sシリーズ) 1648円
より詳しいテキストとしては、中野貞一郎ほか編『民事訴訟法講義』(有斐閣大学双書)がある。

・参考書

民事訴訟法判例百選 I・II (別冊ジュリスト114, 115) I~1900円, II~1800円

3. キャンパスネットの掲示板

この講義では、情報処理センターを中心とする学内LANにより、パソコン通信の掲示システムを利用している。講義の詳しい目次や小テスト成績などは、キャンパスネットの中の「眠素クラブ」という掲示板上で発表するので、興味ある者は情報処理センターに利用申請

してIDを取得したうえで利用してほしい。

無体財産法

教授 久々湊伸一

最近では知的財産権法という言葉の方が使われ、定着しつつあるが、ともかく著作権法と工業所有権法が2本の柱である。工業所有権法は特許法・実用新案法・意匠法・商標法からなる。著作権法は文芸・学術・美術の分野の創作者を保護し、工業所有権四法は、商品に価値を付与する諸層(機能、外観、標章)の創作者等を保護する。前者は、コンピュータ・プログラム、ビデオレンタル、文献コピー等の問題があり、後者にはバイオ・テクノロジーの特許、ヨーロッパ特許、サービスマークの保護などの問題がある。

本年度は、著作権法に集中し、工業所有権については特許法に力点を置いて概説したい。

テキスト: 半田正夫・紋谷暢男編『著作権のノウハウ』(新装第4版) 有斐閣

参考書: 久々湊ほか著『著作権法』学陽書房

紋谷暢男『無体財産権法概論』有斐閣

橋本良郎著『特許法』有斐閣

管理科学

助教授 奥田和重

管理科学(マネジメント・サイエンス)はシステム科学と情報科学の二本柱からなるといわれており、この講義では一方の柱であるシステム科学について学ぶ。システム科学は管理科学だけではなく経済学、経営学、社会学、さらに生理学や心理学などまでをもその対象とする横断的な学問である。しかしこれらの分野におけるシステム科学のアプローチはややもすれば還元論的、機械論的になりやすい。これを克服するためには、新しいシステム科学が求められる。本講ではこのような視点から、システムの概念を正確に把握し、社会科学におけるシステム科学の役割を理解することを目的とする。講義は、システム理論とシステム方法論を中心に行なう。

講義中に小テストを前・後期それぞれ数回行う。開講時に講義に関する資料を配布する(資料は講義時以外では配布しない)ので、履修希望者は必ず出席するように。

教科書: プリントを配布する。

参考書: 茅 陽一, 森 俊介『社会システムの方法』, オーム社, (1985)

高原康彦『システム論の基礎』, 日刊工業新聞社, (1991)

浅居喜代治編著『現代システム工学の基礎』, オーム社, (1979)

高原康彦, 木嶋恭一『経営・情報のための数学入門』, 日刊工業新聞社, (1991)

計画数学 I

(前期) 助教授 行方常幸

(後期) 教授 沼田久

経済学、管理科学、情報科学、統計学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に慣れること、線形代数学が

経済学などにどのように応用されているかを知ることなどである。

まず、高校時代でおもに学習した2次元ベクトル、2行2列の行列を一般のn次元ベクトル、m行n列の行列に拡張し、これらの計算を通じてベクトルの1次独立、行列の階数、ベクトル空間の次元、行列式等の概念を説明し、連立1次方程式の解の構造を調べる。

次に、行列の固有値という一見何の役にも立ちそうもないもの（高校時代から解き慣れている方程式〔特性方程式と呼ばれる〕の解）を導入する。その後この固有値の数々の利用法を行列の三角化、対角化、非負行列のフロベニウス根等の話題を通じて体験する。この講義の締めくくりは経済学、オペレーションズ・リサーチ等で理論、計算の両面で重要で基本的な線形計画法である。

高等学校的な数学の得手・不得手とはあまり関係はないが、論理的能力または、ある程度の根気が必要である。講義すべき事柄が多く、講義中十分に演習する時間がないので、復習を各自で行なっていただきたい。行列式、行列の階数、行列の固有値（固有ベクトル）を求めること、LPをシンプレックス法で解けること、等は単位取得の必要条件である。この必要条件を満たさないで、試験を受ける等のいい加減な態度は慎んでいただきたい。講義に毎回出席し、その都度計算問題を解き（復習も含む）、分からないところを質問すれば、計画数学Iは単位の取り易い科目の筈である。

社会情報学科の学生はソフトウェア科学I・II、計画数学IIと共に必ず履修することが望ましい。

教科書：沼田 久、行方常幸ほか著『線形数学（改訂）』（富士書院）

計画数学 II

助教授 行方常幸

前期に、微分方程式、差分方程式を講義し、後期に確立と期待値のお話し、及びゲーム理論の講義を行う。前期の微分方程式、差分方程式は下記の教科書を用いるが、講義する部分は微分方程式では変数分離形、線形1階微分方程式、定係数線形n階微分方程式であり、差分方程式では、差分、和文、定係数線形n階差分方程式である。後期は今のところ教科書を予定していないが、確率の足し算、掛け算、条件付き確率、期待値の計算、等の話しの後、ゲーム理論のお話しを行う。拘束力のある取り決めを行えない非協力ゲームの種々の均衡概念、更に時間が許せば、拘束力のある取り決めを行える協力ゲームである特性関数形ゲームの色々な解を紹介する。前期は、時間の許す限り講義時間中に演習を行なう予定であるが、その際、分からないことは質問すること。分からない、離しすぎる、講義のスピードが速すぎる等の声を耳にする時もあるが、難しい分からないことであるから皆で学習するのではないかと、私は思っている。また、講義のスピードを遅くする方法は私が困るほど講義中に質問することである。

講義に出席することの利点を少しばかり列挙してみる。

出席をとった場合、出席点がもらえる。出席は前後期各4回ぐらい取る予定である。

教科書のどこに重点をおいて学習を進めていけばよいか分かる。

教科書のなかで試験に出ない部分、すなわち、講義で省略した部分分かる。

特に後期の場合、出席しないと講義内容がさっぱり分からない。

計画数学Iと共に履修することが望ましい。また、過年度生にはレポートなどを課す予定である。

教科書：須田 宏著『差分方程式・微分方程式』（培風館）

組織と情報総論

(前期) 助教授 山本 清

(後期) 助教授 持田 泰昭

本講義は、3年次以上の専門課程で組織における意思決定、情報システムの企画、設計、評価及び保全（システム・セキュリティ）を学ぶための基礎的知識を得ることを目的としています。組織における資源はヒト、モノ、カネと情報であると言われて久しくなりましたが、情報を明示的に扱った組織論は未だ不十分です。概念としての取り組みに止まっていてオペレーショナルな段階に到達した経営理論の確立はまだまですし、意思決定要素に定量的ファクターとして組み入れた情報の経済学も組織文化・規範とか人的資源のパラエティをモデルに内生化しておらず、個々人の合理性（各自の効用最大化）を基本的な前提にしています。したがって、依拠すべき標準理論はありませんが、情報が企業、官庁等の組織で重要な役割を果たしているのは事実です。単なる取引記録以上の機能を担っています。これを「情報の解釈過程としての組織」とか「情報の編集過程としての組織」と言う人もいます。しかし、組織と情報の関係を分析し、理解するという目的からは、大きく組織内部における情報（たとえばある投資案件についての分析情報など）の役割は何か、及び組織から発せられたり、受け取られたりする情報が外部環境である社会とどのような相互作用をしていくかという2つの側面から把握する必要があります。そこで、組織内部の活動・意思決定を情報分析の観点から説くとともに、組織間及び対社会との活動についても情報の社会的機能に着目して解説していくことにします。具体的には次のような内容を想定していますが、前期は組織の情報論からの解釈を、後期は組織における情報分析・システムの方法論を中心にする予定です。

- 1) 組織とは何か、なぜ存在するのか？
 - 2) 組織理論の経緯（バーナード、サイモンからポーターまで）
 - 3) 情報理論からの組織へのアプローチ（エイジェンシー理論、ネットワーク理論）
 - 4) 組織の経済学の進展（取引コスト理論、ゲーム理論、契約理論）
 - 5) 組織の経営・管理と情報（経営戦略、業績評価、人的資源管理）
 - 6) 政府・非営利組織における経営と情報（官僚制モデル）
 - 7) 情報の社会的機能と規制
 - 8) 情報化が組織に及ぼす影響
- 以上 前期
- 9) 情報システムのデザイン
 - 10) システム開発体制・情報組織（企業内部の）
 - 11) システム監査・保全のあらまし
 - 12) 経営情報システムの進展（概要）

- 13) 戦略的情報システム (SIS) の展望
- 14) 情報システム投資の分析・評価
- 15) 政府・非営利組織の情報システムの概要
- 16) 情報産業・ソフトウェア産業の組織の現状と課題

以上 後期

教科書：今井賢一他『ネットワーク時代の組織戦略』（第一法規）

参考書：今井賢一他『高度情報社会の戦略と組織』（第一法規）

なお、後期の教科書は未定。

会計情報論

助教授 山本 清

会計情報が企業等の組織においてどのような役割を果たしているのか。また、果たし得るかを主として情報の経済分析の考え方を応用して学習します。特に、会計情報は企業、官庁を問わず定量的な情報の代表的なもので、経済分析も会計情報に依存しておこなわれています（企業利益、売上高、GNP等）。したがって、会計情報が投資意思決定、人的資源管理といった組織内部（ミクロ）においてどのような価値を有しているのか。また、どのような情報システムが望ましいのかを理論的に考察し、併せて企業ディスクロージャーをめぐる法的規制を会計情報の社会的機能から把握することによりそのマクロ的な価値についても概説する予定です。主な講義内容は以下のとおりです。

- 1) 会計情報論のフレームワーク（隣接科学との関連）
- 2) 意思決定問題の定式化
- 3) 期待効用原理
- 4) 完全情報の価値
- 5) 不完全情報の価値
- 6) 情報のコストと情報システムの選択
- 7) 情報評価者と意思決定者が異なる場合の情報評価
- 8) 意思決定者が情報評価者に雇用されている場合のモデル—プリンシパル・エイジェントモデル—（組織の情報を媒介にしたプリンシパルとエイジェントの連鎖とみるモデル）
- 9) エイジェントが複数の場合のプリンシパル・エイジェントモデル
- 10) 多期間の場合のプリンシパル・エイジェントモデル
- 11) 情報分析の組織経営への応用—人事管理制度の考察—
- 12) ディスクロージャー規制の価値—会計情報開示制度の情報分析—
- 13) 情報分析の価値と限界

教科書・参考書：デムスキー『情報分析の基礎理論』（千倉書房）

細江守紀『不確実性と情報の経済分析』（九州大学出版会）

社会と情報

教授 沼田 久

コンピュータの発達・普及と通信との一体化の進行、ファクシミリやコードレステレホンの普及、通信衛星・放送衛星による情報伝達や放送の日常化、パソコン通信の浸透など、情報技術の進展と普及、情報インフラストラクチャーの整備の進行は、ビジネスの世界にも日常生活にも大きな影響・変化をもたらしています。そして洪水のように大量の情報が発信され飛びかっています。情報の流れは国境で阻止することも難しい時代になりました。今、社会は大きな変化が進行中です。人々の意識が、価値観が、行動様式が、消費の態様が変わりつつあります。情報化社会、あるいは「化」の段階は過ぎて情報社会とも言われる現代の変化の底流と意味を考えてみたいと思っています。

参考文献：田中良太「ワープロが社会を変える」中公新書、1991

一ノ瀬正輝「日本—農家のハイテク技術」講談社、1991

高田正純「ラップトップかかえて世界一周」早川書房、1991

その他必要に応じて、読んでもらいたい文献を挙げます。

ソフトウェア科学 I (前期)

助教授 中村 隆志

プログラムの基本的な作成法について講義・演習を行う。使用するプログラミング言語は Turbo Pascal である。

〔テキスト〕黒瀬、松尾：「Turbo Pascal プログラミング」、森北出版

この科目は、昨年度までの「情報処理 I」の前期に対応するものである。授業は、次のように半期制（前期）で行う。

- ・ 1 週間 2 講のうち、1 講は 1 クラスで講義教室で行う。もう 1 講は A・B・C の 3 クラスに分け、情報処理センター実習室で行う。
- ・ 実習室利用のクラス分けは各学年とも次のようにする。クラスにより授業時間が異なるので注意すること。

A クラス 社会情報学科（管理科学科）で学生番号奇数番の学生

B クラス 社会情報学科（管理科学科）で学生番号偶数番の学生

C クラス 社会情報学科以外の学科の学生

後期に開講されるソフトウェア科学 II も同様のクラス分けとなる。

社会情報学科の学生へ

この科目は必修というべきものであり、必ず履修することが望ましい。

社会情報学科以外の学生へ

昨年までの情報処理 I の B クラス（他学科用）では、ワープロや表計算ソフトを中心に易しい授業を行ったが、この科目は従来の A クラスの内容であり、そう易しくはない。課題も多数出題される。本当に、コンピュータやプログラム作成に興味があり、やる気がなければ単位取得は困難である。4 単位・半期制になり、他学科選択必修もなくなる。履修する場合には、本当に必要があるかどうかを十分に考えること。

ソフトウェア科学Ⅱ（後期）

教授 杉本英二

前期で Pascal プログラミングの入門を学んでいますから、後期はいよいよデータ構造に着目してアルゴリズムを理解することが目標です。プログラミング例は非常に基本的な手法ですから、しっかりと自分のものにしましょう。さらに、ソフトウェア工学の内容であるトップダウンプログラミング、抽象化設計法などのソフトウェア開発技法も講義・演習します。

この科目でコンピュータ・プログラミングの基本が完成します。この科目で「優」を取れば、どこに行ってもプログラミングは通用するでしょう。次は、情報処理技術者1種を目指そう！「良」なら就職で「君はコンピュータできるの？」と聞かれても「できます」と答えることができるはずだ。社会情報学科の学生には特に基本的な科目ですから、できるだけ履修するようにしましょう。

授業は、教室と演習室を交互に使って進め、教室では主にテキストを使って講義し、演習課題を出します。課題はワープロでレポートにまとめて提出します。演習中不明なことから、できるだけその場その場で質問し理解して下さい。理解して得するのは君自身なのだから。

テキスト：森口，小林，武市：「Pascal プログラミング講義」共立出版 ¥1,900

（履修条件）ソフトウェア科学Ⅰの履修済の者。各自が自習のための時間を、講義以外に1週間に1時間半ほど用意して下さい。講義中の演習だけではレポートの提出が出来ません。

管理科学Ⅰ

教授 若林信夫

講義のガイドライン
何を学ぶか。

管理科学 (*Management Science/Operations Research*) がコンピュータの発展とどのように関係しているかについて理論と実践を学ぶ。

前期には、意思決定分析、数理計画法の基礎と応用を学び、

後期には、シミュレーション、データベース、暗号系を学ぶ。

どのように学ぶか。

情報処理センターの Lotus 1-2-3ソフトウェアの操作（前期）。

汎用計算機（メインフレーム）の SAS/OR の操作（後期）。

時間の配分：

月曜日2講目、前半（10時半—11時15分）、102番教室で講義

後半（11時20分—12時）、情報処理センター実習室で演習

出席調査：

毎回、演習結果をA4判1枚に印刷して提出する。時間内に完成しない場合は、実習室すみの箱の中に入れる。当日のみ出席点となる。

試験：

前期試験と後期試験を行い、夏休み・冬休み後にレポートを提出する。

参考書・教科書：

開講時に指示する。先輩より、講義ノート・プリント等を入手することが望ましい。

管理科学Ⅱ

助教授 加藤修一

私達は、日常生活の中で絶えず意志決定を繰り返し、重ね積み上げその多くの行動のなかから共通した意思決定の手順をモデル化して、自分なりに有る程度の意志決定の手順—「法」を見だし、効果的な処理をおこなっている。過去と似たような意志決定問題の場合には、蓄積された情報（これは、いわゆる経験則であり、カンといわれるもの）にてらし合わせて、決定しているわけである。これは、一個人のケースであるが、集団として種々のシステムからなる企業、社会、地域、国などは、より効率的、より幸福的な(?)状況の形成のための意志決定の問題群の解決機会、すさまじく多い。管理科学は、この意志決定を行う場合にできるだけ科学的成果を援用する方法論で、その成果を学習することにより、究極的には、経験則に潜むと思われる法則性の抽出、個人のレベルにおわっているカンから普遍的要因を探り出すなど、意志決定の確実性を高めることにある。本講義では、ORなどに適用されている計量的な方法について、生活環境の質、地域計画学的な視点から進める。たんなる理論の紹介に終わらずできるだけ事例学習についても行う。

夏・冬休み後にレポート提出をしてもらう。前・後期定期試験がある。

1. わが国の都市、地域問題と21世紀への基本戦略
 2. 計量的分析法について
 - ・地域人口推定法
 - ・産業立地分析
 - ・地域産業関連分析（事業の波及効果：波及生産、波及所得、雇用効果など）
 - ・地域計量分析
 - ・地域環境管理
 - ・地域システム分析
 - ・環境質の計量分析（緑の効用、水辺の効用、景観、…）
 - ・そのほか最近の定性的・定量的方法
 3. 社会システムの評価
 - ・効用理論、多属性効用関数法、AHP（階層構造化）法、構造分析、しなやかなシステムズアプローチなど。
 4. 事例紹介（リニアモーターカー導入可能性調査、新千歳空港周辺開発調査、アフリカM国プロジェクト調査、河川環境整備事業と地域効果、観光行動と経済効果、…）
- 教科書（前期、後期）：山村悦夫「地域計画(1)―計画の分析―」、技報堂。
参考書（前期、後期）：荻原ほか「環境経済学の理論と応用」、劉草書房。
：刀根 薫「ゲーム感覚意志決定法 AHP入門」、日科技連。

管理科学Ⅲ

(前期) 教授 戸嶋 熙

数式処理言語 REDUCE を用いて数理経済学、数理統計学にあらわれる定理を「証明」する。したがって、受講者は数理経済学、数理統計学になじみを持っていることがのぞましい。そうでなければ、講義は単なるコンピュータの機械的操作に終わってしまうだろう。

資料をフロッピー・ディスクで配布するので、MS-DOS によって初期化済みの3.5インチ2HDのフロッピー・ディスク1枚を講義の最初の時間に持参してほしい (MS-DOSによるフロッピー・ディスクの初期化は情報処理センターのFMRで容易に行うことができる)。ただし、情報処理Ⅲでフロッピー・ディスクの資料を配布された者はそれを持参するだけでよく、新しくフロッピー・ディスクを用意する必要はない。

講義は毎時間情報処理センターの実習室で行う。

テキストとしては、

A. C. ハーン, REDUCE ユーザーズ・マニュアル, マグロウヒル出版, 1989. を使用する。

管理科学Ⅲ

(後期) 助教授 中村 隆志

後期は確率システムの性能評価, 信頼度評価等に用いられる。

- ・マルコフ連鎖
- ・待ち行列理論
- ・信頼性理論

について講義する。

[テキスト] 依田, 尾崎, 中川: 「応用確率論」, 朝倉書店

管理科学特講Ⅱ (前期)

非常勤講師 浅利 英吉

管理科学は多くの数理科学的手法からなる。この講義では、はじめにそれらの概要を説明する。ついで、それらの中から社会的によく利用されているものとして、今年度は予測理論と在庫理論について講義する。前者は、過去と現在の状況に照らして未来の姿を予想するもので、数理統計学を議論の基礎とする。後者は、不確定な需要に対していかに供給能力を設定するかを論ずるもので、予測理論と組み合わせて経営におけるロジスティックの問題を考えるのに必要なものである。テキストとして講師執筆のプリントを配布して講義し、適宜演習を行うものとする。

応用数学 (統計Ⅰ)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト: 東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会

「自然科学の統計学」 1992年8月発行の基礎統計学Ⅲである。

数表: 日本規格協会 「統計数値表」 コンサイス版

応用数学 (統計Ⅱ)

助教授 清水川 緋紗子

テキスト: 塩谷 實著「多変量解析概論」 朝倉書店

情報処理Ⅱ

教授 杉本 英二

人工知能の分野には非常に多くの応用があるが、その中でも重要な言語情報処理を解説する。コンピュータに人間の言葉を理解させるためのシステムを実際にプログラミングすることを通して、人工知能のシステムと技術の理解を深めることを目標にする。また、これらのシステムの開発が、心の中の言語活動の理解と強く関係していることを感じさせてくれるはずである。

最初に人工知能開発のためのプログラミング言語 Prolog の使い方から始める。Prolog が十分できるようになったら、言語文法の一般的な記述方法とプログラミング方法を解説する。次にコンピュータで意味をどの様に表し、使っているのかということの理解がポイントである。

- 1) Prolog 言語
- 2) 形態素と構文解析
- 3) 文の構造
- 4) 意味の理解
- 5) 辞書と知識ベース
- 6) 自然言語処理の応用

テキスト: ①デニス・メリット: 「Prolog の冒険」ソフトバンク ¥3,500

②牧野武則: 「自然言語処理」オーム社 ¥2,300

参考書: ③瀬下孝之: 「Prolog 入門」オーム社 ¥2,500

④岡田直之: 「自然言語処理入門」共立出版 ¥2,230

(履修の条件) 情報処理Ⅰを履修済のこと。また実習は講義時間以外に各自で2時間/週を用意すること(6単位の条件)。授業でも最低限の実習はするが、それは各自が実習するための導入であって理解させるためのものではないからです。講義は年間45時間程度しかなく、その半分の時間を実習に当てたとしても20時間程度であり、それではプログラミングの理解には到底足りないからです。以上を前提にして授業を進めます。

情報処理Ⅲ

教授 戸嶋 熙

リスト処理言語 Lisp を用いて記号処理の基本的アルゴリズムを記述し実行する。そのさい、Lisp として REDUCE の Rlisp を使用すると何かと便利である。

資料をフロッピー・ディスクで配布するので、3.5インチ2HDのフロッピー・ディスク1枚をMS-DOSで初期化したうえで最初の講義時間に持参してほしい (MS-DOSによるフロッピー・ディスクの初期化は情報処理センターのFMRで容易に行うことができる)。ただし、管理科学Ⅲでフロッピー・ディスクの資料を配布された者はそれを持参するだけで

よく、新しくフロッピー・ディスクを用意する必要はない。

講義は毎時間情報処理センターの実習室で行う。

テキストとしては、

A. C. ハーン, REDUCE ユーザーズ・マニュアル, マグロウヒル出版, 1989を使用する。

情報処理特講 (前期)

教授 若林 信夫

UNIX ワークステーション (Sig1=Sun4, Sig3=NeXT) を用いて, オペレーティング・システム UNIX の基本とアプリケーションを学ぶ。

1. ワークステーションとの対話
2. 文書データの作成・編集 (vi, NEmacs)
3. 文書清書ツール (LaTeX, troff)
4. ネットワーク利用 (電子メール, 電子ニュース)
5. マルチメディア (写真の取り込み, アニメーション, 音声)
6. オブジェクト指向データベース

参考書・教科書

1. 小林光夫, 武市正人, 鈴木卓治「UNIX ワークステーション入門」
東京大学出版会, ¥3,296円
2. 大阪大学情報処理教育研究会編「NeXT ユーザーガイドブック」
アスキー出版局, ¥3,107円
3. 岩波書店: ビデオ学習システム「ワークステーションのソフトウェア技術」
全6巻/別巻1 (情報処理センターにある)

6 教職科目

教育基礎論 I

助教授 上野 耕三郎

ざっとおもいつくままに学校現象にかかわることばをあげてみると、「いじめ」、「校内暴力」、「受験競争」、「不登校」、「偏差値教育」、「管理教育」、「中退」など、きりがない。これらの現象にかんしては、さかんに犯人探しがなされている。犯人として指名手配されているのは、そのときの事情により学校や教師のときもあり、家庭のときもある。しかし逮捕してみても、いまひとつ犯人の動機がわからない。犯人探しのプロセスで何かがちがっていたのかもしれない。

どうしてこうなったのだろうか。たぶんそのひとつの理由は「教育」ということばは人々——ここではとくに大人——に独特のイメージをもたせるからであろう。そのイメージは教育は善なるものを志向するというような、たぶんに倫理性をはらんだものである。もしかすると、そういうものの言い方がわれわれの眼を曇らせているのかもしれないと考えられないのだろうか。

もう少し冷静な眼で、あるいは外側から〈学校〉教育現象を視てみるとどうなるのだろうか。たぶんそのことを通して、この時代が私たちに強いている〈学校教育〉の問題へ少しでも迫ることができるのではないだろうか。だが、それはいっそうの迷路へとわれわれを誘うことだけはまちがいない。

授業は具体的には「登校拒否」「いじめ」「管理教育」「中退」「性」などをとりあげる予定である。それらの問題から「学校」とは何か、「中高校生」の心身とはどういう状態にあるのか、そして私たちの生きているこの高度資本主義社会は「学校」にそして「中高校生」に何を強いているのか、ということを探ることにする。

授業の詳細な内容、あるいは授業の進め方については、初回の授業のときに話す。

教育基礎論 II A (前期)

非常勤講師 湯浅 誠哉
(北海道薬科大学教授)

教育基礎論 II A では、教育心理学を取り扱う。学校は勿論、社会、産業、家庭等の教育の場面に、心理学的アプローチの導入により、その教育により効果的結果が得られると考えられている。教育心理学とは、主として教育における心理学的側面を研究する学問であって、講義では、これに病理的な現象の考察を加味したものにする。

項目 授業内容

1. 発達 発達観の変遷
発達過程
発達障害
2. 学習 学習理論と学習の形態
学習成立の諸条件 (動機づけ等)

- 学習障害
3. 知能 知能とその測定(知能検査)
知能障害(精神発達遅滞, 痴呆等)
 4. 適応 コラストレスとコンフリクト
防衛機制と適応障害
 5. 性格 性格(人格)の理論
性格検査の実習(YG人格検査, クレペリンテスト等)
 6. 心理的援助 カウンセリングの諸理論と実例
児童・生徒の社会病理的現象(登校拒否, 暴力, 逸脱, 自殺等)

教育基礎論 II B (後期)

助教授 上野 耕三郎

教育基礎論 I では、子どもがこの今という時代のなかでどのような変容をとげており、またそれに晒されている学校がいかに関舞っているかに焦点をあてました。「いま」という時代の「学校」現象の底にあるものを見ようと努めてきたわけです。以上のことを前提に、この授業では「第14期中央教育審議会審議経過報告書、第一編学校制度に関する小委員会審議経過報告」を読むことにします。

いまさらどうして中教審の報告書を読まなくてはいけぬのか? という疑問はできるかもしれませんが、そのことをも含めて、実際の授業の進め方については、初回の授業で話します。

教育方法学 (前期)

助教授 土屋 文明

講義内容は、教育技術、教材研究、視聴覚教育、教育評価などに関するものである。時間的な余裕があれば、学生による模擬授業も行いたい。

商業科教育法 (前期)

非常勤講師 小山 正芳

高等学校教育にいくつかの課題が与えられています。同時に色々な改革案も出されています。その基本の視点は新学習指導要領の考え方であり、制度としては、従来の普職二学科に新しく「総合学科」を加えて、人間としてのあり方生き方を高校時代に考えてみようという方向にあるといえます。

高校学校における商業教育が、単に産業や職業に関する知識や技術などを伝達するための手段にすぎないのでなく、生徒の人間形成や社会とのつながり、社会の存続発展という教育活動の普遍的な原理に貫かれた教育にほかならないという原点に立って授業をすすめます。

1. 商業教育の基盤
 - ア. 経済活動と教育
 - イ. 学習指導の特質
 - ウ. 商業教育の意義と目標
2. 商業教育の発展
 - ア. 戦前の商業教育
 - イ. 戦後の商業教育
 - ウ. 現在の商業教育(新学習指導要領)

3. 商業に関する教科の学習指導

ア. 商業経済科目群 イ. 簿記会計科目群 ウ. 情報処理科目群 エ. 総合学習科目群 オ. 指導計画の作成

4. 教科外活動や生徒指導・進路指導等について

5. 教職の専門性とこれからの商業教育

以上の内容で授業を進めますが、教材はプリントを使用し、参考文献等はその都度紹介します。

英語科教育法

助教授 高井 収

Goals :

- (1) Students Will be able to develop awareness of available methods of teaching English as a foreign language (TEFL).
- (2) Students Will be able to develop their own understandings on foreign language acquisition process through available language acquisition and learning theories.
- (3) Students Will be able to define foreign (or second) language teaching objectives and to choose appropriate methods and techniques to meet them.

Objectives :

- (1) Students Will be able to demonstrate their understanding knowledge about course contents, including basic concepts of language teaching and learning theories to degree of 80% accuracy.
- (2) Students Will be able to choose the topic of interest and to write an annotated bibliography.
- (3) Given a format of teaching plan, students will be able to demonstrate a mini-teaching according to their own teaching plan.
- (4) Students Will be able to evaluate their own teaching and others as well.

Course Contents :

1. Making a teaching plan.
2. Exploring methods and activities.
 - a) Listening
 - b) Speaking
 - c) Reading
 - d) Writing
3. Evaluation.
4. Theoretical perspective.

- a) Language and learning theory
- b) Second Language Acquisition theory

Required Reading :

米山朝二：「英語教育—実践から理論へ」(松柏社)

Recommended readings :

Patricia A. Richard-Amato. Making It Happen : Interaction in the Second Language Classroom—From Theory to Practice.

教育実践論 I (前期)

助教授 土屋文明

「生徒指導」が中心的な内容である。いま学校現場では、ひと頃ほどではないにしても、なかなか授業自体がなりたたなかったり、生徒指導全般がやりにくい状況があるといわれる。

これに対しては、粗くいうと、一方では生徒管理を強化する方策と、他方その逆に大幅に生徒の自主裁量を認め、その責任を多くもたせようとする方策が行われている。こうした問題をどのように考えればよいのか、模索していくことにしたい。教材はプリントを使用する。

教育実践論 II (後期)

助教授 土屋文明

「特別活動」が中心的な内容となる。「高等学校学習指導要領」第1章 総則では、「自ら学ぶ意欲」や「社会の変化に主体的に対応できる能力」の育成、また「個性を生かす教育の充実」がうたわれている。しかし、こうしたことは教師主導の教育活動が主に中心となる教科の授業の中では行われにくいという現状がある。そこで、生徒の自発的・自主的活動を時間・空間的に保障しようというのが特別活動のねらいとするところである。前半では、特別活動の歴史的な変遷と、新指導要領にある特別活動の中身について試みる。後半では、特別活動における教師の役割について考えていくことにしたい。教材はプリントを使用する。「教育実践論 I」の履修者が、講義対象者である。

職業指導

非常勤講師 松田光一
(北海学園大学教授)

職業指導講義内容

1. 職業について
2. 職業観の変遷
3. 職業指導の歴史
4. 職業的発達理論
5. 進路指導の管理と運営(1)
6. 進路指導の管理と運営(2)
7. 進路指導の実践(1)
8. 進路指導の実践(2)

9. 学歴と職業—学歴社会論をめぐって
10. 職業資格制度と教育機会の拡大
11. 学校における職業教育(1)職業高校の事例
12. 学校における職業教育(2)専修学校、職業訓練校の事例
13. 企業内教育訓練の推移
14. OJTとOff-JT
15. 技術革新と教育
16. 職場適応
17. 職業適正
18. 自己理解
19. 進路相談、カウンセリングの実際
20. 進路指導における個人理解の方法
21. まとめ

テキストは使用しない。

言語学概論 (前期)

助教授 津曲敏郎

コトバは毎日の生活に欠かせないものでありながら、あまりにも身近なためにあらためて考える機会が少ない。ふだん何気なく使っているこのコトバについて、客観的・科学的に見つめなおすのが言語学の出発点である。前期では、まず人間の言語の一般的特徴を動物のコミュニケーションと比較しながら考え、その分析の対象と方法を明確にすることから始める。次いで日本語や英語を主な材料に、音声のしくみと機能を見ていく。さらに文法の単位として単語をとりあげ、その構造や語形変化のしくみ、および分析と記述の方法などを学ぶ。テキストは使用せず、必要に応じてプリントを用意する。とりあつかうテーマは身近であるが、正確な理解のためには厳格な用語法や抽象的分析、論理的積み重ねが不可欠である。欠席は理由の如何を問わず回数に応じて評点の際、減点される。遅刻や授業への実質的不参加も欠席に準じる扱いとなる。

言語学概論 (後期)

助教授 大島稔

講義内容 :

- (1)語形成と語類, (2)文の仕組み, (3)テキストの仕組み,
- (4)言語とコミュニケーション, (5)言語の歴史と変異, (6)言語の対照と類型

言語の仕組みと働きを理解してもらうために、後期では語以上のレベルの言語単位を中心に扱う。(1)から(3)では、語から句、文、さらにテキストと進み、それらの単位がどういう仕組みをもって言語として機能しているのかを主として認知論的アプローチから論じる。(4)では、言語の運用面であるコミュニケーションを異文化間コミュニケーションの視点から扱う。(1)~(4)では、英語と日本語の例を中心に言語学の基礎的概念を身につけ、練習問題を多く解くことで自分の理解を確認してもらう。(5)では、日本語と英語の例を中心に言語の歴史と言

語の示す地理的変異(方言)、性別・年齢別変異など一言語内の多様性を観察し、(6)においては、世界の言語が示す多様性の中で日本語と英語の特徴を探りながら、日本語と英語の対照研究にも触れる。

テキスト:

講義ノートのプリントを用いて行う。

講義での評価と単位認定:

授業の中で行う小テストと後期定期試験に行う筆記試験、および講義中の積極性に基づいて総合的に判断します。

英語学 I

助教授 下村 五三夫

An Introduction to the History of the English Language [Georges Bourcier / Cecily Clark] (南雲堂) をテキストとして指定します。

英語を印欧語のコンテキストの中で観察します。今年度の目標は古代英語の音韻・形態の把握です。予め報告者を指定して、彼/彼女の十分な予習に基づく読解を中心に授業を進めます。原則として欠席はできません。遅刻は欠席の扱いですが、授業に参加することはできません。授業は初日から行います。この日、受講の有無を確認し次回の報告者を指定します。初日に参加した学生だけを受け入れます。以下の目次を参考にして意思を決定して下さい。

- 1 The philological context of the English language:
 - The Indo-European languages.
 - The Germanic languages in their Indo-European context.
- 2 Words: their shapes; their historical bearings
 - Word structure.
 - Vocabulary as a mirror of history.
- 3 Old English
 - Written codes and speech-sounds:
 - Systems of writing
 - Old English spelling
 - Further phonological notes
 - The Inflexional system
 - Nouns
 - pronouns and demonstratives
 - Adjectives and adverbs
 - Verbs
 - Brief notes on word-order

尚、成績は定期試験の成績と授業への参加態度を総合して評価します。

英語学 III

助教授 山本久雄

テキスト: *The Making of English* by H. Bradley & S. Potter (成美堂)

英語の成立に関するテキストを講読する。7回までの欠席は認めるが、それ以上欠席したものは受験資格を失なう。遅刻は欠席と同じ扱いとする。

英文学史

教授 永原和夫

イギリス文学の歴史的概説をおこなう。受講者には定期試験のほかに戯曲2篇、小説2篇を読みレポートを提出してもらう。出席を重視する。

テキスト: *Waldo Clarke, A Short History of English Literature* (金星堂),
¥2,000

英文学 I

教授 君羅久則

テキスト: 薮下・床尾編 *A Choice of English Romantic Poetry*, 北星堂

ロマン派の詩人が生み出した傑作の数々を味読する。英詩法の概説も行うが、詩を読むためには、イメージや音の効果など、ことばの働きや力を真に理解することも重要になる。

参考文献: 齊藤 勇『英詩概論』研究社

志子田光雄『英詩理解の基礎知識』金星堂

英会話・英作文

外国人教師 Michael Carr

Withrow, *Effective Writing*, (Cambridge University Press)

This is a demanding course in oral and written communication, and it is restricted to earnest students. Attendance is strictly required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from weekly tests, participation in class discussions, and from compositions which must be typewritten.

英語コミュニケーション(前期)

非常勤講師 坪谷 雍子

(静修短期大学助教授)

Text: Dale, Paulette (1988) *Speech Communication for International Students*.
New Jersey: Prentice Hall Regents.

This course Will help you to learn the basics of outlining and organizing a speech and to listen critically and objectively.

Class attendance and participation are "musts". Your grade will be damaged by your absence from class.

比較文化(後期)

非常勤講師 坪谷 雍子
(静修短期大学助教授)

Text : Hall, Edwardt. (1977). Beyond Culture.

New york : Anchor Press.

Participant will explore personal and Cultural values, behaviors, perceptions, and assumptions. Your grade will be damaged by your excessive absence from class and poor weekly reports.

7 研究指導

井上教官担当研究指導

1. 研究主題

International Economic History

明年度(平成5年度)から両大戦間期(the interwar years)の国際経済史を研究主題とする予定です。

2. 指導要領

3年次には両大戦間期の国際経済史に関する英文テキストを輪読する予定です。

3年次末までに各自卒業論文のテーマを決めて、それに関するレポートを提出するよう求めます。4年次に入ると卒業論文の作成指導に入ります。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト : A. G. Kenwood and A. L. Lougheed, The Growth of the International Economy, 1820-1980, London, 1983.

その他の参考文献については後に指示します。

遠藤教官担当研究指導

1. 研究主題

計量経済分析

2. 指導要領

3年次 : テキストの講読と統計ソフトウェアの利用。

4年次 : テキストの講読の継続と卒業論文の作成。

3. テキスト

3年次 : J. Johnston, *Econometric Methods*, 3/e, McGraw-Hill, 1984.

(ISE版3,000円)

4年次 : 同上

佐竹教官担当研究指導

1. 研究主題

貿易政策の研究

具体的なテーマとしては

(1) GATTルールの検討

(2) アメリカやECの貿易政策

(3) 新しい貿易政策の理論

2. 指導要領

3年次は下記のようなテキストを使って、国際経済学や貿易政策の具体的な考え方を学ぶ。

4年次は各自のテーマに沿った卒業論文の指導。今年の4年生の卒論のテーマは、「アメリカの貿易政策」「半導体の貿易摩擦」「アジア中進国の経済統合」「日本の農業保護」「エネルギーの安全保障と貿易」など。

3. 指導テキスト及び参考書

N. Vowsden, *The Economics of Trade Protection*, Cambridge :
Cambridge Univ. Press, 1990

小島清『応用国際経済学』

栗田教官担当研究指導

1. 研究主題

経済学の歴史

2. 指導要領

3年次はテキストの報告を中心に、経済思想の多様性を学ぶ。そのなかから、卒論のテーマを選択することにする。

4年次は、卒論の作成にむけて、個別テーマの報告・討論を積み重ねてゆく。

3. 指導テキスト及び参考書

猪木武徳『経済思想』(モダン・エコノミックス24) 岩波書店, 1987年

本間教官担当研究指導

1. 研究主題

国際農業問題と経済発展

ガットにおける農業交渉やコメの市場開放など、農業に関わる経済問題を理論的・実証的に分析する。また、経済発展における農業の役割や食料問題も重要なトピックスである。

2. 指導要領

3年次：各種文献の講読と討論。また、統計的分析手法のための講習を行なう予定。

4年次：卒論指導

3. 指導テキスト及び参考書

農業経済学、国際経済学、経済発展論などの分野からいくつかを取り上げる。

板谷教官担当研究指導

1. 研究主題

公共経済学および財政学

公共経済学および財政学の分野における理論的および制度的知識を習熟するとともに、経済学一般に関する知識を深める。

2. 指導要領

3年次および4年次前半にわたり、後述の英語テキストを輪読すること。交替でリポーターを決めて、彼or彼女に発表してもらう。

4年次後半より卒論指導。今回は、公共経済学or財政学よりテーマを選択してもらう。

3. 指導テキスト及び参考書

Public Finance, H. S. Rosen, 1991.

Third edition

および、日本の財政制度について書かれた邦語の文献。

船津教官担当研究指導

1. 研究主題

フリー・ゾーン概念による地域振興

(国際経済の理論的および実証的研究)

2. 指導要領

3年次においては、国際経済学及び計量経済学の標準的テキストを輪読し、経済分析に必要な基本概念とルーツを学びます。

4年次においては、世界各国及び日本のフリー・ゾーンおよびフリー・トレード・ゾーンに関する資料を収集し、その経済効果について分析します。

3. 指導テキスト及び参考書

Wilfred Ethier, *Modern International Economics* W. W. Norton & Company, New York 1990

蓑谷千風彦 「計量経済学」第2版 スタンダード 経済学シリーズ 東洋経済新報社 1988

山本(賢)教官担当研究指導

1. 研究主題

ミクロ経済理論—財・サービスの需要・供給に関わる各経済主体の意思決定をもとに、経済現象に関する検証可能な仮説をどのように導出したらよいか、を考えていきます。

2. 指導要領

3年次：この研究指導の運営については、履修者間の相談によって決定していただきます。私は、履修者のそれぞれの研究テーマに沿った報告とそれを巡っての討論に多くの時間を費やしたい、と考えています。しかしながら、履修者の多くが、通常の講義以上にミクロ経済理論の理解を深めようとするならば、文献の講読

も効果があると思います。

4年次：卒業論文の作成。卒業論文については、他のメンバーの論文に対するコメントを求めています。

3. 指導テキスト

必要に応じて、4月開講時までにリーディング・リストないしはテキストを用意します。

[適当な文献としては、たとえば *Journal of Economic Perspectives* に掲載されてきた解説論文や Donald W. Katzner; *The Walrasian Vision of the Microeconomy An Elementary Exposition of the Structure of Modern General Equilibrium Theory*. (Ann Arbor, MI, U. S. A. : The Univ. of Michigan Press, 1989). などを考えています。]

今西教官担当研究指導

1. 研究主題

近代日本の経済と社会～明治維新を中心に～

2. 指導要領

テキストを分担して報告してもらい、次いでそのテキストの参考文献(318～319頁)から一冊または一論文を選んで報告してもらおう。テキストは春休み中に全部読んでからゼミに参加して下さい。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト；中村哲『日本の歴史⑩明治維新』(集英社・2400円)

参考文献は同書318～319頁を参照。

その他に、平子友長『社会主義と現代世界』(青木書店, 3605円)

西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義』(研文出版, 2575円)

中村哲『近代世界史像の再構成』(青木書店, 2575円)

安丸良夫『近代天皇像の形成』(岩波書店, 2400円)

なども、是非一読しておいてもらいたい。

中村(健)教官担当研究指導

1. 研究主題

労働経済学

2. 指導要領

3年次 経済数学・中級マイクロ経済学の学習

4年次 応用マイクロ経済学としての労働経済学の学習、および卒論作成

3. 指導テキストおよび参考書

津野義道 「経済数学I」 培風館

西村和雄 「マイクロ経済学」 東洋経済新報社

川又邦夫 「市場機構と経済厚生」 創文社

R. Gibbons *Game Theory for Applied Economists Princeton*

その他

加藤(睦)教官担当研究指導

近代世界システム(大航海時代以降500年間の世界の政治・軍事・経済体制のこと)の史変遷と日本との関連の総合的研究。年間5, 6冊程度を輪読し討論する。今年は日本外交史及びその思想的背景の勉強を中心とし、その後は国際関係の理論的研究の勉強へ進む所存である。

渋谷教官担当研究指導

1. 研究主題

国際マクロ経済学(国際金融論)

ブレトン・ウッズ体制崩壊後の管理フロート制下で、先進諸国の国際収支と為替レートは大きな変動を見せた。この不安定な国際金融情勢は、さまざまな理論を実証する機会を提供してくれた。本ゼミでは、近年における国際収支と為替レートの変動について、国際マクロ経済政策との相互関係に重点をおきながら理論的・実証的研究を試みる。

2. 指導要領

3年次は、テキストの輪読を通して、最近の国際金融の動向と理論を学習する。4年次より、各自テーマを選び卒業論文を作成する。

3. 指導テキスト

Paul De Grauwe, International Money : Post-War Trends and Theories, Clarendon Press, 1989.

角野教官担当研究指導

1. 研究主題

財政学・公共経済学およびマイクロ経済学

2. 指導要領

3年次は、テキストの輪読を行い、マイクロ経済理論の基礎的な理解を確実なものにする。また、報告担当者との討論を通じて財政学および公共経済学の理解を深めてゆくことを目標とする。

4年次は、卒業論文の作成を目標とする。草稿は適宜報告してもらい、それをもとにメンバーと討論するなかで卒業論文を完成させてゆく。

3. 指導テキスト

R. A. Musgrave and P. B. Musgrave, *Public Finance in Theory and Practice*
5th edition, 1989, Mc Graw-Hill.

西山教官担当研究指導

1. 研究主題

現代日本経済の実証分析。

経済統計の取扱いと計量経済分析の基本的手法を修得しながら、日常生活の中から実際の経済問題を抽出して、それを実証的に分析するトレーニングを行う。経済の動きに関心を持ち、「日本経済新聞」や「週刊東洋経済」、「週刊エコノミスト」等に掲載されている記事内容から日本経済や海外経済の現状を把握することが面白いと思う感性が重要になります。

2. 指導要領

3年次：先ず最新の「経済白書」もしくは「国民生活白書」のいずれかを2～3ヶ月の予定で通読し、時宜を得た経済分析を行う際のカンドコロを学ぶ。その後、森口親司「日本経済論」（創文社）に即して経済問題への実証的アプローチの方法を体系的に修得する。ゼミの進行は輪読と報告・討論が中心。ゼミ生の希望があれば、毎月1回、（日本）経済の概観報告の模擬会議をやってもらいます。

3. 指導テキスト及び参考書

上記テキストの他、計量経済学的手法に関しては、G. S. マダラ「計量経済分析の方法」（和合肇訳、マグロウヒル社）、辻村江太郎「計量経済学」（岩波全書）を参考書として推薦しておく。その他、具体的な経済分析のための参考文献類は開講後に指示する予定。

花田教官担当研究指導

1. 研究主題

戦後日本経済の実証的研究

2. 指導要領

3年次：基礎的な文献を輪読しながら関連する資料を収集する。

3. 指導テキストおよび参考書

『講座今日の日本資本主義』大月書店

『新マルクス経済学講座』有斐閣

和田（良）教官担当研究指導

1. 研究主題

金融論－金融資産の価格の決定に関する理論的・実証的研究。

2. 指導要領

3年次：教科書の講読。問題演習も行う。英文の教科書の場合には、二、三人で共同して要旨をまとめ報告する。

4年次：教科書の講読及び卒論作成。

3. 指導テキスト及び参考書

Orlin Grabbe, *International Financial Markets*, Elsevier

三輪芳朗『日本の株価の決まり方－四酔人株価問答』有斐閣

高宮城教官担当研究指導

1. 研究主題

マーケティングの理論的・実証的研究

マーケティングとは環境（特に市場）に対する主体（特に企業）の適応活動であり、その内容は競争優位性を創造・維持することによってマーケティング取引を推進しようとする、環境に向かっている主体の組織的行動からなる。

本ゼミは、特に実際の企業のマーケティング行動について理論的検討を加えることにより、広義の流通現象についての理解を深め、現実世界を見る眼を養うことを狙いとする。

2. 指導要領

3年次：マーケティング論の基礎知識を修得するために、まず基礎文献の輪読を行う。

次に、テーマ別に事例研究を行う。文献輪読や事例研究の際にはほぼ毎回ミニ・レポートの提出を求める予定である。以上と並行して3年次後半よりグループで実証研究を行うことを求める。

4年次：文献輪読・事例研究と並行して、卒業論文の指導を教室での報告・討論と個別指導を通じて行う。

3. 指導テキストおよび参考書

以下のテキストを予定しているが、詳細についてはゼミ開始時に指示する。

ランバン『戦略的マーケティング』（嵯峨野書院）

嶋口・石井『現代マーケティング』（有斐閣）

田村『現代の市場戦略』（日本経済新聞社）

佐川『新しいマーケティングの実際』（プレジデント社）

田内『マーケティング：理論と実際』（TBSブリタニカ）

宝月・他『社会調査』（有斐閣）

中浜教官担当研究指導

1. 研究主題

現代保険業の理論的・実証的研究

2. 指導要領

3年次：研究主題に関する文献の講読と討論。

4年次：研究主題に関する文献の講読と討論、卒業論文の作成指導。

3. 指導テキストおよび参考書

未定ですが、研究主題にあった文献を選定します。

篠崎教官担当研究指導

1. 研究主題

日本的経営の諸問題

《日本的経営とはなんなのか》

《いまどの様な問題に直面しているのか》

《いかなる構造改革を迫られているのか》

上述のような問題意識を踏まえながら、日本企業の行動を客観的批判的に分析する。

* ちなみに、平成5年3月卒業ゼミ生の卒論テーマは、「国際自動車産業における大量生産システムの導入と展開—労働過程論からのアプローチ—」であり、次の回生のテーマは、「日本的生産方式と組織」となっている。

2. 指導要領

3年次：経営学の基礎、社会科学的なものの考え方を身につける。

内外の文献を参照し、卒論テーマを決定する。

4年次：共同では、基本的な問題を取り上げて理論的な分析を試みる。

個別には、卒論の作成に取り組む。

3. 指導テキストおよび参考書

内田義彦『資本論の世界』岩波書店

鎌田慧『自動車絶望工場』講談社文庫

熊沢誠『日本的経営の明暗』筑摩書房

丸山恵也『日本的経営』日本評論社

ブレーバerman著、富沢賢治訳『労働と独占資本』岩波書店

小田教官担当研究指導

1. 研究主題

「日本とロシアの企業経営比較」:

現在、旧ソ連・ロシアの企業経営は、ゴルバチョフのペレストロイカや昨年「民主主義革命」、それに引き続くエリツィンの「市場経済への急進的移行」政策によってその環境が大きく変わりつつある。市場経済への移行に適合的な企業形態が模索されている。例えば、国有企業の従業員集団による買い取り・株式会社化、協同組合の結成、中小私企業の自由化等々。また、企業内の労働関係にも大きな変化が生じている。そのような変化への模索の中で、日本企業のあり方も一つの有力なモデルとして参考にされている。そうした状況において、今年、日本企業の経営体制とソ連企業の経営体制を企業形態論的視点（「所有—支配—経営の相互関連構造」視点）から比較検討することを試みる。

2. 指導要領

3年次：テキストの輪読

4年次：卒業論文の作成指導

3. 指導テキスト及び参考書

Paul R. Lawrence et al. Behind the Factory Walls : Decision Making in Soviet and US Enterprises. (Harvard Business School Press, 1990)

鶴野教官担当研究指導

1. 研究主題

企業の組織行動、組織構造の理論を取りあつかいます。

コンティンジェンシー理論により蓄積された研究成果を学習してもらった後、アンケート調査等で、実際の企業の行動戦略、組織構造設計、及びリーダーシップについてのデータを収集してもらい、そして、それらを多変量解析を使って分析してもらいます。

2. 指導要領

3年次及び4年次の前半：テキストを講読します

4年次の後半：卒業論文の作成の指導をします

3. 指導テキストおよび参考書

Judith R. Gordon, *Organizational Behavior, (Second Edition) Allyn and Bacon Inc. : Boston, 1987.*

岩田暁一、『経済学のための統計的方法』(第2版), 東洋経済新報社, 昭和58年.

二宮正司、『統計分析システム』, オーム社, 昭和63年

以上のテキストを予定しています。

久野教官担当研究指導

1. 研究指導

会計学(財務会計)

参考までに小生の現在の関心領域を示せば次のとおりです。

アメリカ会計史

会計原則構造論

財務諸表分析論

インフレーション会計論

2. 指導要領

3年次:

和書による基本的会計理論の修得と英書による読解力の養成

4年次:

卒業論文の指導—かくゼミナリストンの発表に基づく質疑応答と助言

3. 指導テキストおよび参考書

3年次の4月から使用する最初のテキストは武田隆二、『会計学一般教程(第2班)』(中央経済社, 1991)であるが、その他の参考書については、必要に応じて紹介する。

山本(真)教官担当研究指導

1. 研究主題

簿記論および財務会計論。

2. 指導要領

3年次前半：邦語文献の講読およびレポート

〃 後半：外国語(英語)文献の講読

4年次前半：上記の継続

〃 後半：卒業論文の作成指導

3. 指導テキストおよび参考書

邦語文献；飯野利夫著「財務会計論(改訂版)」(同文館)および「会計法規集」(中央経済社)。変更も有り得ます。

外国語文献；未定

松本教官担当研究指導

1. 研究主題

複式簿記原理、財務会計論および国際会計論

2. 指導要領

上記3つの研究課題について、数冊の文献の輪読および討論を重ねます。

なお、長期休暇期間中には、会計に関わる指定図書を読み、レポートの提出を求めます。

4年次生については、卒業論文の作成を最終目的として、各自の選択したテーマについて、発表と討論を重ねます。

3. テキストおよび参考書

上記の研究主題ごとに、以下の文献を取り上げる予定でいます。

〈簿記〉 久野光郎編著『簿記論講義』同文館

〈財務会計論〉 染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社

〈国際会計論〉 D. D. Alhashim & J. S. Arpan

International Dimensions of Accounting.

福島教官担当研究指導

1. 研究主題

原価計算および管理会計

会計関係の科目、あるいは商学コースの科目全般にいえることかもしれないが、原価計算あるいは管理会計といった実践性の強い分野を学ぶ場合、単に理論を理解するだけでなく、広く知識を身につける必要がある。

このため、ゼミ生には旺盛な研究意欲とならんで、地道な学習努力を要求する。

ちなみに会計学は商法や企業会計原則などに基づく制度会計と、そのような社会制度という側面を持たない情報会計とに分けることができる。管理会計はこのうち企業の自由裁量によって行われる情報会計に属しているが、原価計算の方は両者にデータを提供する境界領域にあると小生は理解している。

2. 指導要領

3年次の前半では基本的なテキスト(邦文)によって基礎知識を学び、その後半から4年次にかけて「管理会計」の英文テキストの輪読により知識を深める。引き続き卒業までに、各自選択したテーマで卒業論文を執筆する。

いずれの段階に於いても、知識の修得だけでなく、討論を通じて研究主題特有の考え方を培うことを目標にする。

3. 指導テキストおよび参考書

使用テキストは相談して決めるが、今のところ、邦文テキストとしてはH. T. ジョンソン、R. S. キャプラン著、鳥居宏史訳『レレバンス・ロスト 管理会計の盛衰』(白桃書房、1992)、R. W. スケイペンス著、石川純治監訳『管理会計の回顧と展望』(白桃書房、1992)、あるいはマレイC. ウェルズ著、内田・岡野共訳『原価計算の視座』(同文館、1992)等を考えている。

英文テキストはD. T. Decoster, E. S. Schafer and M. T. Ziebell, *Management Accounting: A. Decision Emphasis*, 4th ed., 1988

または、C. T. Horngren and George Foster, *Cost Accounting; A Managerial Emphasis*, 7th ed., 1991等を予定している。

片桐教官担当研究指導

1. 研究主題

商業・流通の理論的・実証的研究

2. 指導要領

3年次：商業・流通論の基礎知識を修得するために基礎的な文献を輪読する。またこの輪読・討議と並行して3年次後半に、グループで研究を行うことを設定する。

4年次：文献輪読・討論ならびに卒業論文作成指導

3. 指導テキスト及び参考書

最初は以下のテキストを予定しているが、ゼミ進行の中で2冊目のテキスト並びに基礎文献等を指示する。

徳永豊『アメリカの流通業の歴史に学ぶ』(中央経済社)

田中教官担当研究指導

1. 研究主題

公認会計士、税理士およびその他の会計スペシャリストに必要な簿記、会計学、原価計算および税務会計(特に法人税法)の基礎と応用について。

2. 指導要領

テキストの論説、討論と解説を中心として。

3. 指導テキストおよび参考文献

井上達雄・新井清光編著『検定簿記講義』(商業簿記2級, 1級, 会計学), 中央経済社
番場嘉一郎・岡本 清編著『検定簿記講義』(工業簿記2級, 1級, 原価計算1級) 中央経済社

PASS 1級課程『商業簿記』(問題集) 大原簿記学校

” 『工業簿記・原価計算』A, B, C(問題集) 大原簿記学校

武田隆二著『簿記一般教程』(改訂版), 中央経済社

武田隆二著『会計学一般教程』中央経済社

飯野利夫著『財務会計論』(改訂版), 同文館

岡本 清著『原価計算』(四訂版), 国元書房

山上一夫著『法人税法解説』税務研究会出版局

4. 留意事項

予習・復習は完全に実施すること。予習をしていない者は、ゼミナールに出席してはいけない。

伊藤(一) 教官担当研究指導

1. 研究主題

現代流通企業のマーケティングマネジメントの理論的・実証的研究

2. 指導要領

3年次：基本文献の輪読を通じ、現実の流通企業経営の中で利用されているマーケティングサイエンス理論の修得をはかり、マーケティングマネジメントとの関連を中心に研究を指導する。

4年次：卒論の作成指導

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト：

①嶋口充輝・石井淳蔵『現代マーケティング』(有斐閣)

②上田隆穂・江原淳『マーケティング』(新世社)

その他の流通分野、マーケティングサイエンス分野の文献は適時指示する。

井村教官担当研究指導

1. 研究主題
証券市場と金融システムの諸問題
2. 指導要領
2年間のゼミナールと卒業論文指導を通じて、証券市場を中心とした金融システムの側面から現代社会を「解剖」出来る基本的な考え方を身につけることを目標とする。
3. 指導テキスト及び参考書
当面、邦語文献を中心に基本文献の多読をすることとなるが、以下の文献を挙げておき、相談のうえ決定する。
①谷田,野田,久留間編『現代の金融 [上] 現代金融の制度と理論』, 大月書店, 定価2300円
②飯田裕康編『現代の金融一理論と実情』, 有斐閣ブックス, 定価2575円

黄教官担当研究指導

1. 研究主題
マーケティング論
2. 指導要領
3年次: テキストと各種文献を輪読し、全員で討論する。
(報告者と質問者は与えられたテーマについてレジュメの準備を要求される)
4年次: 各自の関心にしたがって卒論の作成を指導する。
3. 指導テキストおよび参考書
マーケティング戦略, グローバルマーケティング, 流通システム論などの分野の基礎文献と重要な英文論文をとりあげる。

中村(竜)教官担当研究指導

1. 研究主題
企業財務の基礎研究(B/SアプローチとValuationアプローチ)と実証分析とを主題とする。企業財務は、企業と経済の資金需給バランス、金利・株価・外国為替といった金融マーケット動向、金融システム(制度と慣行)の特徴に影響される。したがって、各国特有の企業財務の現状が存在し、財務理論にも若干特有が見られる。本ゼミでは以下の洋書、和書を輪読して、日米企業財務の理論と実践とを比較する。
2. テキスト
井手・高橋『ビジネス・ゼミナール 企業財務入門』, 日本経済新聞社, 1992年。
ニッセイ基礎研究所編『これからの企業金融・財務戦略』, 東洋経済新報社, 1992年。
S. A. Ross et al., *Corporate Finance*, Irwin, 1990

R. E. Litan, *The Revolution in U. S. Finance*, Brookings, 1991

3. 指導要領
3年次: 上の文献を輪読し、年度末までに卒論のテーマを各自決定する。参考文献を紹介するので、春休みに各自研究をする。
4年次: 4月中に各自が卒論の第1回目の報告をする。9月に第2回目の報告をし、年末に卒論を提出する。

渡辺(和)教官担当研究指導

1. 研究主題
リトルトン会計思想の研究
リトルトンは近代会計学の発展に多大の貢献をした会計学者である。その会計思想は現代の会計理論と密接なつながりをもっている。リトルトンの研究を通じて財務会計理論についての理解を深めることが本科目の主題である。
2. 指導要領
3年次前半: テキストにそくした報告と討議。
後半: 英語文献の講読。
4年次: 卒業論文の作成指導。
3. 指導テキストおよび参考書
テキスト: 拙著『リトルトン会計思想の歴史的展開』同文館, 平成4年。
参考書: 進度に合わせて適宜紹介する。

和田(完)教官担当研究指導

1. 研究主題
産業精神衛生
職場の心理的、物理的環境が、そこで働く者の精神的健康に与える諸影響について臨床心理学的立場から考察する。
2. 指導要領
3年次: 臨床心理学的知識の学習
4年次: 早期に卒論のテーマを決定し、それに関連する専門的知見の修得に当てる。
3. 指導テキストおよび参考書
原則として教室で用意する。

結城教官担当研究指導

1. 研究主題
近代立憲主義ならびに現代憲法における基本問題。
2. 指導要領
3年次生：テキストの項目を分担して報告と討論を行う。
4年次生：卒論を作成してその中間報告を行う。
3. 指導テキスト及び参考書
相談の上決定する。

秋山教官担当研究指導

1. 研究主題
テーマ：「国家賠償法の判例研究」
ねらい：違法な公権力の行使や欠陥のある公の施設に起因する損害賠償請求訴訟から、重要な興味ある事例を集め、具体的なケースの検討を通して、行政法の一般理論と判例法理を研究する。
2. 指導要領
毎回1件1人報告、それに基づくコメントとディスカッション。
3. 指導テキスト及び参考書
「判例時報」を使用する予定。具体的には、ゼミの際に指示する。

神田教官担当研究指導

1. 研究主題
財産法の領域を中心とする民法学上の重要問題の研究（但し、学生諸君の希望があれば、家族法の領域をとりあげる用意はあります。）
2. 指導要領
重要判例もしくは設例の分析・検討をとおして、民法の全体像、運用の実際を理解するとともに、民法学上の現代的課題を研究する。原則として、毎回2名から問題の分析・検討の結果を報告してもらい、それをうけて全体でその当否を論議し、問題点を究明するという手法をとる。なお、報告者以外の者からも、毎回、各自の意見要旨を提出してもらう。
4年次の後期以降は、主に卒論の指導に充てられる。参加者の数にもよるが、一人あたり3回ないし4回の中間報告を交互に行い、他からの意見やアドバイスをも消化しながら、完成をもっていくよう指導する。

3. 指導テキスト及び参考書

テキストは目下検討中（後日、掲示します）。

参考書として「民法の争点Ⅰ、Ⅱ」および「民法判例百選Ⅰ、Ⅱ」（いずれもジュリスト別冊）を用いることは確実なので、予め購入しておくこと。

藤原教官担当研究指導

1. 研究主題
財産法を中心とする民法学の基本的な論点の検討。
以上を通じての基本的な法的思考能力のトレーニングを目的とする。
2. 指導要領
レポーターの報告をもとにディスカッションをする。
3. 指導テキスト及び参考書
未定。但し、民法ゼミナール教材（有斐閣ブックス）、ワークブック民法（有斐閣選書）のような簡単な解説の付された問題集を考えている。

中村（恵）教官担当研究指導

1. 研究主題
「国際法上の基本問題」
2. 指導要領
3年次：国際法に関する外国語文献の輪読および国際法判例の研究。
4月次：卒業論文作成指導。
3. 指導テキストおよび参考書
文献および判例の検索方法を指導した後、各自が選択したものを使用します。

青竹教官担当研究指導

1. 研究主題
会社法の研究
2. 指導要領
会社法に関する判例及び具体的事例をテキストより取り上げて報告・討論し、会社法の専門知識と法的思考方法を身に付け、又、会社法が実際の企業活動においてどのような役割を果たしているかを知ってもらう。
3. 指導テキストおよび参考書
(1) ジュリスト別冊『会社法判例百選（第5版）』（有斐閣）
(2) 上柳・鴻・竹内編『会社法演習』（有斐閣）

町村教官担当研究指導

1. 研究主題
民事訴訟法
2. 指導要領
判決手続きに関する演習
3. 指導テキスト及び参考書
新選民事訴訟法演習（一粒社）

和田（健）教官担当研究指導

1. 研究主題
規制緩和と日本経済
—とくに金融業と運輸業に関して—
2. 指導要領
 - ・三年次の前半（あるいは少し延期されるかもしれない）で競争政策に関する勉強を行う。具体的には独占禁止法の研究。
 - ・その後上記テーマを研究する。
 - いくつかのtopicsに従い、文献を読んで報告・議論する。
3. 指導テキスト及び参考書
 - ・前半部では今村成和『独占禁止法入門』（有斐閣）をテキストにし、その他いくつかの参考文献を用いる。
 - ・上記テーマの研究の際は、著書、雑誌論文、新聞記事等、多数の文献・資料を用いるので、ここには記すことができない。ゼミ開講時に紹介する。

島田教官担当研究指導

1. 研究主題
研究テーマ 変容する労働社会と労働法
国際化、情報化の波を受けて、労働法は大きな変容期を迎えています。雇用機会均等法、労働者派遣法、育児休業法の制定、労働時間法の大幅な改正は、その動きを端的に示していると言えるでしょう。本ゼミでは、この現代労働法の流れを、特に国際比較をふまえて、動的に把握することを目指します。このことを通じて、現代日本における妥当な労働法解釈論、立法論を探って行きたいと思えます。
2. 指導要領
 - ① 判例研究 過去の重要判例及び最新の判例を教材として、労働法の仕組み、解釈論

の基礎を学びます。

- ② 労働立法研究 育児休業法、労働時間法等、最近の労働立法についてその制定過程、内容、今後の課題を研究します。
 - ③ 比較法制研究 本年度は次の比較労働法制の文献を講読します。
R. BLANPAIN, "Comparative Labour Law and Industrial relations in Industrialized Market Economies" vol. I (1990)
3. 指導テキスト及び参考書
別冊ジュリスト 労働判例百選（第五版）
別冊ジュリスト 労働法の争点（新版）
判例教材、英文教材等はその都度指示します。
参考書 菅野和夫 『労働法 第二版補正版』 弘文堂

久々湊教官担当研究指導

1. 研究主題
知的財産権の研究
（テーマ例）
著作権法関係：コンピュータ・プログラム、ビデオレンタル、キャラクター商品、タイプフェース。
工業所有権法関係：バイオ特許、欧州特許、電子特許出願、短ライフサイクル意匠の保護、サービスマーク。
その他：トレード・シークレット。
2. 指導要領
3年次：著作権法の判例研究を通して著作権法の概要を把握する。
4年次：広く知的財産権の中から卒論のためのテーマを選択し、前期はテーマとの関連で判例又は、文献を選定して研究発表し、討議を受ける。
3. 指導テキストおよび参考書
著作権判例百選（別冊ジュリスト）。（開講までに入手のこと）

清水教官担当研究指導

1. 研究主題
「国際経済法」
国際経済法という分野は、国際法のなかで国際経済関係の調整を目的とする部分とそれに関連する国内法を研究対象とすると考えられる。この研究指導においては、そのなかでも国際貿易の公的な制に関する法律問題を取り上げる。中心的な課題は、ガットとい

う法的枠組における貿易摩擦問題の取扱いと日本法、米国法、カナダ法、EC法等における関連問題の検討である。

2. 指導要領

3年次及び4年次前半：適当な文献（英文）を講読しつつ、ガットの紛争処理手続において扱われた具体的な事例等を検討する。

4年次後半：卒業論文作成の指導を行う。

桑原教官担当研究指導

1. 研究主題

国際取引法上の諸問題

より具体的には、国際的売買・国際的支払・国際的運送・国際的保険・国際私法に関する諸問題。

2. 指導要領

3年次および4年次前半：下記指導書の輪読

4年次後半：卒業論文指導

3. 指導テキスト及び参考書

指導書：高桑他編『国際取引法』（青林書院）

Schmitthof's Export Trade 9th ed.

参考書：澤田他著『国際取引法講義』（有斐閣）

猪股教官担当研究指導

『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第二版）』の中から、各自一つの判例を選び、それについて紹介・検討をレジメの形で提出してもらい、それを全員で討議する形で進行させる。このような過程において、特に興味を持ったテーマを、四年次には各自一つ選んでもらい、ゼミにおいて報告してもらおうとともに、卒業論文として仕上げてもらおうようにしたいと思っている。

臼木教官担当研究指導

1. 研究主題

刑法総論・各論の諸問題の研究。基本論点・重要判例・先端問題等を幅広く考察し、刑法の理解を深めることをねらいとする。

2. 指導要領

3年次及び4年次前半：まず文献・判例の検索方法を指導する。その後は毎回、各自が問題を選んで学説・判例の研究報告をし、それに基づいて討論を行ってゆく。

4年次後半：卒業論文作成指導。

3. 参考書

平野龍一他編『刑法判例百選Ⅰ総論（第三版）』有斐閣

平野龍一他編『刑法判例百選Ⅱ各論（第三版）』有斐閣

芝原邦爾編『刑法の基本判例』有斐閣

藤木英雄他編『刑法の争点（新版）』有斐閣

小暮得雄他編『教材刑法判例（第2版）』北海道大学図書刊行会 等。

田邊教官担当研究指導

1. 研究主題

商法に関する諸問題

2. 指導要領

下記の指導テキストから報告・討論してもらいます。

3. 指導テキスト

法学教室第106号から連載中の「特別講義商法」

渡辺（達）教官担当研究指導

1. 研究主題

「契約法の研究」

契約の基礎理論、裁判例、現代的な諸問題（消費者と契約、借地借家関係、新種の契約など）、外国法の状況などを考察する。[ただし、ゼミ員から希望があれば、これ以外のテーマも取り上げる。]

2. 指導要領

(1)ゼミ員による研究報告と質疑応答を中心とする。研究テーマの設定は、各ゼミ員の選択に委ねられる。

(2)研究報告の成果は、3年次に3回（6月、9月、1月の各月末）、4年次に1回（9月末）、レポートにまとめて提出のうえ、最終的に卒業論文として仕上げられることになる。

(3)なお、上の研究報告と並行して基礎文献～英語の文献が取り上げられることもあり得る～の輪読を行う。

3. 指導テキスト及び参考書

未定

若林教官担当研究指導

1. 研究主題

「管理科学の基礎的研究」

- ・生産在庫輸送計画とエキスパートシステム
- ・現代ゲーム論理の基礎と応用
- ・ハイパーメディアと印刷術
- ・データベースと暗号学
- ・UNIX と MS-DOS

2. 指導要領

- ・管理科学の幅の広いものの見方や考え方を養う
- ・英語論文・テキストの輪読と情報処理センターでの演習
- ・卒業論文の作成上の指導, プレゼンテーション
- ・NeXT ワークステーションの利用

3. 指導テキストおよび参考書

Robert Sedgewick *Algorithms Addison-Wesley.*

戸島教官担当研究指導

1. 研究主題

数式処理システムおよびそれを効率よく走らせるための Lisp 処理系 (インタプリタとコンパイラ) の研究と開発。

2. 指導要領

数式処理システムは REDUCE を対象とし内部構造を解説する。Lisp に関しては, Basic, Pascal, C 等で記述された小規模な Lisp インタプリタを対象にその機能を拡張し, それらの上で Lisp で記述された Lisp コンパイラを走らせる。コンパイラは新しく開発するものか既存のものを使用する。

3. 指導テキストおよび参考書

必要に応じてその都度指示するが, 次の文献は Lisp プログラミングを行う者にとっては必読の書の一つである。

Winston and Horn, LISP (2nd Ed.), Addison-Wesley, 1984.

なお, REDUCE については

Anthony C. Hearn, REDUCE User's Manual Version 3.4. RAND. 1991.

が基本である。

沼田教官担当研究指導

1. 研究主題

オペレーションズ・リサーチ

オペレーションズ・リサーチ (OR) は, 人や組織が行動するとき, 資源 (原材料, 資金, 人手, 時間 etc) の無駄使いを減らし, かつ目的をよく (Well) 達成するための方策を研究するものです。

2. 指導要領

OR の考え方を身につけ, 広く手法を学び, 適用対象について考察する。

3 年次: 英文のテキストにより, 基本的な勉強をする。

4 年次: できるだけ早期に卒論のテーマを決め, 現実問題に則した勉強をする。

3. 指導テキスト及び参考書

未定, もちろん訳本のないものを使用する。

杉本教官担当研究指導

1. 研究主題 情報処理の理論と応用

生物, 企業体, プロジェクト, ロボットなどのような自律的な組織体は, 自己の目的を達成のために, 外界から情報を取込み, それらを加工・蓄積・評価・変換などの一連の処理が必要です。これを情報処理といいます。コンピュータは, 情報処理の機械化・自動化の道具です。コンピュータ処理が組織体のデータ処理や統計処理などの部分的なシステムを対象とするものであったり, 人間の知的な活動を模倣するというような全体システムを対象とするものであったりします。

コンピュータをいろいろな分野に利用するには, コンピュータと対象システムについての理論と応用技術が必要です。特にこれからは, 人間の知識に関する情報処理が必要になります。

2. 指導要領

【入門コース】

- ・パソコン入門・Pascal プログラミング

【実力養成コース】

- ・抽象化設計法の理解を目標に製作課題をこなします。
- ・データ構造の学習・種々のプログラミング言語にふれる。

【応用発展コース】

卒論として, 以下の項目を1つ選び, 理論的勉強と開発を行う。

- ・ゲームやエキスパートシステムなどの人工知能
- ・自然言語解析や理解システム ・データベースシステム
- ・オブジェクト指向プログラミング

3. 指導テキストおよび参考書

(1) TURBO PASCAL トレーニングマニュアル

その他のテキストは、ゼミ開始時点で相談し決定する予定。

加藤（修）教官担当研究指導

1. 研究主題

地域計画科学及び意志決定にかかる数量化技法などの研究：計画科学の方法論、とりわけ魅力ある地域形成に向けて策定される計画そのものと、その計画づくりの際に適用される種々の数量化技法についてできるだけ具体例を用いて学習する。輪読方式（和・英併用）。また、社会情報の収集・処理・並びに効果的利用のあり方などについても触れる。

注）より現実的、操作性を考えるため極端に難解な数学的アプローチはとらない。

2. 指導要領

卒論のテーマ及び使用テキストなどは適宜相談して決定する。

3年次：調査研究資料を含めた使用テキストを決め輪読方式で研究し、地域開発プロジェクト策定のなかで適用されている技法の研究を中心に行い、議論を通して卒論テーマ設定に向けた絞り込みを行う。3年次末を目途に卒論テーマを決める。

4年次：各自の卒論の作成・報告を行う。

前年度、3月に決定している卒業論文のテーマについて以下の項目に従って整理していく。

- 1) 目的（計画情報の創出の視点から）
- 2) 課題・論点
- 3) 三ポイント表現（くだけた表現－就職面接対応用）
- 4) キーワード、キャッチフレーズ
- 5) 想定しうる目次
- 6) ユニーク性（自分の卒論の売り込む点、目玉）
- 7) アイデアの必要性
- 8) 適用計量化技法
- 9) データの存在
- 10) プログラムソフトの有無（ソフト開発が目的でない）
- 11) 野外調査の必要
- 12) 関係官庁との関係
- 13) 作業量（全体、議論、アンケート、インタビュー調査）
- 14) 想定しうる作業行程
- 15) やりがい度
- 16) 文献検索・整理
- 17) 期待される具体的成果（3点）

18) 今後の応用的展開性

19) 就職分野との関連からの応用的展開性

20) 今後の研究課題（後輩への「卒論」の課題継承）

3. 指導テキストおよび参考書

特にないが、以下のものを適宜参考にする場合がある。

- 1) 計画科学，開発計画などにかかる調査研究レポート。
- 2) 各国学会論文（英）など。

中村（隆）教官担当研究指導

1. 研究主題

「情報処理に関する基礎的研究」

データ構造

遺伝アルゴリズム

ニューラル・ネットワーク

2. 指導要領

3年次：テキストの輪読と演習

4年次：卒業論文作成指導

3. テキスト

未定

奥田教官担当研究指導

1. 研究主題

生産システムに関する研究

物（一般的な品物に限らず情報やサービスを含む）を製造するシステムである生産システムを対象にした生産計画，生産実施，生産管理の理論的研究を行う。

2. 指導要領

3年次：テキスト輪読，文献紹介を通じて各自の卒論のテーマを選択する。

4年次：卒論のテーマに関する文献紹介および研究報告を行い卒業論文を作成する。

3. 指導テキスト

人見勝人：入門編生産システム工学，共立出版，（1991）

J. Heizer and B. Render：Production and Operations Management 2nd ed. Allyn and Bacon，（1991）

行方教官担当研究指導

1. 研究主題

ゲーム理論に関する基礎的研究。

2人零和ゲーム、非協力ゲーム、均衡点、協力ゲーム等のゲーム理論の基礎的な考えの理解と応用を目的とする。

2. 指導要領

分担を決めてテキストを読み進める。その際分からないところと分かるところをはっきりさせることが重要である。更に、現実のどの面をどのようにモデル化しているか、捨象された部分はどこか、利用されている数学的手法は何か、に注意することも重要である。数学的な理解よりもモデル化の意味合いをつかむことのほうがもっと重要である。

以上の事に留意しながらゼミを進める。

3. 指導テキスト及び参考書

3年次：“Game Theory and Economic Modelling” by David M. Kreps 1990.

4年次：“Game Theory” 2nd ed. by Guillermo Owen 1982.

山本（清）教官担当研究指導

1. 研究主題

組織活動の情報経済学アプローチ特に、業績給制度の有効性についての理論的、実証的研究。この他、非営利組織、政府の業績測定、評価システムの開発と効果についての総合的研究

2. 指導要領

基本的には、多くの学生は研究者になるのではないから、広く社会的常識と教養を身につけることをモットーとする。その中で、組織と情報とのかかわり合いについて何かテーマを見いだして考察する経験を積むことを目標とする。

3. 使用テキストおよび参考書

3年次；① N, Carter, R, Krein and P, Pay. , How Organizations Measure Success 1991, Routledge

4年次；② J, Hirshleifer and J, G, Riley, The Analytics of Uncertainty and Information, 1992, Cambridge

清水川教官担当研究指導

1. 研究主題

統計学

2. 指導要領

統計手法の使い方を学ぶ。

3. 指導テキスト及び参考書

未定

永原教官担当研究指導

1. 研究主題

英米小説及び文芸批評

2. 指導要領

3年次：毎週小説一遍を読み、発表・討論を行って文学研究の基礎を養成し、あわせて現代文芸批評についても指導する。

4年次：各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を最終目的として報告と討論を中心にする。

3. 指導テキスト及び参考書

C. Brooks & R. P. Warren, Understanding Fiction (Hold, Rinehart and Winston, 1976)

E. M. Forster, Aspects of the Novel

Wayne C. Booth, The Rhetoric of Fiction

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

君羅教官担当研究指導

1. 研究主題

英文学（シェークスピア及び英詩）

2. 指導要領

3年次：毎週英詩数編を読み、発表・討論を行い、英詩の分析法を中心に文学批評・研究の基礎を養成する。

4年次：前半は3年次と同じ内容を続け、後半からは各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を完成させるための報告と討論を中心にする。

3. 指導テキスト及び参考書

C. Brooks & R. P. Warren, *Understanding Poetry*, 4th ed. (Holt, Rinehart and Winston, 1976)

F. T. Palgrave, *The Golden Treasury*. Oxford University Press.

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

志子田光雄『英詩理解の基礎知識』（金星堂）

山本（久）教官担当研究指導

1. 研究主題

生成文法論

2. 指導要領

3年次：毎週生成文法に関する論文を読み、生成理論の基礎を養成する。

4年次：各自の研究テーマについて卒業論文（英文40枚程度）を最終目標として報告と討論を中心にする。

3. 指導テキスト及び参考書

Andrea Radford: Transsuformational Grammar.

原田敬一訳『MLA新英語論文の手引き』（北星堂）

8 一般教育ゼミナール

一般教育ゼミ（ドイツ語）

助教授 鈴木 将 史

・ドイツ語コロキウム

語学を習得するには並々ならぬ努力が必要ですが、忘れる段になるとそれは実にあっけないものです。2年間コツコツと勉強してきたドイツ語の力を、更に伸ばしていこうという学生もいるでしょう。そこで、ドイツ語I・IIを終了した学生を対象に輪読会を開催します。テキストは普遍的なものを予定。適宜脱線しながらも、ドイツ語及びドイツ文化の醗醒味を味わうことができると考えています。参加希望者は4月13日（火）17:00に私の研究室（新研究棟357）に来て下さい。

一般教育ゼミ（数学）

助教授 池 田 薫

Soliton方程式の勉強をしましょう。Soliton方程式とは非線型ではあるが、積分可能である、ある一群の微分方程式達につけられた名称です。Solitonとは孤立波の意味であるSolitary waveに粒子を意味する接尾語-onをつけた造語です。今から100年程昔イギリスのラッセル卿が運河を形を変えずに伝わる波を馬に乗って追いかけて観察したのがSoliton（むろん当時はこの用語はなかったが）の研究のはじまりだともいわれています。形をかえずに伝わる波のことを進行波といいます。通常のというよりも理想的状態の下で記述される波動方程式に従う進行波はその速さが波の形状によらず一定ですが運河などにみられる進行波の特徴は高い波は低い波より速くすすむということです。こうした形状により速さがことなる波を記述する方程式として次の方程式が1895年に提案されました。これをKdV方程式といいます。

$$\frac{\partial u}{\partial t} = \frac{3}{2} u \frac{\partial u}{\partial x} + \frac{1}{4} \frac{\partial^3 u}{\partial x^3}$$

一方理想的状態での波動を記述する方程式は $\frac{\partial^2 u}{\partial t^2} = h^2 \frac{\partial^2 u}{\partial x^2}$, hは波の速さをあらわすパラメータと、なります。後者は方程式の中にuもしくはその偏導関数に関して一次の項しか出てきません。このような方程式のことを線型方程式といいます。KdV方程式の中には $\frac{3}{2} u$, $\frac{\partial u}{\partial x}$ という項がふくまれています。このような項を非線型項といいKdV方程式は非線型方程式とよばれています。線型方程式においてなめらかな初期条件を与えると方程式の解は大体いつまでたってもなめらかな形状をたもっています。しかし非線型方程式ではなめらかな初期条件を与えても有限時間のうちに解がくずれてしまい解析不能の状態におちいてしまうことがよくあります。KdV方程式は非線型方程式にもかかわらずいつまでたっても崩壊することのないなめらかな解をもっています。実はよく知られた関数を使って解を具体的に書き下すこともできます。このことを積分可能といいます。形をかえずにすすんで行き高い波が低い波にぶつくと有限時間のうちに高い波が低い波を追い抜きふたたび何事もなかったかのようにすすんでいくこのような解をSoliton解といいます。KdV方

程式以後Soliton解をもつ非線型方程式が続々と発見され現在それらはSoliton方程式と呼ばれています。ところで微分方程式が積分可能ということはつまり微分方程式が解けるということです。19世紀フランスの数学者ガロアは代数方程式(中学、高校でならった2次、3次、4次、5次、…の方程式のこと)が解けるための必要十分条件を示しました。彼の理論によれば代数方程式の可解性はガロア群による対称性に支配されています。他方Soliton方程式の積分可能性のうらには無限次元の一群の対称性がかくされています。実はこの無限次元の群のおかげでSoliton方程式は現在華々しい成華をおさめつつある数理物理学の礎石たりえたのです。

テキストは戸田盛和著「非線型波動とソリトン」日本評論社を使います。本の中にかかれています計算を一つ一つ丹念に追っていけば全体が理解できるようになっていると思います。まあそれはそれでしんどいですが少なくとも専門用語がわからず前に進めないということはありません。テキストをすべて読むというのではなく進めるところまで進むという安易な気持ちではじめましょう。少しでも興味をもたれた方は4月30日PM4:30に私の研究室532までいらして下さい。

VII 平成5年度開講科目(夜間主コース)の講義要目

目 次

1 一般教育科目	163
2 外国語科目	165
3 保健体育科目	169
4 基礎教育科目	171
5 専門教育科目	175

1 一般教育科目

歴史学

助教授 荻野 富士夫

本年度の前半は、「日本近現代史への新視覚」と題し、一週一テーマを原則に、最近の新しい研究で開拓された分野の諸問題を取りあげます。女性史、生活史、社会史などを基軸に“受験の歴史”とは異なった歴史像の一端を明らかにしていきます。

後半は、「北海道史」をテーマに、近世以降の、北海道特有の問題をあつかい、従来の中央・国家の歴史を相対化します。北方史の概念、アイヌの人びと、“半植民地”としての近代化、北の思想と文化、開拓・開発を担った人びと、小樽の変遷、小樽高商の歴史、強制連行された朝鮮人・中国人など。

評価の方法は、④日本近現代史に関する自由研究——400字詰原稿用紙30枚以上、⑤日本近現代史上における古典的著作ないし研究書（新書程度）に対する批評的レポート——同30枚以上、のいずれか選択と定期試験、および月一回程度実施するアンケートの提出状況とします。いうまでもなく、レポート類はオリジナルなものに限ります。

フランス文学

教授 高橋 純

「小説、それは道に沿って持ち回る鏡である」という17世紀の作家・歴史家サン＝レアルの言葉は、文学の有する機能の一面を言い当てていると思われるが、この「鏡」は、目に見える時勢のみならず目に見えない多様な世界をも映し出す独自の装置であるとも言えよう。本講義ではフランス文学の歴史を概観し、いくつかの主要作品を取り上げて吟味しながら、個人的創造であると同時に社会的産物でもある文学がわれわれ読者にもたらす経験について多角的に考察してみたい。

最少限の参考文献として、「増補フランス文学案内」（渡辺一夫、鈴木力衛著、岩波文庫）を挙げておきます。

社会学

助教授 宝福 則子

前期は、発展途上国の諸問題をテーマに講義をすすめる。発展途上国をどのように捉えるかによって、「第三世界」「開発途上国」、ときには「後進国」という呼び方をするひともいる。この問題についてのさまざまなアプローチの仕方を紹介し、社会学的なものの見方や捉え方、分析法を知ってもらう。いわば、発展途上国というひとつの題材を使って、これをどのように社会学風に料理するかを学んでほしい。

後期は、受講者が関心をもっているテーマについて、グループ別にレジュメを作成し、口頭発表してもらう（個人別でも可）。それを最終的には個人別に学術小論文にまとめることを義務づける。大まかなテーマについては、講義中に提案し、各人に決めてもらう予定。かならずしも発展途上国に限らず、身近な問題でよい。

参考書：川田侃／石井摩耶子 編 『発展途上国の政治経済学』 東京書籍 1991年

レスター・R・ブラウン 著／竹内均 監修 『レスター・ブラウンの環境未来予測』 同文書院インターナショナル 1992年
笹谷春美／吉崎祥司／藤井史郎／小内透 編集 『変動期の社会学』 中央法規出版 1992年

政治学

非常勤講師 坪井主税
(札幌学院大学助教授)

政治とは、「島原の火山爆発」や「釧路の地震」のような自然現象ではなく、「湾岸戦争」や「ユーゴの紛争」のような人為的現象である。されば、政治を良くするも悪くするも、その主体は、神・仏ならぬ人間である。人間には、一方に、権力と暴力（すなわち、銃と抑圧）そして金に物言わせて政治を左右する者がいる、が他方に、連帯と非暴力行動と（平和や人権などの）人類的・普遍的価値（観）を“武器”に政治を変革せんとする者もいる。本講座は、後者の人間の挑戦に光を当てる。誰が、いつ、どんな政治課題をどんな風に挑戦したのか。そしてその結果から、私達はどんな教訓を学べるのか。たとえば君は、ペトラ・ケリーを知っているか。詳細は、最初の2時間のオリエンテーションで。

化学

教授 片岡正光

科学技術の発展によって私達は、人類がかつて経験したことのない豊かな暮らしをしている。私達の身の回りの化学技術を利用した製品はもとより、自然界に存在しているものはすべて化学物質である。化学は衣・食・住や生物・医学等の分野に深くかかわっており、私達の日常生活と密接に関係している。化学に関する基礎的な知識は、化学とは縁遠い分野で活躍しようとする人であっても、現代社会を生きてゆく上で必要である。講義では化学の基礎を平易に解説するとともに、学生諸君が興味を有しているであろうと思われる、地球規模の環境汚染の問題やエネルギー問題、超伝導物質、新素材、化学センサーなどの現代化学のトピックスについても解説する。またビデオを使って最新の化学分析法を紹介する。なお、出席を重視するので、履修者は毎回当席のこと。

教科書：多賀光彦・玉岡正光・金谷憲一著

「教養の現代化学」(三共出版) 定価¥2100

2 外国語科目

英語 I

◦ E10A 助教授 下村 五三夫

テキスト：ロウゼル著 *Revolutions, Dictators, and Two World Wars* (英宝社)
第1次世界大戦の直前から第2次世界大戦終結までの世界史を英語で学びましょう。欠席は前期・後期合計して6回まで許します。成績は定期試験の成績と授業への参加態度を総合して評価します。

◦ E11A 助教授 高井 収

教材は未定。具体的な授業計画は最初のクラスで説明しますので受講生は必ず出席する事。

◦ E10B 助教授 大島 稔

授業内容：

聴解能力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストはもちろん、和文英訳、対話の書き取りの練習問題が用意されています。テキストの内容は、Jo-Ann という大学生が語るエッセイの形で恋愛、結婚、出産、誕生日、祝日、就職など「人の一生」についてです。

全体で20課から成り、授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定：

評価は、定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

テキスト：Kess, J. F. & A. M. C. Kess: *American Life Cycle*. 成美堂

◦ E11B 助教授 下村 五三夫

テキスト：オググ著 *The 26 Letters—Origins of the Alphabet* (南雲堂)

古代エジプト、フェニキア、ギリシャの文字を例に文字の歴史を学びましょう。欠席は前期・後期合計して6回まで許します。成績は定期試験の成績と授業への参加態度を総合して評価します。

◦ E12A 非常勤講師 布施 英憲
(藤女子大学教授)

田所 稔編 *The Happy Prince & Other Stories* 太陽社

- (1) Oscar Wilde の童話「忠実な友達」を丁寧に講読する。
- (2) 英語らしい生きた口語表現形式の理解と習得につとめる (75題)。

(3) 英語の Idiom の構造とその特徴について、理解と知識を深める (英語小冊子を使用する)。

(4) TOEFL のテープを使用して、英語聴解力について理解を深める (年間、数回実施)。

(5) テキストの Reading を特に重視する。

(6) 夏期・冬期休暇中に自学自修してもらった課題もあります (TOEFL の問題)。

E. Wiechert 「童話の世界とは奇蹟や魔法の世界ではなく、究極の偉大な正義の世界である。」

参考書 : E. C. Gruber, TOEFL, Monarch Press

◦ E12B 非常勤講師 坪谷 雍子
(静修短期大学助教授)

Text : Hall Edward T. "Hidden Differences" (Doubleday)

The best writing of Hall will explore your rapid and creative reading.

Class attendance is "must". You will be graded by your class attendance and weekly reports.

英語 II

◦ E21A 助教授 大島 稔

授業内容 :

聴解能力の習得を主たる目的とする授業で、テープ聴き取りによる内容把握テストはもちろん、書き取り練習及び英語のリズムを習得するための口頭練習が用意されています。

テキストの内容は、「アメリカ・カナダ事情」で、海外研修や海外旅行に行く事の多い、二つの隣国の歴史・地理・生活についての記事で、前半がアメリカ編で、後半がカナダ編である。英語の能力検定試験や TOEFL などの聴解力試験にも役立つ内容である。

全体で20課から成り、授業は毎週1課ずつ進みます。テープによる予習を前提にしているので受講者には予習が欠かせません。

評価と単位の認定 :

評価は、定期試験期間中の聴解力試験及び授業中の積極性によって総合的に評価します。

テキスト :

Saito, Kimie 他 : *Voices from America and Canada: From Listening to Speaking*, 朝日出版

◦ E22A 助教授 高井 収

教材はアメリカの教育問題をテーマにした映画 *Lean on Me* を使用し、各場面ごとの要約作成を授業活動の中心とします。自然なスピードで話される英語を聞き取る練習も授業活動の中に入れ、教科書は使わず適時プリントを配布します。また、クラスではグループ活動を中心にレポートと発表に重点を置き、英語による自己表現力を養成していきます。

なお、具体的な授業計画表は最初のクラスで渡し、説明します。

◦ E21C 外国人教師 Michael Carr

Richards, *Interchange 1*, (Cambridge University Press)

This course will emphasize functional communication in English. Attendance and participation are required, and only three unexcused absences will be allowed. Grades will be determined from weekly tests in the language laboratory, roleplays, and other activities.

◦ E22C 外国人教師 Diane Cammarata-Charlesworth

Levine, Baxter and McNulty, *The Culture Puzzle*. (Prentice Hall Regents)

This course is designed to help students develop competence in language fluency and conversation while gaining an awareness of cultural differences. No more than two unexcused absences will be accepted. Grades depend upon participation in class exercises and quizzes.

◦ E23C 非常勤講師 Catherine G. Miles

Jack C. Richards, *Interchange 2* (Cambridge University Press)

This course is designed to promote functional English conversation. Emphasis will be placed on both speaking and listening comprehension to complete the communicative process. Students will work in pairs and small groups in both controlled and creative situations. Participation and attendance are mandatory in order to satisfactorily complete the course.

ドイツ語 I

講師 副島 美由紀

教科書 : 関口一朗著「コミュニケーションのためのドイツ語」(三修社) ¥1,700

これまで習得した言語(日本語・英語)を相対化し補強するための第三の支柱として第二外国語が重要なのは言うまでもないことですが、この授業では特に自らドイツ語を「使う」ための基礎知識の習得をめざします。発音練習から始まり、会話練習や作文等、つねにアクティヴであることが求められる授業展開となるでしょう。コミュニケーション能力の養成という点に重点が置かれていますが、それは何よりも他人の言説に興味を持ち、人に伝えたいメッセージを自分の中に育むといった柔軟で積極的な精神を要請するものであることを忘れないでください。

フランス語 I (火曜日)

教授 江口 修

用書 : 内藤・玉田著『フランス語へのパスポート』(白水社) ¥1,600

将来独習できるための核となる基本的ことがらが身につくようにして行きましょう。

フランス語 I (木曜日)

講師 尾形 弘人

テキストは使用しない。教室でプリントを配布。

中国語 I

助教授 裴 崢

教科書：「言える中国語」 榎本英雄著 (同学社)

中国語の「実用」に力点をおいた入門テキストです。必要な文法を通じて、中国語の基本構造をつかみ、しゃべれることを目標に授業を進めます。

中国語 I

講師 萩原 正樹

まず中国式ローマ字による音節表記を学び、中国語の発音が正しく出来るようにする。続いて基礎語法及び基本文型について順次勉強していきたい。入門段階の語学はとりわけ積み重ねが大切であるから、出来るだけ続けて出席することが必要条件である。

また、言葉の学習を通して、ぜひ中国の政治や歴史、文化等について興味を持ってもらいたい。ただ授業を聞くだけでなく、積極的に参加することが、語学上達の近道であろう。

教科書：「今日漢語」小川郁夫・馬鳳如著 (白帝社)

他に辞書も購入してもらう必要があるが、詳しくは開講時に説明する。

3 保健体育科目

体育実技 I・II

教授 田野 有一
助教授 花輪 啓一
助教授 中川 喜直

1. 履修方法について

- ・必修科目。コース別(種目選択別)履修制。毎週1回。所定のクラス(時間)で履修。1年次通年履修…前期「実技①」+後期「実技②」。2年次前期履修…「実技③」。
- ・「実技①, ②, ③」のすべてが合格した場合に『体育実技の2単位認定』がなされる。なお、1年次分終了時点での分割単位認定はしない。
- ・前期・後期ともに履修学生を半数に分け、期ごとに担当教官が交替する。

2. 共通実施種目と内容

- ①共通種目…「オリエンテーション」「体力診断テキスト」(通年授業で)
「水泳」「スキー」(集中授業で)
- ②体力テスト…反復横跳び・垂直跳び・背筋力・握力・伏臥上体そらし・立位体前屈・踏み台昇降運動…の7種目。春・秋の二期に実施。
- ③集中授業…1・2年次とも「水泳」「スキー」の二者択一制。

	水 泳	ス キ ー
実施期日 (予定)	7/23・7/24…1年次生 7/26・7/27…2年次生	1/12・1/13…2年次生 3/3・3/4…1年次生
履修日	指定日の2日間(半日毎)	指定日の1日間(単日)
会場	本学;室内(温水)プール	朝里川温泉;スキー場
履修方法	昼間コース(学生)合併授業	
指導体制	班別(技能別)…非常勤講師が加わる	

〔水泳実技内容〕

班区分	実 技 種 目
初 級 班	立ち方, 背浮き, 伏し浮き, 簡易泳法, 体位変換
中 級 班	クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, 横泳ぎ, 潜行
上 級 班	クロール, 平泳ぎ, 背泳ぎ, 横泳ぎ, バタフライ, 潜行, ターン

*班区分については、履修数・技能程度により変更がありうる。

*実技テスト種目…泳法(数種目)、ならびに距離泳を実施する(各班とも)。

〔スキー実技内容〕

班 区 分	実 技 種 目
初 級 班	歩行, 方向転換, 転倒法, ブルーク, ボーゲン, シュテム・ターン
中 級 班	斜滑降, シュテム・ターン, 横滑り, パラレル・ターン
上 級 班	パラレル・ターン, ウェーデルン, 発展技術 (各種)

* 班区分については、履修数・技能程度により変更がありうる。

* 実技テスト種目…ボーゲン, シュテム, パラレル, ウェーデルンの中から指示される。

3. 種目 (選択) 別『開設コース』について

◆ 1年次・2年次ともに、『軽スポーツ』、『レクリエーション』の2種目を開設する。

〔コースの実技内容〕

☆ 軽 ス ポ ー ツ

さまざまなスポーツを体験し、生涯に亘って楽しみながら続けられる生涯スポーツの習得を目指している。具体的にはソフトボール、バレーボール、サロンフットボール、バスケットボール、ユニホックなどを取り上げ、この他ユニークなスポーツ種目なども取り入れたい。

☆ レ ク リ エ ー シ ョ ン

鬼ごっこ形式のゲーム、グループゲーム、ウォークラリー、軽スポーツなどを通して、ただ単に笑いを提供するのではなく、お互いに協力して、人と人とが接し、交わり、お互いに作用しながら自然に人間交流を深めていく過程で自分の心身 (体力と健康) に気付くようにしたい。

4 基礎教育科目

経済学概論

(前期) 助教授 板谷 淳一

ミクロ経済学に関する入門レベルの講義を行う。特に、需要、供給分析 (部分均衡分析) と消費者行動理論の解説を行う。また、ミクロ経済理論を現実の経済問題や経済現象への応用に重点をおく。具体的な内容は以下のようになる。

1. ミクロ経済学とは何か
2. 需要、供給分析について
3. 需要、供給分析の応用
4. 需要曲線と消費者行動理論
5. 無差別曲線と効用最大化仮説
6. 不確実下の消費者行動理論
7. 消費者の貯蓄行動

(テキスト及び参考文献)

倉沢資成『入門 価格理論 第2版』日本評論社, 1988

伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社, 1992

林敏彦『需要と供給の世界』日本評論社,

岩田規久男『ゼミナール ミクロ経済学』日本経済新聞社, 1993

H. L., Varian Intermediate Microeconomics: A modern approach, Norton, 1990

経済学概論

(後期) 講師 角野 浩

本講義では、今日の経済社会で生じる様々な経済問題に対して問題意識を深めることを目的とする。後期では、前期で講義される内容を考慮し、引き続き入門レベルのミクロ経済学についての解説を行う。講義内容は、主に企業による財・サービスの供給量を決定する要因についてである。以下の講義項目を予定している。

1. 費用と供給
短期と長期の費用、供給と費用の関係、供給の原理
2. 生産と費用最小化
生産技術の性質、企業の利潤最大化問題、費用最小化の条件
3. 費用曲線と供給曲線
限界費用と平均費用、短期と長期の費用曲線の関係、競争的企業の供給曲線
4. 競争市場と市場均衡
完全競争市場、競争市場と短期均衡、市場の調整
5. 長期均衡の性格
長期供給曲線、企業の参入・退出行動、長期均衡への調整

テキストおよび文献

倉澤資成 『入門 価格理論』(第2版) 日本評論社、1988.

岩田規久男 『ゼミナールミクロ経済学入門』日本経済新聞社、1993.

商学概論

(前期) 教授 小田 福 男

(中期) 教授 山本 真樹夫

(後期) 助教授 高宮城 朝 則

この科目では商業・経営・会計に関する入門的な内容を講義する。それぞれの分野ごとに3名が分担しているので、受講者は各分野の相互関係に絶えず注意を払うようにしていただきたい。各担当者の講義目的・内容は次のとおりである。

I 経営学部門(4月～6月末)

担当 小田福男

今日の日本経済はバブル崩壊後の調整局面にある。世間では不況感が蔓延している。また大幅な貿易黒字を解消するよう求める海外からの圧力がますます強まっている。このような経済状況の中で日本の企業経営も転換期を迎えている。会社本位の経営システムをどうするのか。バブル崩壊後の不況にどのように対処するのか。様々な問題に直面している。そこで、本講義では今日の日本企業の様々な模索を具体的に把握しながら、その経営学的意味を考えていくことにする。

教科書：『日本経済新論』(日本経済新聞社、1992年、1,500円)

II 会計学部門(7月～10月末)

担当 山本真樹夫

会計とは企業活動を金額的に計量化し、企業内外のさまざまな利害関係者の意思決定に役立つ情報を生産することに関わる活動である。会計を理解するためには、少なくとも以下の2つの側面を考える必要がある。1つは、会計情報はどのように役立っているのか、あるいは役立つべきなのかを考えることであり、もう1つは、会計情報はどのように生産され、あるいは生産されるべきなのかを考えることである。講義ではテキストを参考にしながら、以下の順序で会計について考えていきたい。

- 1 企業会計とは
- 2 財務諸表の内容
- 3 簡単な財務諸表分析
- 4 複式簿記の仕組み
- 5 帳簿と企業組織
- 6 社会制度としての企業会計

テキスト：久野光朗編著『簿記論講義』(同文館)

III 商学部門(11月～2月末)

担当 高宮城朝則

商学に関わる学科目は流通、マーケティング、貿易、保険、交通、証券、銀行など、一見すると無関連に見えるほど多岐にわたっている。しかしこれからの根底には共通した視座がある。それは財の社会的移動とそれに関わる人間行動を解明しようとすることである。

本講の商学部門では、商学の関連学科目を学習する上で必要な基礎知識として、まず財の

社会的移動との核心である取引について、次に専門分化した各学科目の研究内容・方法・課題について説明し、最後に商学研究の現代的課題について検討する。

講義項目は以下のとおりである。なお、テキストは特に指定しないつもりである。

1. 商学の認識対象と研究体系
2. 取引の基礎的考察：交換と商業、取引の分析
3. 商学の諸学の基礎：研究課題と研究方法
4. 社会科学の研究方法(時間に余裕がある場合に講述する)

法学概論

(前期) 助教授 藤原 正 則

(後期) 助教授 白 木 豊

「法」は社会規範、すなわち社会生活を営む上でのルールです。しかもそれは他の多くの社会規範とは異なり、強制的な通用力をもった社会規範です。日々生活するときふだんは全く意識しませんが、実は法はさまざまな領域で私達に関わっています。「法学」と聞くと、条文暗記や難解な解釈論に終始する窮屈な学問と思いがちですが、決してそうではありません。法は現実の社会を対象とするものですから、法を学ぶことは、つまり法という枠組で人間社会を考えることなのです。

この講義は、法的な考え方の基礎を習得するため、法の仕組みや内容の概略を説明するものです。

テキスト：荘子邦雄編『事例で考える法学入門(改訂増補版)』(青林書院)

社会情報概論

(前期) 助教授 奥 田 和 重

本講義は、現代社会の特徴である「システム化」と「情報化」を対象としており、特に前期では「システム化」を取りあげ、その方法論と計画技法について解説する。講義内容は、

- ①社会におけるシステム化の概念
- ②システムの分析、構築、最適化のための方法論
- ③組織の設計、構築、評価を行うための方法論

を予定している。

教科書：プリントを配布する予定

参考図書：沼田 久：『増訂 マネジメント・サイエンス』(富士書院)(1991)

社会情報概論

(後期) 教授 若 林 信 夫

目的：一般教養としての情報処理・情報システムの理論と実践を学ぶ。

概要：パーソナルコンピュータ、ワークステーション、汎用計算機等、さまざまなコンピュータが身近にある。それらが社会に与えている影響やこれからの社会でどんな位置を占めるかについて最近の話題を交えながらVTRを使って一般常識を学ぶ。また、小樽商科大学の情報処理センターのパソコン機器に実際にさわって、キーボードの使い方と(ブラインド)タイピングの練習、文書の入出力を行う。

ワープロ、表計算、グラフ、データベースの「いろは」についても体得する。最後に、身近な情報システムの安全と保護の問題について学ぶ。

教科書・参考書：未定、講義用プリント毎回配布する。

数 学

教授 兼 岩 龍 二

内容は一変数及び多変数の微分積分でテキストは「現代解析の基礎」(荷見・堀内著、内田老鶴圃)です。予備知識はなるべく仮定しないようにしますが、要点はしっかりと学習して下さい。

5 専門教育科目

マクロ経済学

助教授 加 藤 睦 洋

教科書：中谷巖著「マクロ経済学入門」、日経文庫、日本経済新聞社

統 計 学

教授 本 間 正 義

統計とは何かという基本的な考え方から出発し、まず情報を整理するための統計的手法を述べ、次に限られた情報からより広い母集団についての情報を推測するための理論と方法を講義します。また、統計的手法が経済分析に実際どのように用いられているかについても触れます。

講義内容：

- (1) 統計集団と統計指標 (統計データの型、表とグラフ、平均値と分散、集団の比較)
- (2) 確率と統計 (確率の基礎概念、順列・組合せ、確率分布、標本と母集団)
- (3) 推定の理論と実際 (信頼区間、正規分布と七分布、自由度、推定の実際)
- (4) 検定の理論と実際 (検定仮説、有意水準、検定統計量、検定の実際)
- (5) 相関・回帰分析 (相関係数、回帰方程式、回帰係数の信頼区間と仮説検定)

教科書：D. G. リーズ (好田訳) 『エッセンシャル統計学』見洋書房。

参考書：加納・浅子『入門経済のための統計学』日本評論社。

流 通 組 織 論

(前期) 教授 片 桐 誠 士

(後期) 助教授 伊 藤 一

この講義では、流通と商業にかかわる基礎的な理論をできるだけわかりやすく解説するとともに、歴史の大きな流れを把握することに主眼を置く。すなわち、前半では流通ないし商業を見る視角と理論フレームを学び、後半では流通ないし商業を、歴史的展開の上に位置づけて理解するとともに、その展開過程のなかから流通ないし商業の形態を具体的に規定する要因を見いだすように心がける。

主要な講義項目として以下のことを予定している。

序. 現代経済と流通

1. 商業の機能と構造
2. マーケティングと商業
3. 小売業態の展開と小売構造
4. 消費者行動と小売競争
5. 卸売商業の機能と構造
6. 商業政策の構造

テキスト：石原武政・池尾恭一・佐藤善信著「商業学」(有斐閣Sシリーズ)

なお、参考文献は追って適宜指示する。

経営学原理

教授 篠崎恒夫

I 講義内容

経営学は、企業経営を研究対象とする学問である。企業経営は、資本と労働の動きを軸とした運動であるが、理実には様々な利害関係の動きが蓄積されて今日の企業経営の姿を形成している。講義では、企業経営の歴史的蓄積がどのような法則性の下に進められ、現実にはどのような利害対立をはらんでいるかを明らかにする。

1. 経営学の認識課題
2. 経営学の基礎概念
3. 企業形態の展開
4. 経営管理論の形成
5. ドイツ経営学の生成
6. 近代管理論の展開
7. 人間関係論
8. 経営者行動と経営戦略
9. 経営組織論

II 参考書

今年度も学生の便宜を図ってノートプリント『講義要録』を用いるが、以下に主たる参考書を掲げておく。

稲葉裏『企業経営学要論』中央経済社

橘・大橋編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房

馬場克三『経営経済学』改訂増補版、税務経理協会

中村常次郎・高柳暁編『経営学』第3版、有斐閣

宮川宗弘『経営管理基礎論』日本評論社

簿記論

教授 渡辺和夫

この科目では複式簿記の基本原則を学びます。複式簿記は体系的な記録方法であり、順序立ててひとつずつ確実に理解することが大切です。原理そのものはそれほど複雑な内容ではないのですが、例年、よくわからないという人がかなりいるようです。その原因はおそらく手軽に理解したいと考えるからではないでしょうか。時間をかけて根気よく学習すればだれにでも理解できるはずですが、繰り返し練習し、会計学の基礎となるこの技術をマスターして下さい。

テキスト：久野光朗編著『簿記論講義』（同文館）

参考書：久野光朗編著『簿記論演習』（同文館）

憲法総論

教授 結城洋一郎

「憲法」という法形式が成立する歴史的な過程と意義を学び、わが国の憲法については、

基本的人権を中心に具体的裁判例を参照しながら講義を行う。

講義内容

I 総論

- (1) 憲法とは何か
- (2) 自然権思想と国民主権原理

II 日本国憲法

- (1) 基本的人権の保障
- (2) 平和主義

テキスト：野中俊彦他『憲法I』有斐閣

参考書：総論については、杉原泰雄編『憲法学の基礎概念I』、同『憲法思想』（講座・憲法学の基礎1、4）勁草書房

基本的人権については、小林孝輔編『新版判例教室 憲法』法学書院

民法総論

教授 神田孝夫

民法は、総則、物権、債権、親族、相続の5編からなっています。その中の前3編を財産法と呼ぶのが通例です。夜間主コースの民法の講義ではこの分野を中心にとりあげることとなっていますが、本講義では、そのうち、主として総則、物権編をめぐる問題を考察します。

民法には、それが私法の基礎法であるだけに、他の私法分野の理解のための前提となるいろいろな制度や概念が登場します。のみならず、労働法をはじめとする社会法の分野や、ときには行政法などの公法の分野にも関係のふかい制度や概念も少なからず含まれています。したがって、およそ法律学を学ぼうとするものにとって、民法をよく知ることは不可欠のことといっても言い過ぎではないのです。

基礎法だからといって易しいと考えるのは、とんでもない思い違いです。諸君のほとんどは、民法を学ぶのは、はじめての筈です。中学や高校の授業では、せいぜい家族についての話がある程度で、財産法に関してはまったく聞いていないでしょう。それだけに、耳慣れない用語もたくさん出てきます。同じ言葉でも、日常みなさんが使う意味とは異なる内容をもっている場合も少なくありません。他の学問領域にはみられない独特の考え方がなされるという面もあります。そうした事情から、民法は独学がなかなか困難な分野といっているのです。それだけに、平素、講義にきちっと出席することが非常に大切なことであり、また、民法を自分のものにする早道なのです。このことを肝に銘じて下さい。

教科書 我妻栄・有泉享「民法I総則・物権」（一粒社）

参考書は、開講時に紹介します。

六法全書は、小型のもので結構ですが、講義時に必ずもってくる。小型六法は、有斐閣、岩波書店、三省堂その他から出ています。判例の引用されているものが自習には便利です。

1. 講義内容

今年度の講義は、講義を前期と後期の2期に分け、前期は、「国際司法裁判所」における国際裁判の仕組みについて解説した後、いくつかの判決例を紹介しながら、国際法の基本原則について検討します。後期は、前期でのケーススタディーを踏まえて、「国際社会と法」、「国際法の法源」、「国際法主体としての国家」等について、理論的な検討を行います。

2. テキストおよび参考文献

特定のテキストは、使用しません。参考文献については、その都度指示します。なお、講義中多数の条約を参照しますので、条約集を必ず持参して下さい。小田・石本編、『解説条約集』（三省堂）を推薦しておきます。

3. その他

夜間主コースの「国際法」は、「刑法」と交互に隔年開講の予定ですので、注意して下さい。

管理科学(前期)

基本的に社会計画とその分野におけるシステム分析についてふれる。実例の紹介も行う。以下は、講義の主な内容である。

1. はじめに

1. 1 社会と計画
1. 2 社会計画と計画技術
2. 社会的複合問題と計画情報
3. 計画の分析と評価
 3. 1 システム分析(SA)
 3. 2 システム分析に使われる技術
 3. 3 分析と評価
4. 社会システム分析の研究事例
 4. 1 多様な方法と適用事例
 4. 2 ムハースレ社会分析モデル
 4. 3 都市河川流域の居住環境システムと費用便益

参考文献

加藤修一、「社会計画とシステム分析—計画はいかなる情報形成を経て作成されるか」『現代社会の新社会学』所収(共著)、専門教育社、1992。
 加藤修一、「人口破局と環境問題」『21世紀の展望：人と環境』所収(共著)三共出版(予定)、1993。
 新QC七つ道具研究会編、「やさしい新QC七つ道具—TQC推進のための」、日科技連、

管理科学(後期)

管理科学(マネジメント・サイエンス)はシステム科学と情報科学の二本柱からなるといわれており、この講義では一方の柱であるシステム科学について学ぶ、システム科学は管理科学だけではなく経済学、経営学、社会学、さらに生理学や心理学などまでをもその対象とする横断的な学問である。しかしこれらの分野におけるシステム科学のアプローチはややもすれば還元論的、機械論的になりやすい。これを克服するためには、新しいシステム科学が求められる。本講ではこのような視点から、システムの概念を正確に把握し、社会科学におけるシステム科学の役割を理解することを目的とする。講義は、システム概念とシステム理論を中心に行なう。

開講時に講義に関する資料を配布する(資料は講義時以外では配布しない)ので、履修希望者は必ず出席するように。

教科書：プリントを配布する。

参考書：茅陽一、森俊介『社会システムの方法』、オーム社、(1985)

高原康彦『システム論の基礎』、日刊工業新聞社、(1991)

浅居喜代治編著『現代システム工学の基礎』、オーム社、(1979)

高原康彦、木嶋恭一『経営・情報のための数学入門』、日刊工業新聞社、(1991)

計画数学 I(前期)

線形代数学の基礎的な事柄をなるべく数値例を用いて講義する。すなわち、行列、行列式、固有値、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れることなどである。

まず、高校時代でおもに学習した2次元ベクトル、2行2列の行列を一般のn次元ベクトル、m行n列の行列に拡張し、これらの計算を通じてベクトルの1次独立、行列の階数、ベクトル空間の次元、行列式等の概念を説明し、連立1次方程式の解の構造を調べる。

次に、行列の固有値という一見何の役にも立ちそうもないもの(高校時代から解き慣れている方程式[特性方程式と呼ばれる]の解)を導入する。その後この固有値の数々利用法を行列の三角化、対角化、非負行列のフロベニウス根等の話題を通じて体験する。

教科書：沼田 久、行方常幸ほか著『線形数学(改訂)』(富士書院)

計画数学 II(後期)

基本的には、前期で取り上げた固有値の実例的な適用例について行うが、その具体例は、AHP(階層構造化)法、多変量解析法を紹介しながらふれる。その概要は、以下の通りである。

1. 固有値の実例(計画、解析方面)
2. 固有値とAHP法

2. 1 計画とAHP法（優先順位の設定などの意志決定支援について）
2. 2 AHP法と固有値
2. 3 適用例（実例演習も含む，レポート提出）
3. 固有値と多変量解析法
 3. 1 多変量解析法について（計画情報と当解析法について）
 3. 2 多変量解析法①（判別分析法と適用例）
 3. 3 多変量解析法②（数量化Ⅱ類と適用例）

参考文献

- 沼田久他，「経済・社会・工学・農学系のための線形数学」，富士書院，1989。
 安田三郎，「社会統計学」，丸善，1972。
 河口至商，「多変量解析法Ⅰ，Ⅱ」，森北出版，1973。

組織と情報総論

（前期）助教授 山本 清
 （後期）助教授 持田 泰 昭

本講義は，3年以上の専門課程で組織における意思決定，情報システムの企画，設計，評価及び保全（システム・セキュリティ）を学ぶための基礎的知識を得ることを目的としています。組織における資源はヒト，モノ，カネと情報であると言われて久しくなりましたが，情報を明示的に扱った組織論は未だ不十分です。概念としての取り組みに止まっていてオペレーショナルな段階に到達した経営理論の確立はまだまですし，意思決定要素に定量的ファクターとして組み入れた情報の経済学も組織文化・規範とか人的資源のバリエーションをモデルに内生化しておらず，個々人の合理性（各自の効用最大化）を基本的な前提にしています。したがって，依拠すべき標準理論はありませんが，情報が企業，官庁等の組織で重要な役割を果たしているのは事実ですし，単なる取引記録以上の機能を担っています。これを「情報の解釈過程としての組織」とか「情報の編集過程としての組織」と言う人もいます。しかし，組織と情報の関係を分析し，理解するという目的からは，大きく組織内部における情報（たとえばある投資案件についての分析情報など）の役割は何か及び組織から発せられたり，受け取られたりする情報が外部環境である社会とどのような相互作用をしていくかという2つの側面から把握する必要があります。そこで，組織内部の活動・意思決定を情報分析の観点から説くとともに，組織間及び対社会との活動についても情報の社会的機能に着目して解説していくことにします。具体的には次のような内容を想定していますが，前期は組織の情報論からの解釈を，後期は組織における情報分析・システムの方法論を中心にする予定です。

- 1) 組織とは何か，なぜ存在するのか？
- 2) 組織理論の経緯（バーナード，サイモンからポータまで）
- 3) 情報理論からの組織へのアプローチ（エイジェンシー理論，ネットワーク理論）
- 4) 組織の経済学の進展（取引コスト理論，ゲーム理論，契約理論）
- 5) 組織の経営・管理と情報（経営戦略，業績評価，人的資源管理）
- 6) 政府・非営利組織における経営と情報（官僚制モデル）

- 7) 情報の社会的機能と規制
- 8) 情報化が組織に及ぼす影響
- 以上 前期
- 9) 情報システムのデザイン
- 10) システム開発体制・情報組織（企業内部の）
- 11) システム監査・保全のあらまし
- 12) 経営情報システムの進展（概要）
- 13) 戦略的情報システム（SIS）の展望
- 14) 情報システム投資の分析・評価
- 15) 政府・非営利組織の情報システムの概要
- 16) 情報産業・ソフトウェア産業の組織の現状と課題

以上 後期

教科書 今井賢一他『ネットワーク時代の組織戦略』（第一法規）

参考書 今井賢一他『高度情報社会の戦略と組織』（第一法規）

なお，後期の教科書は未定。

ソフトウェア科学Ⅰ

助教授 中村 隆 志

基本的なパソコン操作法とプログラミング技法を修得することを目標とする。主な内容は次のとおりである。

- ・ワープロソフト（一太郎）による文書作成 3回
 - ・コンピュータの仕組み 2回
 - ・Turbo Pascalによるプログラミング 約10回
- [テキスト] 黒瀬，松尾：「Turbo Pascalプログラミング」，森北出版

ソフトウェア科学Ⅱ

教授 若林 信 夫

表計算ソフトの代表格である，Lotus 1-2-3の基礎から応用を学ぶ。

『Lotus = [ギ神話] ロートス，蓮の実，その実を食べると浮き世の苦しみを忘れ，楽しい夢を結ぶと考えられた』

と辞書にあるように，Lotus 1-2-3は，メモ，表計算，データベース，グラフィックスの機能をもった統合型のソフトウェアである。

実生活で起る，計画，予測，予算投資分析の例題を Lotus 1-2-3を用いて説明する。情報処理センターの実習室で講義と実習を行う。

受講者は，3.5インチまたは5インチのフロッピーディスクを持参のこと。

教科書は，真鍋他「文科系のコンピュータ／応用篇」（岩波書店）か，大澤他「経済経営系の Lotus 1-2-3」（有斐閣）のいずれかを指定する。